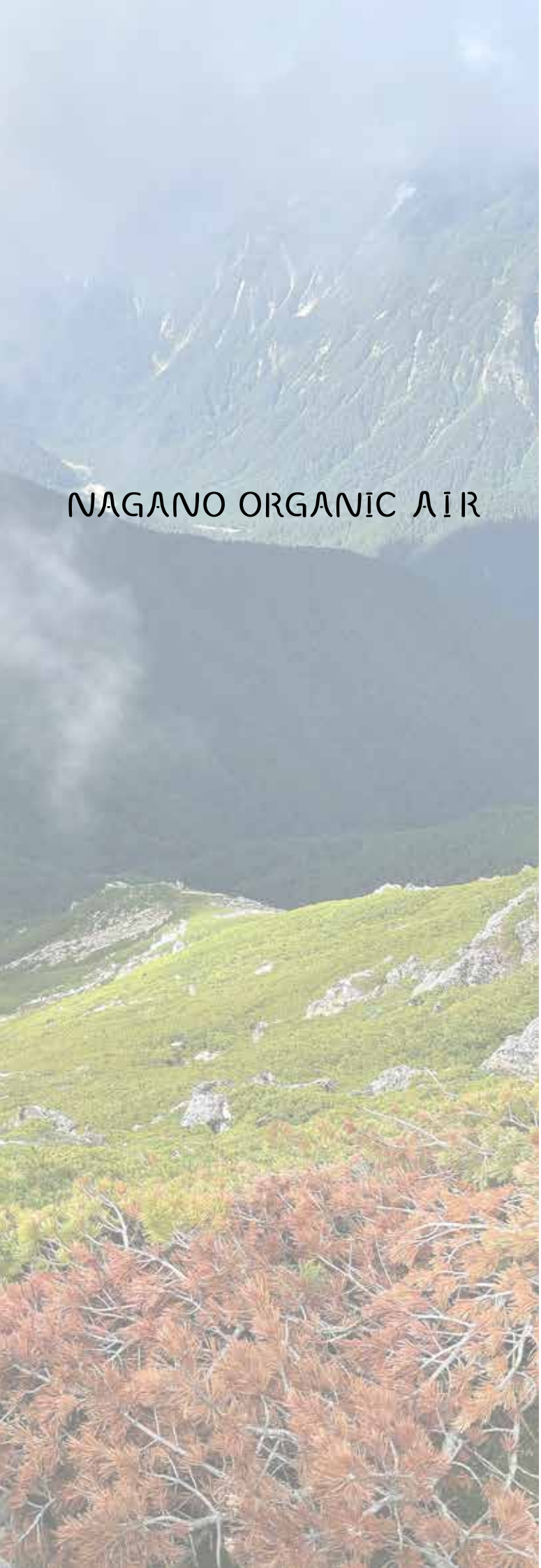
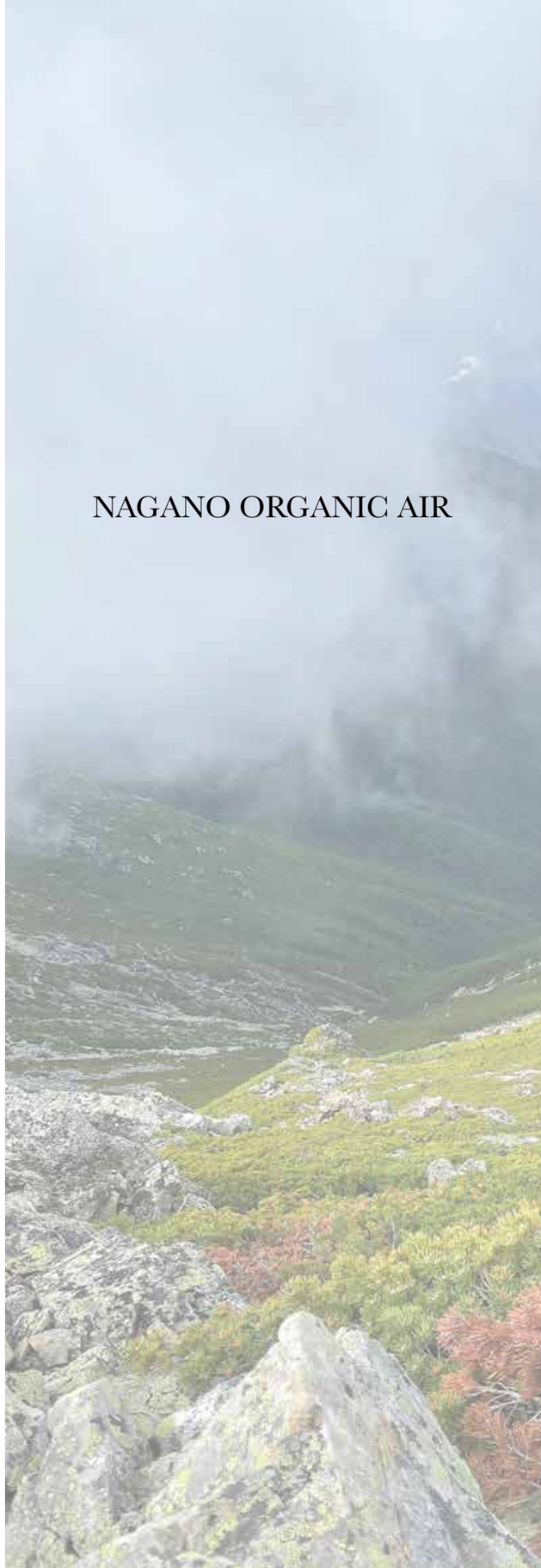

NAGANO ORGANIC AIR

長野県は、平均標高が日本で最も高い地域です。内陸に位置し、周囲を山に囲まれた盆地型の地形から、年較差や日較差、即ち1年や1日の中で最高気温と最低気温の振れ幅が大きい気候となっています。このことが信州の豊かな自然、そして風土、文化に個性を与えています。果物、野菜などは、寒暖差を経験する中で、濃く深い味わいをもっていくとも言われています。

また、長野県は国内随一の長寿県でもあります。ここにも環境の厳しさと穏やかさの幅が関わっているのかもしれません。



長野県でアートを創造する。

NAGANO ORGANIC AIRは、「ORGANIC＝有機的」をキーワードに、長野県内のローカルなエリアにアーティストが滞在し創造活動を行う、アーティスト・イン・レジデンス（AIR）の取り組みです。

「アート」と「長野県」、それぞれがもつ可能性や魅力を耕し、長野県がもつ振幅が、アーティストを刺激し創作に力を与えること、また同時に、アーティストとの交流が地域の新たな展開へと派生していくことを目指して、歩みを始めました。

県内各地域の公立文化施設や文化芸術に関わる民間団体、市町村教育委員会などが「ホスト」となり、滞在するアーティストの活動をコーディネートしながら、そのプロセスのなかで双方向的な協働を行いました。様々な活動目的や属性をもつ各ホストの個性をも地域の文化資源の一部と捉え、アーティストの作家性や創作の方向性との相乗効果を意識してマッチングを行っています。

アーティストに対しては滞在期間中の成果発表を条件とせず、創作意欲を刺激するローカルな営みとの出逢いに焦点を絞りました。結果的には半数以上のアーティストが、地域から受けた刺激を還元するために、何らかの形での成果発表やトライアルとなるような企画を地域で実施してくださいました。

そして今、県内9地域のホスト、参加アーティストの協働により展開された活動を振り返ると、長野県内の各地域がもつ様々な魅力や、アートと地域の関わり合いのポテンシャルが、実に多面的に立ち上がってきているのを印象づけられます。

旧中山道の宿場町や、お寺、神社などの文化財の活用。民俗芸能の継承・復興。美術館や劇場など公・民の文化施設の協働。農業や食との関わり。山岳、歴史文化との関わり。子どもたちの学びとアートの新たな接点づくり。移住や関係人口拡大に向けた試み……などなど。地域がもつ価値や課題とアートの繋がり方の多様さが示されていることがご確認いただけると思います。

２０２１年、長野県産のワイン・日本酒に対し「ＧＩ長野」の指定が認められました。地理的表示（ＧＩ：Geographical Indication）保護制度は、気候・風土など生産地の特性により品質や評価を得た産品に対して、そのブランドを知的財産として保護する制度です。

アートにもＧＩがあるといいかもしれません。

ＮＡＧＡＮＯ ＯＲＧＡＮＩＣ ＡＩＲでは、アートを創造することの可能性を追求するために、ブランドをアピールできるくらいＯＲＧＡＮＩＣに地域と連携する創造の場づくりを進めていきたいと思います。長野県でアートを創造すること、この振幅と協働の空気感が、持続可能な発展を望むこれからのアートとアーティストのあり方にとって、非常に大切な示唆を与えてくれるだろうと思います。そして同時に、アーティストの動きや関わり合いが地域住民の学びを刺激し、自治を勇気づけ、持続的な地域づくりに新たな芽吹きをもたらすものとなることを、期待したいと思います。

アートは今、ＯＲＧＡＮＩＣだろうか。地域は今、ＯＲＧＡＮＩＣだろうか。皆さんと共に持続的な未来の構想する、そのきっかけとして、コロナ禍とともに活動初年度を迎えたＮＡＧＡＮＯ ＯＲＧＡＮＩＣ ＡＩＲのドキュメントブックを、ここにお届けします。

ＮＡＧＡＮＯ ＯＲＧＡＮＩＣ ＡＩＲ
スタッフ一同

NAGANO ORGANIC AIR ドキュメントブック

CONTENTS

001 NAGANO ORGANIC AIR

010 032

飯山
禅と表現 行ったり来たり
柴 幸男 X 飯山市文化交流館なちゅら

012 036

小諸
果樹農園直売所シアター『破戒』
石井 幸一 X わかち座

014 040

軽井沢
倒立と四足歩行の研究・軽井沢編
渡邉 尚 X 信濃追分文化磁場油や

016 044

池田
北アルプス展望ダンスプロジェクト
平原 慎太郎 X 池田町教育委員会

018 048

安曇野
あまるほど踊る安曇野ダンスマッピング
…1[アマリイチ] X 安曇野市教育委員会

「NAGANO ORGANIC AIR」の WEB サイトでは 2021 年度事業の詳細を掲載しています。こちらもあわせてご覧ください。
https://noa.nagano.jp/

NOA WEB TOP

Note WEB TOP

YouTube

020 052

木祖　木曽アート・ダンス留学
武井 琴 X 一般社団法人木曽アーツ
木曽ペインティングス

022 056

茅野
みちのちのダンススケープ
森下 真樹　石川 直樹 X 茅野市民館

024 060

阿南
うた・おどり・ものがたり / NIINO - AIR 2021
山田 百次 X 新野だら実行委員会

026 064

上田　【短期滞在研修プログラム】
生きることとアートの呼吸
～ Breathe New Life

030 070
座談会　アートを通して見えてくる、多面的な地域の魅力
『NAGANO ORGANIC AIR』
プロデューサー：津村卓（長野県芸術監督）
コーディネーター：野村政之（長野県文化振興コーディネーター）
事業担当：藤澤智徳（(一財）長野県文化振興事業団）

074
戯曲『破戒』
戯曲『新野物語』

088
滞在カレンダー　各プロジェクト参加者数　メディア掲載情報一覧　各地域の取り組みリーフレット　WEB アナリティクス
あとがき

「NAGANO ORGANIC AIR」のロゴはアイコ美術工藝社さんがデザイン。「アーティストが長野県の自然や文化に触れて生まれる躍動感やエネルギーをイメージしてデザイン」とのこと。
https://aikobijutsukogeisha.com/

禅と表現 行ったり来たり

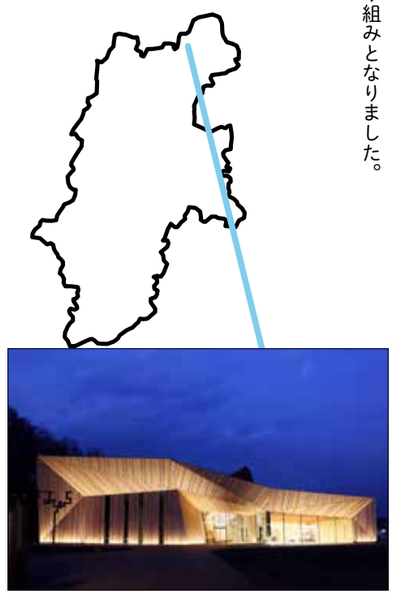
レジデントアーティスト

柴 幸男
Yukio Shiba

劇作家、演出家、ままごと主宰。多摩美術大学専任講師。劇場から船上まで、学芸会から工場見学まで、場所や形態を問わない演劇活動を全国各地で行う。2010年『わが星』で第54回岸田國士戯曲賞を受賞。近年は小豆島や横浜、台湾に長期滞在し地域に根ざした演劇を継続的に上演。2014年より『戯曲公開プロジェクト』を開始、戯曲を無料公開し多くの上演機会を設けている。

飯山では、劇作家・演出家の柴幸男さんが滞在。飯山市や周辺地域のリサーチを経て柴さんが着目したのが、名刹・正受庵。真田信之の子・道鏡慧端が開き、臨済宗中興の祖・白隠慧鶴が修行した聖地で、禅の公案に着想を得た企画を行いました。公案とは禅の修行の一種で、例えば、雲水（修行僧）は老師から「両手を打つと音が出るが、片手ではどんな音が出るか」等の問いを与えられ、それに対する答えを探っていきます。

7月と10月の3日間にわたり、「禅の発想をもとにした3日間＋αの表現ワークショップ『禅と表現 行ったり来たり』」を開催。何らかの表現活動に携わる参加者10名とともに、公案への答えを探っていきました。正受庵にて座禅体験、法話を聴講し、禅の思想について学んだ後、参加者同士でそれぞれの表現を互いに発表。＋αの修行期間にそれぞれの表現を通して公案に取り組み、10月末に正受庵の住職・和尚立ち会いのもと最後の成果発表会を実施しました。加えて、今回の取り組みをきっかけにして、正受庵の皆さんが市街で行う托鉢の際に飯山文化交流館なちゅらのロビー（ナカミチ）を歩くのが慣例となるなど、ユニークな取り組みとなりました。



ホスト

飯山市文化交流館なちゅら

飯山市の文化芸術の拠点として「文化交流館なちゅら」は2016年にオープンしました。自然の木材とコールテン鋼の壁がトレードマークです。昔からいる人も、新しくやってきた人も、みんなが文化を通して交流できる、道のような、広場のような、あたらしい「場所」として歩んでいます。また、新幹線飯山駅に近く、近隣市町村や県内外からのアクセスに恵まれ、大自然と人と伝統文化が出会うにぎわい創出の場としての役割も担っています。

10月に開催した『禅と表現行ったり来たり』の成果発表会の様子。

①3月16日（火）～17日（水）
飯山リサーチ①＆栄村訪問

滞在初回は、飯山市街地を歩いてリサーチするとともに、飯山から足をのばして、10年前、東日本大震災の翌日に起きた長野県北部地震で甚大な被害があった栄村を訪問。震災復興祈念館・絆などを見学し、当時の被災状況や復興のあゆみについて学びました。

②4月4日（日）
飯山リサーチ②＆正受庵訪問

午前中は、ホストである飯山市文化交流館なちゅらの職員で、自らも稲作を手がける池田春彦さんのご案内のもと、飯山市木島の農業用水路を見学。午後は、正受庵にて横山和尚のお話をお聞きしました。この正受庵との出会いが、7月のWS開催へとつながっていきます。

③5月1日（土）
飯山リサーチ③

正受庵は主に寄付や托鉢をもとに運営しており、和尚さんが声をあげながら飯山市街を巡回すると、地域の皆さんが通りに出てきて喜捨をします。正受庵と市民の繋がりを知るために、托鉢に同行・見学をさせていただきました。

④7月3日（土）
『禅と表現 行ったり来たり』WS①

ワークショップ1日目は、正受庵での座禅体験と、小菅住職・横山和尚による禅の思想や公案についての講話を実施しました。参加者の方はみなメモを取りながら、禅と自分の表現活動がどう関係するのかを考えているようでした。

⑤7月4日（日）
『禅と表現 行ったり来たり』WS②

ワークショップ2日目は、会場を飯山市文化交流館なちゅらに移し、参加者同士でそれぞれが普段、どのような表現活動を行なっているのか共有しました。フルートや小説、茶道やカリギュラフィなどジャンルは多彩。前日の正受庵での学びをもとに、このあと各自で修行に励みました。

⑥10月30日（土）
『禅と表現行ったり来たり』成果発表会

約4ヶ月間の修行期間を挟み、正受庵で成果発表会を開催しました。小菅住職、横山和尚のお立ち合いのもと、修行の成果をそれぞれ披露。小説を書き上げてくる方や、新曲を作ってくる方など、参加者それぞれが4ヶ月間、じっくりと自分の表現に向き合ったことが見てとれました。

果樹農園直売所シアター『破戒』

レジデントアーティスト

石井 幸一
Koichi Ishii

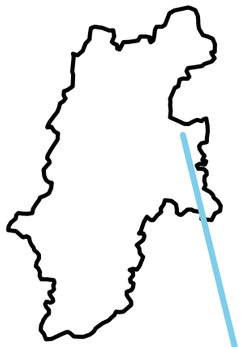
1979 年生。演出家、梨農家。鎌ヶ谷アルトギルドと一徳会の主宰者。梨農園を創作活動の拠点とし、古典から近代・現代の戯曲、横溝正史などの推理小説の舞台化を行っている。（一財）舞台芸術財団演劇人会議主催『利賀演出家コンクール 2007』にて優秀演出家賞を受賞。アジア演出家フェスティバル 2013 の日本代表に選出される。近年の主な演出作は『孤島の鬼』（原作：江戸川乱歩）、舞台『ACCA13 区監察課』（原作：オノ・ナツメ）、鎌ケ谷市民創作劇『東海道四谷怪談』（作・鶴屋南北）など。千葉県鎌ケ谷市在。

小諸では、ブルーベリー農家で劇作家でもある黒岩力也さん（わかち座）がホストとなり、千葉県の梨農家で演出家でもある石井幸一さんが滞在しました。この2人が今回着目したのが、小諸市ゆかりの文豪・島崎藤村が書いた小説『破戒』。黒岩さんが『破戒』の戯曲化に挑み、これを石井さんが演出して、ブルーベリー農園に設けた仮設劇場で発表したのが、今回の「果樹農園直売所シアター『破戒』」のプロジェクトです。

7月の試演会では、地元・小諸高校演劇部を出演者に迎え30分の短編演劇を上演。晴れわたった真夏の青空の下、たわわに実ったブルーベリーをつまみながらの野外公演となりました

この試演会をもとに、黒岩さんがさらに戯曲をブラッシュアップ。10月は一般公募の出演者12名が出演してリーディング公演を開催し、完成した『破戒』の戯曲をブルーベリーガーデン黒岩直売所にて披露しました。

果樹農家の跡取りとして家業を継ぎつつも、直売所を仮設劇場に変転させ”破戒“的な演劇に取り組む黒岩さんと石井さん。農業と演劇の新たな関係性を垣間見ることができた、唯一無二のプロジェクトとなりました。



ホスト

わかち座

パフォーマーの司白身が主宰する劇団。制作は劇作家の黒岩力也。舞台表現を制作する場や繋がりを創造する事を目的に、長野県小諸市御影新田にある直売店（ブルーベリーガーデン黒岩）を拠点にして活動しています。

7 月 31 日（土）に行われた果樹農園直売所シアター『破戒』試演会の様子。写真：武者輝

⑤10 月 9 日（土）
『破戒』リーディング公演 顔合わせ

8、9 月は石井さんの梨の収穫が最盛期ということでプロジェクトは一時休止。この間も、黒岩さんと石井さんの間では『破戒』戯曲の長編化に向けやりとりが重ねられました。その戯曲をもとに、10 月にはリーディング公演を開催。9 日（土）には公募した出演者 12 名との初顔合わせが行われました。

③7 月 24 日（土）～30 日（金）
『破戒』試演会 稽古

7 月 24 日（土）からは 31 日（土）の試演会本番に向けて本格的に稽古が始動。鎌ヶ谷アルトギルドのメンバーも続々と小諸入り。熱中症に気をつけながら、真夏のブルーベリー畑を舞台に、鎌ヶ谷アルトギルドとわかち座、そして小諸高校演劇部との協働創作がはじまりました。

①3 月 27 日（土）～28 日（日）
小諸市内リサーチ

滞在初日の 27 日（土）は小諸市中心部をリサーチ。藤村記念館等を訪問し、島崎藤村の足跡を辿りました。翌 28 日（日）はブルーベリーガーデン黒岩直売所にて「ながの演劇ネットワーク・ミーティング」を開催。長野県内の演劇関係者と共に AIR の可能性について議論しました。

⑥10 月 24 日（日）
『破戒』リーディング公演 本番

10 月 9 日（土）、23 日（土）の 2 回の稽古を終え、24 日（日）には早くもリーディング公演本番を迎えました。石井さんの演出プランに刺激をうけた黒岩さんが農業資材を組み合わせて作った仮設劇場の中で、石井さんの演出によって、果樹農園直売所シアター『破戒』という名に相応しい、壮大な劇の世界が立ち上がりました。

④7 月 31 日（土）
『破戒』試演会 本番

『破戒』試演会の本番当日は天気にも恵まれ、絶好の野外演劇日和となりました。夏のそよ風に揺れる青々とした稲を背景に、ブルーベリー畑での濃密な 30 分間の舞台上演でした。開場中と終演後には、会場内のブルーベリーを摘むお客様も見られました。© 武者輝

②7 月 4 日（日）、18 日（日）
高校生との WS

7 月 4 日（日）は小諸高校演劇部と石井さんとの初顔合わせ。小諸高校は顧問の松﨑先生と部員の計 5 名が参加。鎌ヶ谷アルトギルドからは俳優の鈴木正孝さんも参加し、鎌ヶ谷アルトギルドの訓練方法を小諸高校演劇部へ教え込む WS となりました。

倒立と四足歩行の研究・軽井沢編

レジデントアーティスト

渡邉 尚
Hisashi Watanabe

身体研究家 / サーカスアーティスト。20 歳から独学でジャグリング、倒立、軟体芸を始め、ダンサーを経てサーカスアーティストになる。高い身体能力と独自の哲学を盛り込んだ作風が高く評価され、これまでに 15 ヵ国以上のフェスティバルに出演。2016 年 TOYOTA choreography Award ファイナリスト。2017 年スペインの MASDANZA にてカナリア芸術協会賞、オーディエンス賞、ラ・ゴメラ振付センター賞をトリプル受賞。 2018 年エルスール財団新人賞受賞など。写真：Elsa Okazaki

軽井沢では、身体研究家／サーカスアーティストの渡邉尚さんが、旧中山道追分宿にある信濃追分文化磁場油やを拠点に映像作品を制作しました。

当初は、浅間山麓の山道や獣道、また街道を四足歩行で闊歩し、各スポットで倒立を行う予定でしたが、5月・8月いずれの滞在期間中も雨が降り続いていたため撮影が困難に。予定を変更して、長野県芸術監督団事業（美術分野）『シンビズム』展に参加している学芸員の宮下真美さん（軽井沢ニューアートミュージアム）と中嶋実さん（小海町高原美術館）にご相談したところ、各美術館で開催中の展覧会場で渡邉さんのパフォーマンスを撮影させていただくことができ、美術作品とコラボレーションした素晴らしい作品が生まれました。

また、5月の滞在時には信濃追分文化磁場油やを会場に「カラダのことがよくわかるようになる倒立ワークショップ」を開催。老若男女多様な方が参加し、倒立を通して自分の身体を見つめ直すよい時間となりました。

ホスト

信濃追分文化磁場油や

「信濃追分文化磁場油や」は、本とアート、音楽、演劇などの文化的活動を行っている「NPO 油やプロジェクト」の拠点です。「油や」は、江戸時代は中山道・追分宿の脇本陣でした。そして明治以降は「油屋旅館」として多くの文人・知識人たちが執筆などに利用した歴史ある宿です。「油や」は旅館であったことから現在でも昭和の建物に宿泊することができアーティスト・イン・レジデンスなど、様々なアーティストの方が滞在して活動の拠点にしています。

小海町高原美術館にて倒立する渡邉尚さん。

①5 月 22 日（土）、23 日（日）
倒立ワークショップ

5 月 20 日(木)に軽井沢入りされた渡邉さん。滞在 3 日目の 22 日（土）にはさっそく「カラダのことがよくわかるようになる倒立ワークショップ」を開催しました。渡邉さんとアシスタントの儀保桜子さんの指導のもと、下は 5 歳から上は 60 代まで、幅広い年齢層の方々が倒立に取り組みました。

②5 月 26 日（水）
ほっちのロッヂ訪問

倒立ワークショップの参加者の方からご案内いただき、軽井沢町の診療所「ほっちのロッヂ」を訪問しました。軽井沢の緑の中に建てられた診療所でも文化施設でもある「ケアの文化拠点」に渡邉さんも興味津々。8 月には滞在もさせていただきました。

③8 月 21 日（土）～22 日（日）
映像撮影@軽井沢ニューアートミュージアム

8 月の滞在は連日あいにくの天気模様のため、屋内での映像撮影を模索。『シンビズム』展に参加している宮下真美さんが学芸員をつとめる軽井沢ニューアートミュージアムにて、世界的アーティストであるロナルド・ヴェンチューラ氏の展示空間で撮影させていただきました。

④8 月 17 日（火）、２４日（火）
映像撮影@小海町高原美術館

『スズキコージの大魔法画展』が開催されていた小海町高原美術館でも撮影をさせていただきました。安藤忠雄氏設計の特徴ある空間で、渡邉さんが幼少の頃から大ファンだったスズキコージ氏の作品とコラボレーションしたパフォーマンス映像を制作。かけがえのない時間となりました。

⑤8 月 24 日（火）
振り返り会

全滞在日程を終え、ホストの斎藤尚宏さん、祐子さんにもご同席いただき、滞在の振り返り会を実施。追分での滞在を「静かで情報量が少なく、創作に集中できる環境」と振り返った渡邉さん。美術館での撮影も大きな刺激になったようで、NOA が自身の活動の大きな転機になったことが伺えました。

⑥9 月 24 日（金）～10 月 17 日（日）
『渡邉尚さん映像展示@信濃追分文化磁場油や』

渡邉さんが軽井沢への滞在中、信濃追分文化磁場油や、軽井沢ニューアートミュージアム、小海町高原美術館で撮影した映像を信濃追分文化磁場油やにて上映しました。

池田

北アルプス展望ダンスプロジェクト
NORTH ALPS VIEWING DANCE PROJECT

レジデントアーティスト

平原 慎太郎
Shintaro Hirahara

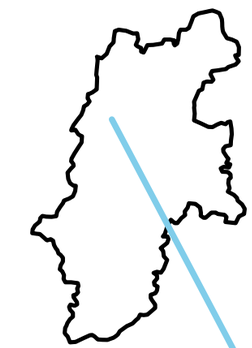
1981年北海道生まれ。ダンサー、振付家、ダンスカンパニー【OrganWorks】を主宰。ダンス作品の制作、演劇作品、現代美術家、ミュージシャンなど他分野のアーティストへの作品提供多数。2013年文化庁新進気鋭芸術家海外研修派遣にてスペインに9ヶ月研修。2015年小樽市文化奨励賞受賞。2016年トヨタコレオグラフィーアワードにて次代を担う振付家賞、オーディエンス賞をW受賞。2017年日本ダンスフォーラム賞受賞。2020年TOKYO2020オリンピック開閉会式振付担当。

池田では、ダンサー・振付家の平原慎太郎さんが滞在制作を実施。北アルプスの裾野に広がる池田町をリサーチする中で、「地元作家との交流」「伝統芸能との交流」「子ども達との交流」の3つの視点から、興味深い取り組みが発展していきました。

「地元作家との交流」として、池田町を拠点に世界中の芸術祭などで活躍するアーティスト千田泰広さんとのコラボレーションが実現。松本PARCO屋上に展示されていた千田さんの作品『BROCKEN 5』でダンス映像作品を撮影しました。

「伝統芸能との交流」としては、池田町広津の楡室神社の獅子舞の復興に取り組む信州大学の宮田紀英さん・加藤なぎさんと協働。広津地域が辿ってきた歴史や神楽のお囃子を教えていただいたほか、ダンスのクリエイションにも参加していただきました。

「子ども達との交流」では、池田町教育委員会と協働し、会染小学校、池田小学校で、「アーティスト・イン・スクール」として出張アトリエを実施。休み時間や放課後に児童が平原さんの創作現場を訪れ、アーティストと交流に発展するなど、学校とアートが関わり合う新たな試行となりました。



ホスト

池田町教育委員会

池田町は、北は大町市、南は安曇野市、東は生坂村、西は高瀬川をはさんで松川村に接する人口9,623人の小さな町です。江戸時代からの伝統文化を大切にし、町のいたるところからは安曇野の田園風景と北アルプスの22もの美しい峰々が望める、風光明媚で空気のおいしい町です。稲作が盛んで酒蔵が2つあります。年間を通じて降雨量が少なく、近年は「北アルプス・安曇野ワインバレー特区」に認定され、ワイン用ぶどう栽培も盛んで、良質なワインが生まれています。

池田町広津で獅子舞の復興に取組む宮田さん・加藤さん（中央手前）との一枚。

①3月12日（金）
池田町リサーチ①

滞在初回は池田町内各所をリサーチ。北アルプスと安曇野～松本平が一望できるあづみ野池田クラフトパークを出発点に、浅原六朗文学記念館（てるてる坊主の館）や文化財資料館などを訪問し、池田町の自然や文化について学びました。

②6月20日（日）～21日（月）
池田町リサーチ②

池田町広津地区、信州大学の皆さんが中心となって古民家を改修した交流拠点「無明荘」で、宮田さん・加藤さんから楡室神社の獅子舞復興や過疎地域の活性化について話をお伺いしました。また、千田泰広さんのアトリエを見学し、当地でのアーティスト活動などについて対話しました。

③9月13日（月）～19日（日）
『BROCKEN 5』撮影

松本市美術館×松本PARCO「パルコ de 美術館」で展示された千田さんの空間芸術作品『BROCKEN 5』でダンス映像作品の撮影を実施しました。天井と壁の無数の穴から光が降り注ぐ空間が、平原さんに大いに刺激を与え、3日間の短い撮影期間で、素晴らしい映像作品が仕上がりました。

④10月12日（火）～14日（木）
アーティスト・イン・スクール@会染小

滞在最終回となる10月は、池田町内の小学校2校で「アーティスト・イン・スクール」を実施。プレイルームを創作のアトリエとしてお借りして、池田町での平原さんの経験をモチーフに、ダンボールでできた巨大獅子頭など、子ども達が身体を使って遊べる空間を制作しました。

⑤10月15日（金）
アーティスト・イン・スクール@池田小

池田小で1日だけの「アーティスト・イン・スクール」を実施しました。朝からアート作品を設営し、昼休みには子ども達の遊び場となり賑わいました。子どもがアート作品の独自の遊び方を発案したり、アートの自由な場が想像力を開放する様子を感じ取ることができました。

⑥10月16日（土）
池田町広津での映像撮影

滞在最終日は再び広津地区へ。毎年10月上旬に楡室神社の例祭が開かれ、ここで奉納の獅子舞が実演されるのですが、令和3年は例祭も獅子舞も中止となりました。平原さんは、宮田さん、加藤さんと話し合いながら、奉納の試みとして神社の舞台でお囃子の様子を撮影しました。

あまるほど踊る安曇野ダンスマッピング

レジデントアーティスト

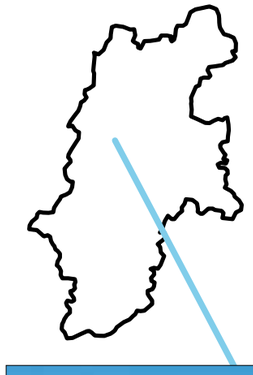
...1[アマリイチ]
amariichi

斉藤綾子と益田さちによるダンスユニット。2015年夏に結成。関西を拠点に活動している。主な作品に『...1[アマリイチ]』(2016年)、『punk・tuate[パンク・チュエイト]』(2018年)、『うちそと』(2018年)などがある。クラシックやJ-POP、洋楽などジャンルに囚われない様々な音楽で踊る。2人一緒に同じ振付を踊る「ユニゾン」が持ち味。2021年長野県芸術監督団事業「NAGANO ORGANIC AIR」で安曇野市に複数回滞在し、『うちそと駅伝』や新作公演『イチニタスアヅミノノ』を発表。

安曇野では、関西のコンテンポラリーダンスシーンにおいて注目を集めるダンスユニット「...1[アマリイチ]」を迎え滞在制作を実施。ホストである安曇野市教育委員会の手厚いコーディネートにより、安曇野市全域を縦に横に身体をフルに使って駆けまわる「あまるほど踊る安曇野ダンスマッピング」のプロジェクトが展開されました。6月には「安曇野をダンスでつないで往復する駅伝型公演『うちそと駅伝』」を開催。

6月5日(土)、6日(日)の2日間、実際に自分の足で歩きながら(時には自転車で)、安曇野市内の公園や美術館、ホールなど様々な場所でダンスを披露しました。また、それに引き続き8月には北アルプスは常念岳への登頂を果たしました。

滞在の集大成となる11月には「安曇野でつくる新作ダンス公演『イチニタスアヅミノノ』」を開催。会場となった穂高会館講堂全体を安曇野市に見立て、安曇野での滞在から着想を得た振付を披露しました。滞在中も直売所に通い、地場産の食材を仕入れ自ら調理するなど、五感をもちいて安曇野を味わったアマリイチにしかできないダンス公演となりました。



ホスト

安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会(文化課文化振興担当)は、市民が芸術文化に親しむ機会を設けるため文化事業を担当。若手音楽家を発掘する新進音楽家オーディションや安曇野出身の映画監督の熊井啓作品の上映会などを開催。また、市民との協働により早春賦音楽祭や信州安曇野薪能などの文化イベントを実施してきた。豊科近代美術館・高橋節郎記念美術館・田淵行男記念館など、市内の美術館を管理。2021年には書籍「安曇野風土記Ⅳ安曇野の美術」を刊行。

『うちそと駅伝』」復路、豊科近代美術館前庭で踊る様子。

②6月5日(土)〜6日(日)
『うちそと駅伝』

“安曇野をダンスでつないで往復する駅伝型公演”という触れ込みのもと開催された「うちそと駅伝」。徒歩と自転車で、往路と復路計12時間の道のりをダンスでつないで完走しました。2日間、11カ所の公演でのべ約200名のお客様にご覧いただきました。

①2月15日(月)〜16日(火)
安曇野市内リサーチ

滞在初日の15日(月)は穂高地区の秀太郎工房とアトリエ宇を訪問。翌16日(火)は2月の寒空の中、レンタサイクルで市内の道祖神を見て回りました。この時自転車で市内をあちこち巡った経験が、6月のうちそと駅伝へとつながっていきます。

③6月25日(金)〜7月15日(木)
『うちそと展』

『うちそと駅伝』のアーカイブ展を穂高交流学習センター「みらい」にて開催。『うちそと駅伝』の写真や映像のほか、アマリイチの2人が身につけていた衣装も展示しました。「みらい」での展示の終了後は、三郷交流学習センター「ゆりのき」でも巡回展示しました。

④8月4日(水)〜5日(木)
常念岳登山

8月は1泊2日のスケジュールで安曇野のシンボル常念岳に登山。山頂付近では、北アルプスゆかりの曲「アルプス一万尺」を流して新作ダンスを披露。『うちそと駅伝』で安曇野の“広さ”を味わったアマリイチが、安曇野の“高さ”を存分に味わう時間となりました。

⑤11月19日(金)
『0歳からのミニコンサート』

安曇野市教育委員会の主催で定期的に開催されている『0歳からのミニコンサート』にアマリイチが出演。安曇野市在住のピアニスト・寺島美紀さんの演奏に合わせ、「きらきら星変奏曲」「さんぽ」などのダンスを披露し、会場を沸かせました。

⑥11月23日(火祝)
『イチニタスアヅミノノ』

安曇野滞在の成果公演として穂高会館講堂にて上演。講堂の空間全体に、安曇野市の地図を描くように、高瀬川で拾ってきた石を配置。観客は移動しながら、安曇野をモチーフとしたダンスを鑑賞し、最後は全員で安曇節を踊って終了。最後の滞在にふさわしい華々とした公演となりました。

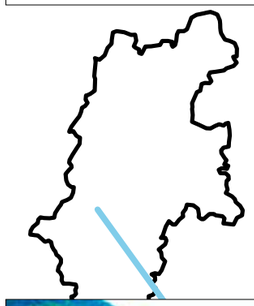
木曽アート・ダンス留学

レジデントアーティスト
武井 琴
Koto Takei

神奈川県出身。立教大学 現代心理学部 映像身体学科卒業。幼少よりクラシックバレエをはじめ、大学在学中より、テーマパークに就職。パフォーマーとして３年間の勤務を経て、文化庁・NPO法人 DANCEBOX 主催「国内ダンス留学@神戸５期」に参加。その後、ダンスとコマ撮りアニメーションを融合させた映像制作に取り組み、亀山トリエンナーレ 2017 では宿場町を舞台にした作品でアワード受賞。北軽井沢を拠点に創作活動を続けている。写真：Koichi Wakui

木祖では、ダンサー・振付家・コマ撮り映像作家の武井琴さんが、「木曽ペインティングス」が展開されている木祖村薮原を拠点に滞在制作を実施。「木曽アート・ダンス留学」と名付けた今回のプロジェクトでは、木曽街道各所にてコマ撮りダンス映像を撮影して回り、完成した映像作品は「木曽ペインティングスｖｏｌ．05」の開催に合わせ、木祖村向畑地区の土蔵にて公開展示しました。

普段、群馬県長野原町で暮らす武井さんが、木祖村で地域と関わりながら持続可能なアート活動を展開する（一社）木曽アーツと木曽ペインティングスと協働しながら、地域からダンスやアートに取り組む可能性を探る、学びと発見に満ちた滞在となりました。



ホスト
一般社団法人木曽アーツ

一般社団法人木曽アーツは、昨年７月にリニューアルオープンした「義仲館」の管理・運営をしています。そして今年からは、木祖村と連携し空家意向調査を実施して参ります。４軒に１軒が空家となっている薮原宿の街道ですが、悲観的に捉えず、所有者の方の意向を一軒ずつ確かめながら方法を導き、循環をしてゆけれるように努めていきます。地域の歴史や伝承を繋ぎながら、またこの土地で暮らす人々と協力をしながら地域づくりをしていく・実践をしていくカンパニーです。

ホスト
木曽ペインティングス

山に囲まれた信州木曽谷を拠点に地域で営まれる生活や資源とともにアートを育んでいく芸術祭「木曽ペインティングス」を毎年一回開催しながら、持続可能なアートの姿を目指し、地域の歴史や景観を守りながら地域の資源や人材を活かしたアートプロジェクトを進めています。地域の生活の中からアートを文化として育てていくことが私たちの使命です。

９月に実施したコマ撮り映像作品『きそきそ円舞曲』の撮影チーム

⑤９月７日（火）～13 日（月）
コマ撮りダンス映像撮影

９月はコマ撮り映像作品『きそきそ円舞曲』撮影のための滞在。ダンサーの泰山咲美さん、カメラマンの藤村友弥さんも合流し、味噌川ダムや薮原宿等の木祖村内はもちろん、開田高原や奈良井宿でも撮影を敢行。１週間という短い期間ではありましたが、充実した滞在となりました。

③７月 10 日（土）～11 日（日）
お面制作

木祖小学校２年生を対象にお面の絵付けとコマ撮り映像の WS を開催。開催に先立ち、木曽ペインティングスの岩熊さんご指導のもと、薮原祭の獅子舞と天狗をモチーフにしたお面を制作しました。武井さんの奮闘もあり、なんとか生徒人数分を作り上げることができました。

①３月 22 日（月）～24 日（水）
木祖村内リサーチ

３月は木祖村内のリサーチをメインとした滞在を実施。武井さんは愛犬マグとともに、薮原宿にある元旅館を改装したアーティスト・イン・レジデンス施設「藤屋レジデンス」に宿泊し、味噌川ダムや芸術祭の会場となった空き家を見て回りました。

⑥10 月 23 日（土）～11 月７日（日）
『武井琴 コマ撮り映像展』

10 月 23 日（土）から始まった「木曽ペインティングス vol.05」の開催に合わせ、木祖村向畑地区の土蔵にて 『武井琴 コマ撮り映像展』を開催。９月に撮影した『きそきそ円舞曲』の映像上映のほか、撮影で使用した衣装や７月の WS 時に子供たちに絵付けしてもらったお面を展示しました。

④７月 12 日（月）
木祖小学校 WS

この日は WS の本番日。１限目は図工室でお面の絵付け。ホストの岩熊さん、大沢さんも生徒の指導に参加してくださり、賑やかな時間となりました。２限目は絵付けしたお面を手に持ち、コマ撮り映像の撮影を実施。撮影した映像は後日生徒さんのもとへ届けられました。

②７月７日(水)～10 日(土)
薮原祭リサーチ

例年７月に開催される薮原地区の例祭・薮原祭の開催に合わせ滞在。例祭の様子はケーブルテレビのみでの配信となりましたが、木曽アーツの大沢さんの引き合わせのもと、薮原祭の担い手である下獅子八幡倶楽部の高柳政次さんにお話をお伺いしました。

みちのちのダンススケープ

レジデントアーティスト

石川 直樹
Naoki Ishikawa

1977 年東京生まれ。写真家。東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。2010 年『CORONA』（青土社）により土門拳賞、2020 年『まれびと』（小学館）、『EVEREST』（CCC メディアハウス）により日本写真協会賞作家賞を受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』（集英社）、『地上に星座をつくる』（新潮社）ほか多数。

レジデントアーティスト

森下 真樹
Maki Morishita

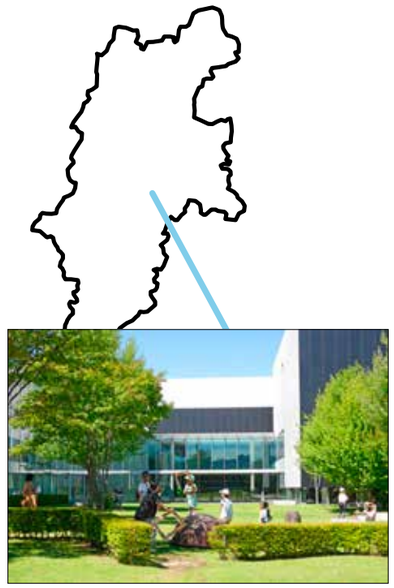
幼少期に転勤族に育ち転校先の友達作りで開発した遊びがダンスのルーツ。これまでに 10 か国 30 都市以上でソロ作品を上演。様々な分野のアーティストとコラボし活動の場を広げる。2013 年現代美術家 束芋との作品『錆からでた実』を発表し第 8 回日本ダンスフォーラム賞を受賞。2017 年より自身のソロ「ベートーヴェン交響曲第 5 番『運命』全楽章を踊る」（振付：MIKIKO、森山未來、石川直樹、笠井叡）を展開。
写真：石川直樹

茅野では、ダンサー・振付家の森下真樹さんと写真家の石川直樹さんが滞在、茅野市民館がホストとなり、諏訪湖～八ヶ岳にまたがる諏訪地域一帯のリサーチをもとに、創作を行っていきます。

このエリアは、御柱祭で知られる諏訪大社・諏訪湖周辺の古代から続く歴史文化、八ヶ岳山麓、尖石遺跡や井戸尻遺跡などに象徴される縄文文化など、深みある文化があふれる特異な場所です。

初年度となる今年は、地域の全般的なリサーチと並行して、住民の方々とアーティストが知り合い、交流するための集いを重ね、クリエーションに向けた最初の下地づくりを丁寧に行いました。次年度には御柱祭も予定されており、八ヶ岳縦走登山など予定して今回実施できなかった活動も含め、取り組んでいく予定です。

約10年ぶりに茅野市民館並びに地域住民の皆さんとダンスでコラボレーションする森下真樹さんと、世界各地の山岳に登り、様々な地域の民俗文化に眼差しを向けてきた石川直樹さん。2人がコンビを組み、「未知の茅野」を探りながら新たな発想で創りだされる「みちのちのダンススケープ」の今後の展開に、期待が高まります。



ホスト

茅野市民館

八ヶ岳山麓の高原都市、茅野市にある茅野市民館は、茅野市美術館を併設し、劇場・音楽ホール、市民ギャラリー、図書室など多様な機能を合わせ持ち、JR 茅野駅に直結した文化複合施設です。「市民一人ひとりが主人公になれる場」の理念のもと、基本構想から市民が直接参加してつくられました。 様々な表現やアートに親しみ、文化をつくり、人々が集う地域の交流拠点を目指しています。

3 月のリサーチで訪れた藤森照信氏設計の『空飛ぶ泥舟』。

①3 月 10 日（水）～ 13 日（土）
諏訪・八ヶ岳地域リサーチ

諏訪大社上社、諏訪市博物館、旧御射山遺跡、藤森照信さん設計の建築群などの諏訪文化に関わる様々なスポットを訪問し、また尖石や井戸尻の考古館などで縄文文化のリサーチを行いました。最後は、春近い諏訪湖で森下さんが踊り、石川さんが撮影。当地での創作がスタートしました。

②4 月 15 日（木）
御頭祭見学

諏訪大社上社の神事「御頭祭」を見学するため、森下さんが日帰りで茅野を訪問。午前は上社本宮の例大祭を見学したほか、下社春宮・秋宮を訪問。午後の御頭祭では、上社本宮から前宮への神輿行列にも随伴。太古から続く諏訪の歴史を一身に感じた 1 日となりました。

③6 月 30 日（水）
『みちのちのダンススケープ
“ はじめの一歩 ” のサロン。』

「みちのちのダンススケープ」の取組を市民の方々に紹介し、一緒にプロジェクトを進めていくためのキックオフサロンを開催。3 月、4 月の滞在の模様を紹介するとともに、森下さん、石川さんとのオンライントークも実施し、“ はじめの一歩 ” にふさわしい賑やかな時間となりました。

④7 月 21 日（水）～ 22 日（木祝）
『What is『みちのちの』？
～知られざる茅野を語ろう会』

7 月は森下さんが茅野に滞在。21 日（水）は、市民の方からそれぞれがオススメする「みちのちの＝未知の茅野」スポットをお聞きし、翌 22 日（木祝）は森下さんがその数カ所を訪れ、魅力を体感。午後には訪ねて回った「未知の茅野」を素材に、森下さんによるダンス WS を開催しました。

⑤11 月 11 日（木）
石川直樹トークイベント
『虹のヘビと八ヶ岳』

夏、八ヶ岳に登るとともに山麓の縄文文化のリサーチを重ねていた石川さんのトークイベントを、茅野市民館で開催しました。オーストラリア先住民アボリジニの文化との対比など、石川さんならではの視点から語っていただき、普段住んでいる皆さんにも新鮮な気づきがある時間となりました。

⑥11 月 12 日（金）
森下真樹ダンスワークショップ ver.
『虹のヘビと八ヶ岳』

トークイベント翌日には森下さんのダンス WS を開催。客席を八ヶ岳に見立てて登山するなど、石川さんの写真やトークから着想を得た WS を展開しました。石川さん・森下さんそれぞれの視点からみた “ 八ヶ岳 ” を自分のカラダをとおして体験する贅沢な時間となりました。

うた・おどり・ものがたり／NIINO-AIR 2021

レジデントアーティスト

山田 百次
Momoji Yamada

10代より青森を拠点とする劇団、弘前劇場で俳優活動を始める。2008年から活動拠点を東京に移し、津軽弁を多用する劇団を立ち上げ、作・演出・出演を行う。その後、劇団青年団の俳優、河村竜也と演劇ユニット、ホエイの活動を開始。2018年『郷愁の丘ロマントピア』で第63回岸田戯曲賞最終候補ノミネート。また津軽弁による一人芝居『或るめぐらの話』を全国各地で行っている。

阿南町新野は「新野の盆踊り」や「新野の雪祭り」（いずれも国指定重要無形民俗文化財）など、伝統文化の魅力を受け継いでいる地域です。ホストとなった「新野だら実行委員会」の金田信夫さん、金田渚さんもその担い手であり、さらに、地域の伝統文化を子どもたちに伝え長く継承していくために、山村留学や移住を支援する活動も草の根で行っています。こうした地域の状況を踏まえて、「アーティスト・イン・レジデンスの取り組みを通して、新野の文化的な魅力を発信していく」ことを目標に、今回の企画は立ち上げられました。

この新野に滞在したのが、青森や北海道、サハリンをリサーチした演劇作品を創作してきた山田百次さんです。ホストの皆さんの積極的なコーディネートを受け、山田さんは新野の様々な文化や歴史をリサーチ。「新野の盆踊り」を題材に、盆唄におさめられた古くからの新野の人々の営み、そして独特の死生観を反映した短編戯曲『新野物語』を執筆しました。新野、津軽の方言を用い、地域の人々の情感をとらえた上演は、観客・関係者の心を掴み、今後の活動継続を望む熱い声が聞かれました。地域の人々との様々な出逢いが、まさに有機的に結びつき、魅力的な作品に発展した取り組みとなりました。

ホスト

新野だら実行委員会

地域親和型アートイベント『新野だら』実行委員会は、「南信州の山村へアートの風を」をテーマに、ボランティアによるプロデュースを行ってきました。名刹瑞光院を舞台に、新野に所縁のあるアーティストを中心に2018年は、演劇「TeaArrow」、切り絵パフォーマー「チャンキー松本」とストーリーテラー「物語屋」による影絵劇、2019年は、スチールパンと横笛、アフリカンダンス「サブニュマ」、ビオラダガンバ「品川聖」等にご出演いただきました。また、地元カフェや菓子店により、お茶の時間も楽しんでいただいております。

11月に開催した短編演劇『新野物語』の様子。

①4月17日（土）～18日（日）
初顔合わせ＆阿南町新野リサーチ①

新野の雪祭りが行われる神社や、盆踊り会場を訪問。阿南町農村文化伝承センターでは、交通の要衝だった旦開村時代からの新野の歴史文化をたっぷり解説いただきました。最後に町立図書館で民話や盆唄の資料を調達。山田さんも驚く濃密な出逢いとなりました。

②5月15日(土)～16日(日)
阿南町新野リサーチ②

ホスト・金田信夫さん、渚さんによる盆踊りWSを体験。またこの頃から、滞在先のまるはち旅館・坂井保俊さんに盆唄のもつ奥深さを教えていただくようになりました。さらに「新野だら」の会場である瑞光院や、近隣の阿南町和合、売木村を訪問しました。

③6月17日（木）～20日（日）
阿南町新野リサーチ③

関西から売木村に移住し、地域おこし協力隊として活動している俳優・小原華さんを金田信夫さんが紹介してくださり、創作活動の仲間が増えました。山田さんは毎月新野を訪れながら、新野の盆踊りと独特の死生観に着目した『新野物語』を書くことに決めていきました。

④8月16日（月）～21日（土）
『新野物語』稽古①

短編演劇『新野物語』の稽古が開始されました。まずは山田さんが執筆した戯曲の言葉を、金田信夫さんの指導のもとで新野の方言に言い換えていきます。少し昔の新野を舞台とした物語が徐々に立ち上がっていきました。

⑤10月4日（月）～7日（木）
『新野物語』稽古②

9月は出演者がそれぞれ台詞を覚える期間とし、10月は滞在初日から立ち稽古を開始。30分という短い作品ではあるものの、慣れない方言の台詞回しに悪戦苦闘。その都度金田信夫さんにも方言指導をつけてもらいながら、11月の上演を目指していきました。

⑥11月7日（日）
『新野物語』本番

4月から毎回滞在させていただいた、まるはち旅館を会場に『新野物語』の初上演が行われました。津軽から旅の途中、新野で行き倒れになった男、盆唄・盆踊りで男を弔う新野の人々の姿…心打つ芝居に満場の拍手喝采。終演後のトークでは、観客から再演を望む声が上がりました。

上田

【短期滞在研修プログラム】

生きることとアートの呼吸 ～Breathe New Life

上田では、（一社）シアター&アーツうえだがホストとなり、10月に短期滞在研修プログラム「生きることとアートの呼吸 ～Breathe New Life」を実施。公募により選出された10名の参加者とともに、県内で開催された展覧会や芸術祭等を鑑賞したほか、NAGANO ORGANIC AIRの実施地域を巡りました。

犀の角を滞在の拠点に、北は長野市から南は木曽町まで延べ12市町村25ヶ所を訪問。NOAの実施地域ではアーティストやホストとの交流も図るなど、鑑賞にとどまらない多様な研修体験となりました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、急遽予定を変更し、参加者を3～4名ごとに分散させての開催となりましたが、その分参加者同士の交流も盛んで、学びが深い滞在となりました。

和田 ながら
Nagara Wada
演出家・したため主宰
写真：守屋友樹

鄭 禹晨
Ushin Tei
編集者

私道 かぴ
Kapi Shido
劇作家・演出家
写真：山下裕英

唐川 恵美子
Emiko Karasawa
ほっちのロッヂ
文化環境設計士
写真：清水朝子

大宮 大奨
Daisuke Omiya
ダンサー・振付師・
俳優・映像作家

渡邊 遥
Haruka Watanabe
大学助手

横山 彰乃
Ayano Yokoyama
ダンサー / 振付家

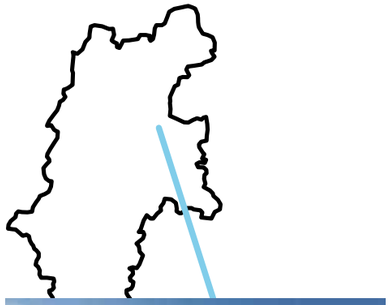
髙橋 ありす
Alice Takahashi
大学生

久保田 舞
Mai Kubota
ダンスアーティスト

岡澤 由佳
Yuka Okazawa
大学生

主な訪問先

長野市立博物館、善光寺、長野県立美術館、ネオンホール、松代象山地下壕（長野）、犀の角、上田映劇、ブックカフェNABO、無言館、別所神社、『月灯りの移動劇場』（上田）、『天空の芸術祭』（東御）、『PHOTO KOMORO』、「果樹農園直売所シアター『破戒』」、茶房 読書の森（小諸）、信濃追分文化磁場油や（軽井沢）、信濃大町あさひ AIR、『北アルプス国際芸術祭』（大町）、池田町立池田小学校（池田）、安曇野ちひろ美術館（松川）、安曇野市豊科近代美術館（安曇野）、上土劇場、『FESTA 松本』（松本）、『木曽ペインティングス vol.05』（木祖）、義仲館（木曽）ほか。



ホスト

（一社）シアター＆アーツうえだ

上田地域の活性化と芸術文化振興に寄与することを目的として 2015 年に設立、18 年法人化。上田市海野町商店街に劇場、スタジオ、カフェ、ゲストハウスを備えた民間文化施設「犀の角」をオープン、様々な表現活動や地域住民・アーティストの交流の場として運営している。「上田街中演劇祭」や「犀の夜」など、現代演劇にとどまらず様々なジャンルのアーティストらとの文化事業を企画運営。近年は、自前の稽古場や宿泊施設を生かしたアーティストインレジデンス事業や、子どもや若者を対象とした地域社会が担うクラブ活動「うえだイロイロ倶楽部」、生き辛さを抱えた女性が気軽に泊まれる宿「やどかりハウス」など街中での新たな居場所づくりなどに力を入れている。

演劇

2016/2017
芸術監督団事業スターティング 公演 空中劇場『遥かなるブルレスケ〜とんだ茶番劇〜』
上田市（上田市交流文化芸術センター）
『K. テンペスト 2017』
伊那市（長野県伊那文化会館）
長野市（長野市芸術館）
飯山市（飯山市文化交流館なちゅら）

2018
トランクシアター・プロジェクト
『或いは、テネシーワルツ』
飯綱町（むれ温泉天狗の館 旧やまぼうし）
辰野町（白鳳山瑞光寺）
大町市（ギャラリー麻倉）
上田市（犀の角）
須坂市（塩屋醸造土蔵ホール）
佐久穂町（旧㋡黒澤醤油店）
伊那市（高遠町地域間交流施設）
『Man ist Man』
長野市（ホクト文化ホール）
伊那市（伊那文化会館）

2019
トランクシアター・プロジェクト
『月夜のファウスト』
上田市（犀の角）
佐久市（sakumo 佐久市子ども未来館）
安曇野市（あづみのコミューンチロル）
飯田市（長野県飯田創造館）
伊那市（伊那西小学校）
飯綱町（いいづなアップルミュー ジアム）
松本市波田（松本市波田公民館）
飯山市（飯山市文化交流館なちゅら）
軽井沢町（信濃追分文化磁場油や）
茅野市（信州八ヶ岳長寿寒天館）
松本市安曇（松本市安曇保育園）

2020
『そよ風と魔女たちとマクベスと』
松本市（まつもと市民芸術館）
茅野市（茅野市民館）

音楽

2016
蓼科高原みずなら音楽祭
茅野市（蓼科フォーラム / 茅野市民館）
なちゅら音楽祭「コバケンとその仲間たちオーケストラ in 飯山」/ レクチャーコンサート
飯山市（飯山市文化交流館なちゅら）

2018
なちゅら音楽祭「コバケンとその仲間たちオーケストラ in 飯山」/ レクチャーコンサート / 出前授業 / ミニコンサート
飯山市（飯山市文化交流館なちゅら / 飯山小学校 / 秋津小学校 / 戸狩小学校 / 東小学校 / 飯山赤 十字病院）

2019
コバケンとその仲間たち音楽祭 in 須坂
「コバケンとその仲間たちオーケストラ in 須坂」/ レクチャーコンサート / 出前授業
須坂市（須坂市文化会館メセナホール / 長野養護学校すざか分教室 / 須坂小学校 / 須坂支援学校 / 常盤中学校 / 県立信州医療センター）
飯山市（飯山市文化交流館なちゅら / 泉台小学校）
弦の調べレクチャーコンサート
飯田市（飯田創造館）

2021
長野・スペシャルコンサート 2021 / スクリーンコンサート / 出前授業
長野市（ホクト文化ホール）
伊那市（伊那文化会館）
須坂市（高甫小学校）

美術

2016
本江監督講演会「ミュージアム・ ネットワークの可能性」
松本市（キッセイ文化ホール）

2017
シンビズム _1
東御市（丸山晩霞記念館）
諏訪市（諏訪市美術館）
木曽町（御料館）
長野市（信州新町美術館）

2018
シンビズム _2
東御市（丸山晩霞記念館）
辰野町（辰野美術館）
安曇野市（安曇野市豊科近代美術館）
須坂市（須坂版画美術館）

2020
シンビズム _3
安曇野市（安曇野髙橋節郎記念美術館 旧髙橋家住宅主屋・南の蔵）
上田市（上田市立美術館）
中野市（一本木公園展示館 / 中野小学校旧校舎・信州中野銅石 版画ミュージアム）
茅野市（茅野市美術館）

2021
シンビズム _4
上田市（上田市立美術館）
安曇野市（安曇野市豊科近代美術館）

長野県芸術監督団事業クロージングシンポジウム
2021 年 12 月 16 日（木）
ホクト文化ホール
芸術監督団に関わってきた演者や作家、運営スタッフが各分野ごとに、これまでの事業を振り返り、成果や課題、今後への期待などが話されました。NOA からは小諸の黒岩力也さん、司白身さん（わかち座）と石井幸一さん（鎌ヶ谷アルトギルド）が登壇しました。写真：田中慶

長野県芸術監督団事業

長野県では、2015 年度を「文化振興元年」とし翌年 4 月には一般財団法人長野県文化振興事業団に串田和美（演劇）、小林研一郎（音楽）、本江邦夫（美術）、津村卓（プロデュース）の 4 人の文化芸術の専門家を迎え「長野県芸術監督団」を設置いたしました。 芸術監督団の事業により県民の文化芸術への関わりを一層深め、県内の文化創造活動を活発化し、国内のみならず世界にとって魅力あるプログラムを企画・提言・実施し、県内の文化事業全体の底上げを図ってまいりました。NAGANO ORGANIC AIR はプロデュース事業の一環として開催されました。
長野県芸術監督団事業実施事業一覧（主な実施事業のみ掲載）

プロデュース

2019
日本劇作家大会 2019 上田大会
上田市（サントミューゼ / 犀の角 / 上田映劇 / まちなかキャンパ スうえだ / ほか）

2021
『NAGANO ORGANIC AIR』

飯山　禅と表現 行ったり来たり
柴 幸男 X 飯山市文化交流館なちゅら

小諸　果樹農園直売所シアター『破戒』
石井 幸一 X わかち座

軽井沢 倒立と四足歩行の研究・軽井沢編
渡邊 尚 X 信濃追分文化磁場油や

池田　北アルプス展望ダンスプロジェクト
平原 慎太郎 X 池田町教育委員会

安曇野 あまるほど踊る安曇野ダンスマッピング
...1[アマリイチ] X 安曇野市教育委員会

木祖　木曽アート・ダンス留学
武井 琴 X 一般社団法人木曽アーツ、木曽ペインティングス

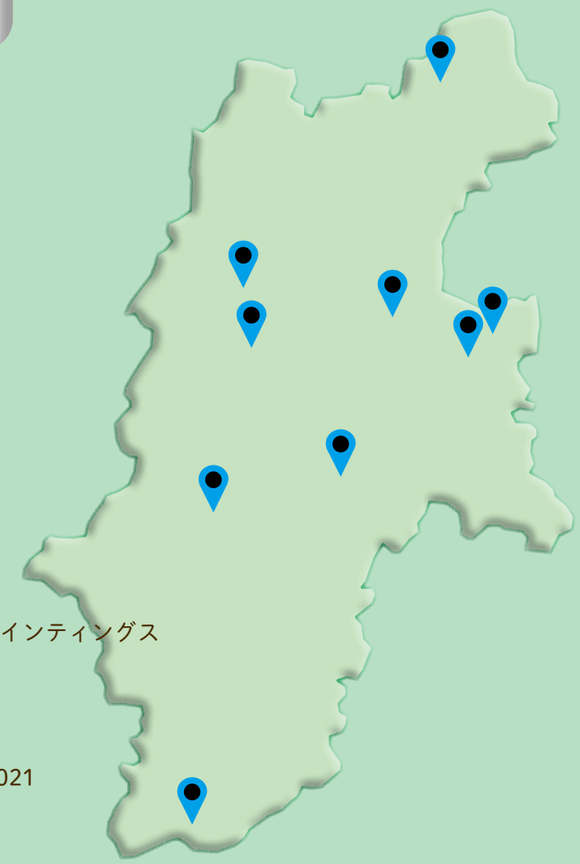
茅野　みちのちのダンススケープ
森下 真樹　石川 直樹 X 茅野市民館

阿南　うた・おどり・ものがたり / NIINO - AIR 2021
山田 百次 X 新野だら実行委員会

上田　【短期滞在研修プログラム】
生きることとアートの呼吸〜 Breathe New Life

NAGANO ORGANIC AIR とは

「NAGANO ORGANIC AIR」は、様々なジャンルで活躍するアーティストが、長野県内の各地域に滞在し、創造活動を行うアーティスト・イン・レジデンス（AIR）の取り組みです。「ORGANIC ＝有機的」をキーワードに、公立文化施設や地域の文化芸術団体、教育委員会などがホストとなり、地域での創作のプロセスをコーディネートしながら、アーティストとの双方向的な協働を試みます。
信州の豊かな自然や歴史文化、子どもたちの学びの場、食や農など、創作意欲を刺激するローカルな営みとアーティストの出逢いを種に、長野県におけるアートの創造活動の可能性を育み、地域に有機的に広げ、持続的な環境づくりに繋げていきます。



長野県文化芸術情報発信サイト
「CULTURE.NAGANO」に掲載
れた記事を転載。

アートを通して見えてくる、多面的な地域の魅力『NAGANO ORGANIC AIR』

テキスト：いまいこういち　座談会写真：三宅祐司

皆さんは、「アーティスト・イン・レジデンス」（AIR）という言葉を聞いたことがありますか？アーティストが一定期間、ある地域に滞在し、地域との交流を通じて創作活動などを行う取組のことを言います。長野県では、平成27（2015）年度を「文化振興元年」とし、県内のさらなる文化振興を図るため、平成28（2016）年4月に一般財団法人長野県文化振興事業団に演劇や音楽、美術、プロデュースの芸術分野の専門家からなる「長野県芸術監督団」を設置しました。

芸術監督団の一人、プロデュース分野の津村卓（つむらたかし）監督の企画により、令和3（2021）年度に実施されたのが『NAGANO ORGANIC AIR』（ナガノ オーガニック エア）です。「ORGANIC＝有機的」をキーワードに、アーティストとホスト（受入者）が地域で協働し、「アート」と「長野県」のそれぞれがもつ可能性や魅力を新たに掘り起こし、発展させていくプロジェクトです。令和3（2021）年度は9地域で実施されました。この事業に取り組んできた3名の皆さんにお集まりいただき、取組の内容や長野県内におけるAIRの可能性について、語っていただきました。

［座談会参加者］
プロデューサー：津村卓さん（長野県芸術監督）
コーディネーター：野村政之さん（長野県文化振興コーディネーター）
事業担当：藤澤智徳さん（一財）長野県文化振興事業団）

アーティストとホストの関係性を強く結んでこそ、互いが刺激をし合える

長野県芸術監督団事業（プロデュース分野）『NAGANO ORGANIC AIR』（以下NOA）はどのような経緯でスタートしたのでしょうか。

津村
長野県芸術監督団では、各分野の芸術監督が、どんな事業を行うか会議を重ねてきました。僕は「創造する県を目指しましょう」というお話をさせていただく中で、自分がプロデュースするならAIRがいいだろうと思っていたんです。アーティストが地域に入り、歩き回り、人々と交流し、地域の様々な魅力に触れた時に、また別の何かが起こるのがAIR。長野県の風土や歴史、自然、野菜や果物などのように環境から生まれてくるものと、アートがうまく結びつくのではないかという思いがあったんです。また県内には多様なお祭りや伝統芸能があり、ここでも何かが起こせるのではないかと考えました。それがスタートです。そして平成30（2018）年10月に野村さんが長野県文化振興コーディネーターに就任され、芸術監督団事業、特にAIRに深く関わってくださった。『NOA』と名付けてくださったのも野村さんです。

阿南 うた・おどり・ものがたり / NIINO - AIR 2021（山田百次）短編演劇『新野物語』のワンシーン。

野村さんはどのように事業を組み立てていったのでしょうか。

野村
仮タイトルが『演劇版アートキャンプ』で、県内約10地域で演劇やダンスのアーティストが滞在制作を行うというコンセプトは最初からありました。当初から津村さんがおっしゃっていたのが「アーティストが地域で作品を見せたり、ワークショップをしたりして、地域の方たちが畑で作った野菜や果物をお返しするような関係があってもいい」ということです。それで、長野県の自然の豊かさや食物の美味しさ、地域との有機的な交流を表すキーワードとして「ORGANIC」という言葉が相応しいと思いました。

滞在制作とは言え、『NOA』では、必ずしも完成作品の発表を求めていませんでした。その狙いはなんだったのでしょうか？

野村
私自身がアーティスト側のメンバーとして芸術祭に参加して、地域に3週間滞在し、最後に作品の発表をするという形でのAIRの経験が何回かありました。その時に毎回、地域のことを知りたいと思いながら、創作作業を優先するためにスタジオに籠りきりになってしまうジレンマを体験していました。『NOA』では、これを踏まえて、地域のことを知ったり、地域住民の側からアーティストへの関わりも芽生えてくるように、事業の構成を工夫しました。

上田【短期滞在研修プログラム】生きることとアートの呼吸　北アルプス国際芸術祭にて。

70ページに続く

飯山

禅と表現 行ったり来たり

柴 幸男 X 飯山市文化交流館なちゅら

水路と座禅をめぐる日帰り滞在

3 月 16 日（火）は栄村の震災復興祈念館・絆や栄村歴史文化館･こらっせを訪れ､震災関連のリサーチ。4 月 4 日（日）、17 日（水）は、飯山市文化交流館なちゅらの池田春彦さんのアテンドのもと、市の中心部に。飯山市天神堂の天満宮、農業用水など見学後、正受庵へ。

NOA WEB にて以下の記事（一部リンク）が掲載されています。あわせて御覧ください。

- ■ note 禅と映画と菜の花と
- ■ note 水路と座禅をめぐる日帰り滞在
- ■ note【「禅と表現 行ったり来たり」1 日目
- ■ note 個性的な表現者たち（ワークショップ 2 日目）
- ■ note「禅と表現 行ったり来たり」してみた発表会

このプロジェクトの大きな功績はまず、「禅」と「表現」とを結びつけたところにあると思われます。そこに至った経緯をお話しするにはまず、滞在アーティストである柴幸男さんの作家性について触れなければならないでしょう。

柴さんは他の誰もが思い付かないような斬新なモチーフを持ってくる作家ではなく、「家族」「人の成長」「星」というような、誰でも知っている、でも当たり前すぎて意識されていないようなテーマに取り組んでこられた方です。だからと行って日常のリアリティを追求するわけでもなく、どこか現実から少し浮いているような不思議な世界観の中、気がついたら自分の深いところにずっと前からあった感情を掘り起こしてくれる。柴さんの作品にはそんな魅力があると思っています。

そんな柴さんが、寺の町、飯山に滞在して「禅」、中でも「公案」（いわゆる禅問答）に着目されたのは、今となっては自然なことだったという気がしています。修行僧は老師から「公案」という「問い」をもらう。「公案」というのはまたやっかいなもので、「仏とは何か」「自由とは何か」など、簡単に答えられないものばかりなのです。しかも、いわゆる論破というのでしょうか、頭だけで考えたような論理でもって答えようとすると老師からすぐに「やり直し」と言われてしまうそうです。何度も何度も老師に突き返されながらも、修行僧たちはあの手この手で答えを探し、中には言葉ではなく身体を使って問いに答える人もいると和尚から伺いました。「自分が脚本を書くプロセスと似ている気がする」と柴さんがおっしゃった時には驚きましたが、例えば柴さんの代表作『わが星』を例に挙げますと、「星の一生とは何か」というテーマ設定、場を安直に宇宙にするのではなく、とある家庭に定めて描いていくなどの工夫がされた手法、なるほど禅問答のプロセスにそっくりだと腑に落ちたのでした。「公案という問いをもらって何か表現を創る、ということをやってみたい」というユニークなアイデアは、柴さんだからこそ生まれたものだと言えます。

「公案を元に自分の表現と向き合ってみませんか?」という見たことのない誘い文句のワークショップに、初めはそんなに応募は来ないだろうと思っていた我々でしたが、定員を越える応募に驚かされました。そして集まった表現ジャンルの多様さにさらに驚かされることになりました。

禅体験
横山禅師から仏教について、禅宗について教わり、座禅体験。座禅の組み方、座禅堂への入り方のレクチャーを受け、実際に座禅を組みます。

1 日目、ファシリテーターの柴幸男さんから、今回の企画についてお話があった後、2 グループに分かれて自分の普段の活動や、参加の動機など、話されました。そして会場を正受庵に移します。

禅の発想をもとにした 3 日間 ＋α の表現 WS 『禅と表現 行ったり来たり』

7 月 3 日（土）「禅を体験する・知る」
7 月 4 日（日）「自分の表現と向き合う」
飯山市文化交流館なちゅら・正受庵

2 日目、なちゅらに集まり参加者がお互いの表現活動について紹介。小説、水墨画家、書道、フルート演奏、俳優、イラスト、カリギュラフィ、茶道という様々なジャンルの方々が集まった。

正受庵
飯山市にある臨済宗の寺院。長野県史跡。臨済宗中興の祖・白隠慧鶴 の師である道鏡慧端（正受老人）が終生を過ごした庵。禅道場としても有名。（飯山市大字飯山 1871）

長野県芸術監督団事業「NAGANO ORGANIC AIR」地域交流プログラム
主催：（一財）長野県文化振興事業団、長野県
共催（飯山地域）：飯山市、飯山市教育委員会

禅の発想をもとにした3日間＋αの表現WS
『禅と表現 行ったり来たり』成果発表会

10月30日（土）共有する
最終日。まずは正受庵にて座禅。7月のワークショップ以来、各々が自分の表現と向かい合ってきた。

書道の高嶋真由美さんの『千字文』。中国の梁という王朝の時代に作られた千字から成る漢文の長詩を書き上げた。

茶道を続けて60年の浦野さん。生活に関わる全てのことが茶道の中にあって、多くのことを学ばせてもらったのこと。

演劇で参加の蔭山あんなさんのパフォーマンス＆展示。「井の中の蛙」ということわざに着目し、「蛙」を放流する、というパフォーマンス。

俳優の五十嵐優さん。自身で書いてこられたとあるテキストをパフォーマンスしてくださいました。

柴幸男さんの新作戯曲を読む。

最終日不参加の水墨画家の水口さんの作品。

フルート奏者の渡辺幸絵さん。自身で作曲してきた「雪、ひとひら」という曲を演奏。

小説で参加の田中ヒロオさん。7月のWSで話題になった場所を巡って、その時見た風景や感じたことを元に作品を書いたそう。

演劇だけでなく、小説、書道、音楽、絵、茶道。表現とはこんなにも多様なものであったのかと、改めて参加者の方々に教わりました。今思い返しても、不思議なワークショップだったな、という感想が一番に浮かんで来ます。教える、教えられるという構図が本当に存在しませんでした。表現ジャンルがバラバラなのですから当然ですよね。他人の表現にひたすら耳を傾ける。そこに自分との関連性があったのか、なかったのか、本人同士のことなのでわかりませんが、ただひとつ、表現に対する「真摯さ」で繋がっていたことは確かです。それぞれの「真摯さ」があるからこそお互い興味を持って耳を傾け合える、尊重し合える、そんな気持ちの良い場が自然に生まれ、切磋琢磨ではなく、お互いを通して自分の現在地を確かめるような時間となりました。参加者のうちのお一人が「自分一人じゃないんだなって思えた」という感想をおっしゃって、他の方々も頷いていた光景が印象に残っています。

ワークショップがそのような場になったのには、公案は「答えはひとつじゃない」のと同時に「どんな答え方をしても良い」という、禅の考え方が大きく影響しているのではないかと思っています。この大らかさは、本当は表現の世界にも言えることであるはずです。なのに、活動を続けていくうちに「こうしなければならない」という枷がどんどん付いてきてしまう。いつの間にか固くなってしまった頭や心を緩める、参加者の方々にとってそんな機会になったのではないでしょうか。他ジャンルの表現者との交流も固定観念を緩めるのに一役買ったに違いありません。

今回もなちゅらを普段利用しているという方がお二人参加してくださいましたが、飯山だからこそ、正受庵があったからこそ生まれたこのワークショップが、なちゅらを通して飯山の人々にもっと共有されていき、豊かな人生を作っていくことを期待しています。

（文・加藤亜弓）

Q　NOAに取り組んでみて
これまで訪れたことのなかった飯山という土地を長く、深くリサーチできたことは非常に楽しかったです。最終的に飯山ならではのワークショップが開催できたことにも満足しています。

Q　新たに得た気づきは？
様々な媒体の表現とワークショップを通して出会うことができたのはとても面白い経験でした。また表現方法は違えど同じ「禅」という課題に取り組むことができたことも驚きでした。

Q　取り組めたこと
スケジュールやコロナの影響で、冬の飯山を見られなかったことが悔やまれます。四季を体感してみたかったと思っています。

Q　これからのこと
以前に滞在したことのある長野市にまた滞在したいという希望があります。

柴幸男

Q　NOAに取り組んでみて
柴幸男さんが、何回にもわたり地域を精力的に歩いてくださったことをとてもうれしく思いました。そして、禅寺の正受庵に行きつき、表現活動をなさっている参加者のみなさんと、共通の「公案」を通じて向き合うことで、それぞれの表現活動に色々な影響を与えたように感じられました。
日々、自らと向き合い問い続けることが修行である禅は、禅そのものが表現であり、禅の修行は生活そのものだということを実感しました。生きることと表現とはそもそも表裏一体であって切り離すことはできないものであり、自問自答を繰り返すなかで姿を現してくるのが「表現」なのだろうと思わされたWSでした。

Q　取り組めたこと
出された「公案」については相談や話し合いはできないので、極めて個人的な修行となったようです。自分と向き合い、自問自答し、どのように表現を深めるか否かは自分次第という、参加者にとっては孤独な作業になったと思われます。コロナ禍のためできなくなっていた、寺での一泊修行などできていれば、また違ったWSも可能になっていたかもしれません。

飯山市文化交流館なちゅら
（担当：池田　春彦）

小諸

果樹農園直売所シアター『破戒』
石井 幸一 X わかち座

NOA WEB にて以下の記事（一部リンク）が掲載されています。あわせて御覧ください。

■ note 小諸市滞在日誌①　■ note 石井幸一さん滞在 2 回目
■ note ブルーベリー畑で本読みしてみた。
■ note『破戒』試演会 ~ 稽古編 ~ ■本番編 ~
■ YouTube『破戒』試演会【ダイジェスト】
■ YouTube『破戒』試演会【千曲川スケッチ】
■ note 秋の風吹く果樹園で「破戒」読んでみた
■ note 果樹農園直売所シアター『破戒』リーディング公演開催！

小諸・リサーチ

3 月 27（土）・28 日（日）　市内リサーチ
「ながの演劇ネットワーク」を開催。
6 月 13 日（日）会場リサーチ。俳優の鈴木正孝さん、照明の染谷和彦さん来訪。上演場所の下見と採測、照明関係の電源の確認。

アーティスト・イン・レジデンスはそもそも、「ある地域」にアーティストが一定の期間、滞在することが基本となっているためその地域とどう関わってゆくかが何より大事な要素となります。特別、小諸地域の滞在は他地域に比べると、ごく”局地的“な地域滞在であったと言えます。それは滞在アーティストである石井幸一さんの言葉にも表れています。「ほぼ、ここ（ブルーベリーガーデン黒岩）にしか居ない」。夏の試演会のために滞在した時に、石井さんがブルーベリーガーデンで牛のお面を作りながら呟いていました。確かに、石井さんはＮＯＡの滞在として初めていらっしゃった際、「小諸城址懐古園」や「大手門」などを見学された以外は２０２０年３月から、２０２１年10月の最後の滞在まで、全て、この農園での活動となりました。炎天下のブルーベリー畑で高校生と稽古をしたり、凍てつくような強い風の吹き付ける中、ホストの黒岩力也さん手製の風除けの付いた半野外劇場で読み合わせをしたりと、この直売所にて濃密な時間を過ごされました。

この期間、この農園にとって、そして黒岩さんにとってもおそらく大きな転換点となったのではないかと想像します。このＮＯＡに関わるまでのブルーベリーガーデン黒岩は、独自の演劇活動を続けながらも、上演機会は少なく”演劇的に“地元住人へ向けて開けているとは言い難い場だったと

小諸高校ＷＳ

ブルーベリー畑で本読みしてみた。

7月4日（日）
今回上演の「破戒」に小諸高校演劇部に参加してもらうことに。さっそく石井さんの主催する劇団、鎌ケ谷アルトギルドで行われている「鈴木メソッド」という自身の身体を知るためのワークを高校生たちが体験。13 時から始まった WS ですが、2 時間半ほどは体のトレーニングが中心でした。「破戒」の中で重要な位置付けで登場する ” 牛 ”。この「牛」を身体を使ってデッサン。

劇団かもしかもなか
長野県小諸高等学校演劇部改め、劇団かもしかもなか。『もしかしたら』私たちに『しか』できない『かも』しれない『なにか』に、手を伸ばし続けていきたいから。現在は３年生３名、1 年生１名で活動している。（2021 年 7 月現在）

言っても過言ではありません。果樹農園の直売所で演劇をやっているという、特殊な状況を近隣の方へ向けて、また県内の演劇人へ向けて発信できたのは、今回、小諸高校との試演会や小諸・佐久地域、更には県内の演劇に興味を持つ方々とのクリエイションがあってこそだったと言えます。

小諸高校とのクリエイションは、地元へのアプローチを考えたときに、学生や若い層との繋がりを持つことで地域の演劇界の活性化につながるのではないかとの思いからでした。もともとは一般にも公募し、周辺の複数の演劇部に向けて募集をかける予定でしたが、様々な理由から小諸高校の演劇部に絞って交流を持つことになりました。結果的に、限られた生徒との深い関係を築くことができ、関わった部員からは「今まで経験したことのない訓練方法や、演じることの根幹に触れるような稽古内容で、役者として大事なことを教わった気がする」というような言葉が聞かれ、彼らが学校の部活では体験できない貴重な時間を過ごせたことがわかります。

10月の『破戒』リーディング公演は、石井さんと黒岩さんの当初からの目標であった『破戒』の戯曲を完成させるという終着点であり、集大成のひとつでした。朗読をする出演者は、農園の近くの住人に募集をかけ集まった人たちでした。夏の試演会はＳＮＳなどで広く募集をかけたため、チラシを配るより前に完売してしまったほど、

『破戒』試演会～稽古～

7 月 25 日 お面作り、
26 日 休み
27 日～ 30 日 稽古

『破戒』試演会～本番～

島崎藤村の「千曲川スケッチ」に記されたエピソードをもとに、かもしかもなかが、あたかも自分が体験したことかのように語る映像を会場で上映。YouTube でもご覧いただけます。

YouTube
千曲川スケッチ

写真：武者輝

YouTube
『破戒』試演会
ダイジェスト

果樹農園直売所シアター
『破戒』試演会
参加：小林彩葉 *、佐藤こころ *、曽我実冬 *、 黒田祐一郎 *、松﨑晃 *、鈴木正孝 ほか [*= 長野県小諸高等学校演劇部 / 劇団かもしかもなか]
演出：石井幸一 (鎌ヶ谷アルトギルド / 一徳会主宰)
脚本：黒岩力也 (わかち座)
原作：島崎藤村『破戒』
照明：染谷和彦　撮影：武者輝
制作：わかち座、NOA 運営チーム
7 月 31 日 (土)17：30 開演
ブルーベリーガーデン黒岩直売所

県内のアンテナを張っている演劇人であっという間に埋まってしまいました。地元住民にこのブルーベリーガーデン黒岩の価値を広めたいということも、大きな目標であったため、夏の反省を踏まえ、秋のリーディング公演はＳＮＳでは募集はせず、地域の回覧板にチラシを挟み込んだり、地元のスーパーの掲示板に出演者募集の掲示を出したりと、実にアナログな、地域密着型の公募となりました。そのおかげもあり、集まった12人の方々は地元の方や演劇をほとんど経験してこなかったという方、そしてそのほとんどは黒岩さんも初めて顔を合わせる方ばかりでした。

公演当日も、「舞台」自体を見たことがほぼないという、ブルーベリー農園としての農場しか知らない近隣の方などが集まりました。開場中、自宅の庭のケシの花について話し合う声が聞かれたりと、普通の演劇公演ではあまり見られないような光景が見られました。

集まった観客の中には、高校生たちが夏に畑で元気に響かせていた声をずっと気にしていて、「何か変わったことをやっている場所」として認識し始めたという方が訪れており、このプロジェクトを機にこの場に対する近隣の方の注目が高まっていることが明らかになったのでした。

今回石井さんと関わり、ホストである黒岩さんや演劇を発表する場としてのブルーベリーガーデンは、2度の上演の機会を経て〝劇作家・黒岩力也〟としての活動を地域に広く知らしめることができたと言えるでしょう。また、これまで上演の機会が少なかった果樹園や農場での公演を経験し、制作サポート体制を実践的に会得する機会となりました。

アーティストの石井さんは、活動拠点である鎌ヶ谷での活動が20年を迎えます。同じ場で活動することにより、客層も、創作を続ける仲間も固まってきてしまう中で、新たな人々と関わりを持ち、『破戒』という作品を通して様々なバックボーンを持つ人とクリエイション出来たことで、創作に対し新鮮な気持ちを持てたと仰っていました。

小諸地域の滞在はごく局地的な地域密着型であり、人や場所が新たに出会ったり、出会い直す機会を与えたと言えるでしょう。

（文・村上梓）

果樹農園直売所シアター『破戒』リーディング公演

10 月 09 日（土） リーディング公演　顔合わせ・稽古
10 月 23 日（土） 稽古
10 月 24 日（日） 稽古・リーディング公演本番

果樹農園直売所シアター『破戒』リーディング公演
出演者:生駒由美子 (演劇集団 真田 CROSS-B)、植原ゆかり (素数会 / まねきち) 小川恭未子、キザム (わかち座)、さっとん、笑二ちゃこ、Sue、坪根美友奈、永峯克将、八木光江、若月彩音、鈴木正孝 (鎌ケ谷アルトギルド)
脚本：黒岩力也（わかち座）、演出：石井幸一（鎌ヶ谷アルトギルド / 一徳会主宰）、照明：染谷和彦、原作：島崎藤村『破戒』、制作：わかち座、NOA 運営チーム

Q　NOA に取り組んでみて
NOA 小諸としての島崎藤村の小説「破戒」をホストである黒岩さんが戯曲化するという方針は、活動の初期に固まりました。そして、その方針に沿って試演会、リーディング公演へと段階を踏んでいったわけですが、それと平行して、果樹直売所が劇場空間へと（物理的に）変貌していく過程にも伴走させて頂くような形になり、とても刺激的な日々を過ごさせて頂きました。感謝しています。

Q　新たに得た気づきは？
長野県や小諸地域に限らないことなのですが……地域には住んでいた人の年月だけ文化的な資源が眠っているということ。そして、今住んでいる人の数だけ、文化との関わり方の種類があるということ。また、文化的な活動をするには物理的な場所が必要であるということ。今回の滞在はそれらの重要性を私に再確認させてくれました。

Q　取り組めたこと
コロナ禍という色々と制限のある中での活動でしたが、半年ほどの期間の中で、ホストである黒岩さんに島崎藤村の小説「破戒」を戯曲化して頂くこと。そして、小諸の高校生や市民の皆さんと対面で稽古をし、試演会とリーディング公演という二度の実演上演をすることができました。

石井幸一

Q　NOA に取り組んでみて
島崎藤村の『破戒』を媒体にして滞在アーティストと市民の交流が、有機的に結ばれたと感じました。初めてホストを経験したので、事業団の方々のサポートが心強かったです。

Q　新たに得た気づきは？
どの様な実施内容にするか滞在アーティストや事業団の方と話し合う中で、改めて地域の身近な魅力や価値を、再認識する事が出来ました。制作的な部分のひな型やフォーマットを実践的に学べた事で、今後のサポート活動の基礎を得る事が出来ました。

Q　これからのこと
鎌ケ谷市の梨園などで鎌ヶ谷アルトギルドの公演があれば観に行きたいと思っています。滞在アーティストが NOA で何を得て、その後の活動に活かしているかをリサーチし、今後の滞在制作の企画立案に活かしたいです。昨年のリーディングからの発展企画として、石井さん演出で『破戒』フルバージョンの上演が出来たらいいなと思います。ブルーベリー直売店で『破戒』の稽古合宿をしてロングラン公演をするとか実施してみたいです。また、石井幸一さん講師で、演出家育成講座、舞台装置講座、役者基礎的身体表現ワークショップを実施したい。

黒岩力也

軽井沢

倒立と四足歩行の研究・軽井沢編

渡邉 尚 X 信濃追分文化磁場油や

カラダのことがよくわかるようになる倒立ワークショップ

5 月 22 日 (土)23 日 (日)
各回 14 ～ 16 時
信濃追分文化磁場油や・ギャラリー一進

NOA WEB にて以下の記事（一部リンク）が掲載されています。あわせて御覧ください。

- ■ note『カラダのことがよくわかるようになる倒立 WS』
- ■ YouTube 渡邉尚さん、儀保桜子さんにインタビュー
- ■ YouTube　渡邉尚・新作動画「びゅーひょん /view-hyon」
- ■ note 倒立と四足歩行の研究～リサーチ編～
- ■ note 倒立と四足歩行の研究～闊歩編～
- ■ note 倒立と四足歩行の研究～振り返る編～
- ■ YouTube　渡邉尚・新作動画「すちるひょん / still-hyon」

この軽井沢のプロジェクトでは、出会いから生まれたまざまな挑戦があり、アートと生活についても考え向き合う時間となりました。当初は、浅間山麓の山道や獣道また街道を四足歩行で闊歩して各スポットで倒立を行う予定でしたが、5月・8月いずれの滞在期間中も雨が降り続いていたため撮影が困難になってしまいました。けれども今振り返ってみると、この雨が出会いや挑戦に導いてくれたように思います。

最初の5月の滞在時には信濃追分文化磁場油やを会場に『カラダのことがよくわかるようになる倒立ワークショップ』を開催し、老若男女多様な方が参加しました。ワークショップ中に渡邉さんが「人は思っているより真っ直ぐに手を上げれていない。自分のカラダは自分が思っているよりも違うことが多い」と仰っていました。私自身、倒立を体験する中で、自分のカラダのギャップに驚きの連続でした。倒立を通して「自分のカラダがわかること」は「自分を開放すること」だと実感しました。参加者の方たちは渡邉さんたちから良い刺激をもらっていました。

8月の滞在時では、渡邉さん自身が刺激をもらう場面も多かったようです。最初に軽井沢の緑の中に建てられた診療所でも文化施設でもある軽井沢町の診療所「ほっちのロッヂ」を訪問し、

8 月 12 日（木）～ 25 日（水）リサーチ
12 日　ほっちのロッヂ泊
15 日　軽井沢ニューアート・ミュージアム・小海町高原美術館下見
16 日　信濃追分文化磁場油や泊

倒立と四足歩行の研究 ～リサーチ編～

倒立と四足歩行の研究 ～闊歩編～

8 月 21 日（土）～ 22 日（日）
『すちるひょん /still-hyon』撮影。
「ロナルド・ヴェンチューラ展－内省」
2021 年 8 月 7 日（土）～ 2022 年 4 月 10 日（日）
軽井沢ニューアートミュージアム

軽井沢ニューアートミュージアムで撮影された映像作品がYouTubeでご覧になれます。
『びゅーんひょん /view-hyon』
出演：渡邉尚　衣装＆撮影編集：儀保桜子

その後、2つの美術館で渡邉さんのパフォーマンスを撮影させていただくことができました。小海町高原美術館で開催されていたスズキコージさんの展覧会では、渡邉さんは子供の頃からスズキコージさんの大ファンであり、以前から交流もあるようで、身体から嬉しさが溢れていました。一つひとつの展示作品に向き合って身体を動かしていました。軽井沢ニューアートミュージアムのロナルド・ヴェンチューラ展では、自らのアイデンティティーを深く掘り下げ、内省し、人間の表皮である”肌“の表現の可能性を探求している、現代美術家ロナルド・ヴェンチューラさんの作品の中にて撮影しました。渡邉さんの身体は、作品に溶け込んだり、抜け出たり、作品に合わせて自分の身体で世界を創っていました。2つの美術館は渡邉さんの身体と感覚に刺激を与え、映像作品へと繋がっていきました。また、今回の衣裳を手掛けている儀保桜子さんにとっても、今回は衣裳の新境地だったそうで、「今までは野生人のような衣裳だったが、山から美術館のように野生人から社会人になった」と仰っていました。渡邉さんも「ジャグラーとしていつもはボールを持っていたが、初めてボールを持たなかった」と話してくれました。ボールを手放して身体ひとつで挑んだそう

倒立と四足歩行の研究
～闊歩編～

8 月 17 日（火）、24 日（火）、小海町高原美術館にて撮影。
「スズキコージの大魔法画展」
2021 年 6 月 19 日（日）～ 8 月 29 日（日）
小海町高原美術館

小海町高原美術館で撮影された映像作品が
YouTube でご覧になれます。
『びゅーんひょん /view-hyon』
出演：渡邊尚　衣装＆撮影編集：儀保桜子

です。当初の予定通り、山に登っていたら出会えなかったかものしれない挑戦が多かったそうです。

今回、渡邊さんは、自身の生活と身体に対して向き合えたそうです。そしてそれは、信濃追分文化磁場油やのおかげだと振り返りでお話が出ました。この油やという場所について「余計な情報量が無い。常に空気は爽やかで、油やの部屋は倒立をするにも読書をするにも集中できる」と渡邊さんたちが仰っていました。1回目の5月の滞在が終わった後に、当時住んでいた沖縄の自宅で油やを再現しようと思いたち、余計な荷物を捨て、断捨離を行ったそうです。この軽井沢の滞在は生活が崩れず、作品に生活を持ってこれたのが良かったとのことでした。これに関して、ホストである信濃追分文化磁場油やの斎藤祐子さんは「油やが、土地が、人を呼んでいる。風水的にも落ち着く場所であるが、自然の厳しさもある。白いキャンバスを好む人に良い場所だと思う。また、ここが元々宿場であること。生活が繋いでいる〝人の道〟だったのも関係しているのかもしれない」と仰っていました。

「作品に生活が持って来れた」という言葉からは、生活とアートとの距離感について考えさせられます。新型コロナウイルス感染症の流行下で仕事が無くなり、アーティストとしてどう生きていくかは渡邊さんたち以外の多くのアーティストも抱える悩みです。自分は何がやりたかったのかを見つめ直した時に、もっと倒立の練習をしたかったと気づき、そして自分の生活を研究していくことに気づいたそうです。この軽井沢のプロジェクトでは、生活とアートとの良い距離感を見つけられ、色々なアーティストや作品に出会ったことで刺激が生まれました。その刺激は渡邊さんの今後の人生の糧になり、またコーディネーターである私も、渡邊さんと出会ったことがアートと向き合う人生の糧になりました。刺激は巡り合っているんだと思いました。

（文・石坂杏子）

～振り返り～

8 月 24 日（火）振り返り
撮影後、油やにて渡邊尚さんと儀保桜子さん、「油や」の斎藤尚宏さんと祐子さん、進行役の野村政之（NOA コーディネーター）で今回の AIR を振返り。

渡邊尚さん映像展示 @ 信濃追分文化磁場油や

9 月 24 日（金）～ 10 月 17 日（日）
映像展示
渡邊尚さんと儀保桜子さんが軽井沢滞在中に撮影した映像作品を、信濃追分文化磁場油やにて展示しました。

Q　NOA に取り組んでみて
すごくいいレジデンスでした。静かですごく集中できるし、車をレンタルしてもらったりいい宿を手配してくれたおかげで不自由なくクリエーションができました。特に藤澤さんのサポートが手厚く助かりました。

Q　新たに得た気づきは？
もともと作品を作る予定はなかったのですが、作れる環境があると結局作ってしまうものだなあと思いました。

Q　取り組めたこと
藤澤さんが掛け合ってくれたおかげで、美術館で撮らせてもらうという贅沢なことができた。野外での撮影は雨が降り続けていてできなかった。

Q　これからのこと
滞在中にも倒立のワークショップをしたのもありますが、今は特に日本で倒立を普及させたいので、長野でも機会あれば倒立のイベントなどをやってみたい。

渡邊尚、儀保桜子

Q　NOA に取り組んでみて
「文化磁場油や」は元旅館ということで、文化イベント時に関係者が宿泊できることが強みであると気づいて 5 年前から AIR を開始しました。NOA においても「油や」は AIR 場所として有効な場所と確信しました。

Q　取り組めたこと
倒立ワークショップは、「油や AIR」にないプログラムであり、アーティストの多様性という意味で活動の幅とネットワークを広げることができたと思います。

Q　これからのこと
NOA 担当者の案内で「文化磁場油や」を視察に来てくれたアーティストの人が何名かいますが、その人たちが「油や」で新しい取組を企画してくれればと思います。そして NPO としてもそういう企画をサポートしたいと思います。

特定非営利活動法人油やプロジェクト
理事長 斎藤尚宏

Q　取り組めたこと
中山道の宿場という役目がとっくの昔に終わったにもかかわらず、廃村のような土地に文人達が、なぜ山荘を建てたのだろうかと言うことが疑問点でした。この不便さ不毛さがむしろ、創作には有効だということなのだということを伺い、合点がいきました。「無」の空間ということですね。渡邊尚さんは、それを「情報量のなさ」と表現されました。

文化磁場油や　斎藤祐子

『記録と記憶』を映す滞在
～パルコ de 美術館～

パルコ de 美術館で撮影された映像作品が
YouTube でご覧になれます。
Film Work by Shintaro Hirahara［Brocken 5］

千田泰広さんの作品
《BROCKEN 5》

9 月 13 日（月）～ 19 日（日）
松本 PARCO で開催された「パルコ de 美術館」に出品された千田泰広さんの作品《BROCKEN 5》にて映像撮影。

パルコ de 美術館
2021 年 7 月 3 日（土）～ 2022 年 2 月 28 日（月）
松本パルコ　6 階全フロア、屋上

9 月 13 日（月）から 19 日（日）まで平原さんと OrganWorks のメンバー池上さん、村井さん、小松さんとクリエーション。松本の上土劇場と池田町の池田町交流センターかえでにてダンス映像の撮影に向けた稽古。

千田さんの作品があるパルコde美術館や、松本にある上土劇場、また池田町にある池田町交流センターかえでで稽古を実施するなど、場所との出会いが多かったです。稽古場では、平原さんの発想を基にダンサー4人で身体を合わせていきます。「ここをこうしたらこうなるかも」とアイデアを出し合いながら創作は進んでいきました。ダンスの稽古を見る機会はなかなかなかったので、私にとっても発見がありました。ここでも、加藤なぎさんが桶太鼓と柄太鼓で、宮田紀英さんは篠笛で、平原さんたちの身体とコラボレーションしました。伝統的な楽器と前衛的なダンスの組み合わせにワクワクしました。そして迎えた撮影本番日。太陽が照らす昼間と微かな月の光がある夜では『BROCKEN 5』は違う顔をします。晴れている日と雨の日でもまた違います。平原さんたちの身体は『BROCKEN 5』の表情に合わせてというより、自然と合うかのように動きを創っていきました。目視では見えにくい動きもカメラ越しに見ると輪郭が見えてきます。緊張感のある繊細な空間でした。

「子どもたち」との交流では、池田町教育委員会と協働し、池田町立池田小学校と会染小学校で「アーティスト・イン・スクール」として出張アトリエ

『記録と記憶』を探る滞在

3 月 12 日（金）、池田町交流センター かえで・浅原六朗文学記念館などリサーチ。
6 月 20 日（日）、OrganWorks のメンバーでもある映像の池上さんと村井さんも同行。北アルプス展望美術館、広津にある「学生団体 広津の杜」で使っている古民家、千田泰広さんのアトリエなど訪問。

池田町のプロジェクトは、池田町の「伝統芸能」、「アート」、「子どもたち」3つの交流を通して、過去と現在と未来の「記録と記憶」を繋ぐ架け橋のようなものとなりました。

「伝統芸能」の交流では、池田町広津の楡室神社の獅子舞の復興に取り組む信州大学の宮田紀英さん・加藤なぎさんと出会いました。現在、どの地域でも問題となっている〝過疎〟や〝伝統文化の衰退〟の中で、学生団体「広津の社」のメンバーが中心に広津地区の獅子舞をVHSから譜面を起こし演奏をして復興し、文化の記憶を残そうとしていました。本来なら10月の例祭にて獅子舞を行なう予定だったのですが、パンデミックの影響で中止となってしまいました。そこで、平原さんたちは自分たちなりの奉納の形を試み、楡室神社にて宮田紀英さん・加藤なぎさんが祭囃子を演奏する様子を撮影しました。撮影の際に、宮田さんと加藤さんの演奏によって、中央に据えられた動かない獅子舞が、まるで舞い踊っているように見えました。この獅子舞がまた動いてくれるのを楽しみに待とうと思います。

「アート」の交流では、池田町在住のアーティスト千田泰広さんの作品『BROCKEN 5』で撮影を行いました。ここでも出会いが広がっていきました。

池田町

北アルプス展望ダンスプロジェクト
NORTH ALPS VIEWING DANCE PROJECT
平原 慎太郎 X 池田町教育委員会

NOA WEB にて以下の記事（一部リンク）が掲載されています。あわせて御覧ください。

- note『記録と記憶』を探る滞在
- note『記録と記憶』を映す滞在～広津編～
- note『記録と記憶』を映す滞在～パルコ de 美術館編～
- note『記憶と記録』を繋ぐ滞在～広津編～
- note『記憶と記録』を繋ぐ滞在～ Artist in School 編～

『記憶と記録』を繋ぐ滞在
～アーティスト・イン・スクール編～

10 月 11 日（月）～ 17 日（日）
池田町での体験を自分たちのフィルターを通して子ども達に体験してもらおうと、千田泰広さんの作品《BROCKEN 5》での撮影や広津での体験をプレイルームに美術館という形で起こす。

池田町立池田小学校

池田町立会染小学校

を実施しました。平原さんたちは今までの池田町での体験を自分たちのフィルターを通して子ども達に体験してもらおうと、千田泰広さんの作品『BROCKEN 5』での撮影や広津での体験をプレイルームに〝美術館〟という形で起こすことにしました。会染小学校の3日間では、休み時間や放課後に子供たちが覗きに来てくれました。日常では会えないアーティストの創作の場。創作過程が気になる子ども達は毎日来てくれ、平原さん達も子ども達に遊んでもらいながら製作を進めていきました。美術館がオープンした時は子ども達が待ちに待ったかのようにワクワクしながら美術館に駆け込んで来ました。無数の穴からの差し込んでくる光の空間、光に彩られるファイバー、紐で張り巡らされた空間、竹のコンタクト、大きな獅子舞を、子ども達が五感を使って楽しんでいました。平原さんが「子ども達がどう身体を動かしてくれるか考えるのも振付だ」と言っていたのが印象的でした。池田小学校は1日だけでしたが、子どもたちの熱気で盛り上がりました。自ら空間に飛び込んで考え感じながら遊んでくれました。子どもたちだけではなく、先生たちも一緒に楽しんで遊んでくれたのが印象的でした。平原さんたちのフィルターを通して、子ども達は池田町にある文化を体験しました。平原さんたちが創り出した造形物には一つひとつ想いが込められていました。それが不思議と子ども達の感性に届いていたように思います。ある子が「(造形物を)ずっと置いてくれたらいいのに」と言ってくれたのが印象に残っています。この経験は子ども達が大人になっても忘れないと思うし、将来子どもたちがこの経験を生かして何かを創っていくのかもしれないと思いました。

このプロジェクトでは、過去を大切にすることで生まれるものが未来に繋がっていくことを感じさせられました。この町の「記録と記憶」が続いていくことを願います。

（文・石坂杏子）

『記憶と記録』を繋ぐ滞在
～広津編～

学生団体「広津の杜」のメンバーである宮田紀英さんと加藤なぎさんによるお囃子の演奏の撮影

広津の杜
長野県池田町広津に魅せられた大学生が 2018 年から活動中。広津の伝統である獅子舞の復興に携わっている。
https://hirotsu80.blog.fc2.com/

Q　NOA に取り組んでみて
普段の活動はダンスの稽古場でダンサーとの取り組みが多い中で、こうして長野県の豊かな環境の中で様々なバックボーンを持つ方と一緒に体や、自分がいる場所のことを考えられたのはとても有意義でした。

Q　新たに得た気づきは？
当然の事ですが、社会にはその地域住民がおり、そしてそこには歴史があります。その地域住民の抱える意識や興味が作品の方向性を決めることがあるのだなという気づきがありました。

Q　取り組めたこと
小学生から大学生、そしてプロの美術家までと様々な人と交流し、ニーズに合った作品を制作できたこと。

Q　これからのこと
自身のカンパニーでの公演を通じて地域住民に踊りの奥深さを伝え、踊りやそれを通じた面白さを波及していきたいです。また、小学生～大学生の興味の持ち方の違いを改めて感じたので、また学生達と地域にある興味を基に交流できる機会があればと思います。

平原慎太郎

Q　NOA に取り組んでみて
アーティストが作品を制作する様子を間近で見るなかで、普段アーティストがこの世界にどう向き合っているのかを窺い知ることができました。特にアーティスト・イン・スクールでの子どもたちが身体を動かす空間を作り出す発想は、子どもたちの持つ豊かな感性を自然に引き出しており、非常に勉強になりました。

Q　取り組めたこと
私自身も知らなかった池田町の魅力を知ることができました。今回はフィールドワークを行った全ての場所を活用するということはかないませんでしたが、今後の自分の活動に生かせたらと思っています。

信州大学人文学部生　加藤なぎ

Q　NOA に取り組んでみて
平原慎太郎さんチームのみなさんが創り出された表現と空間によって、池田町の伝統文化は鮮やかに蘇り、子どもそれぞれの素直さ、多様な表現欲求、そして力強い生命力などを、私たち大人にあらためて印象づけてくれました。

Q　これからのこと
これからも子ども達の表現活動の重要性にぜひ目を向けてほしいと願っています。幼児期から小学生までの期間は特に「遊び」をもっと意識的に取り入れるべきだと感じています。遊びはまさに子ども達の創造性の塊です。遊びを通じて様々な感動を味わい、生きることの楽しさを感じ、生来備わっている好奇心や意欲がもっともっと引き出されるよう、そんな子ども達の育ちと学びの環境づくりが、アートを入口に広がっていってほしいと心から強く願っています。

池田町 前教育長　竹内 延彦

安曇野

あまるほど踊る安曇野
ダンスマッピング

…1［アマリイチ］
X 安曇野市教育委員会

NOA WEB にて以下の記事（一部リンク）が掲載されています。あわせて御覧ください。

- ■ YouTube うちそと駅伝ダイジェスト
- ■ note うちそと駅伝《復路》
- ■ note うちそと駅伝《復路》
- ■ note…1［アマリイチ］念願の！北アルプス登山 下界編
- ■ note…1［アマリイチ］念願の！北アルプス登山 登山編
- ■ YouTube 8 月 4・5 日　常念岳登山
- ■ YouTube 新作動画「アルプス一万尺 全 29 番」
- ■ note ついに完結！「あまるほど踊る安曇野ダンスマッピング」

リサーチ・稽古

2 月 15 日（月）～ 16 日（火）両日、レンタサイクルで市内をリサーチ。碌山美術館見学。

5 月 31 日（月）～ 6 月 4 日（金）稽古

NAGANO ORGANIC AIRにおけるアーティストとホストの関係は、その滞在地域ごとによって千差万別です。ホストがくまなくリサーチに付き添う地域もあれば、ホストが書いた戯曲をアーティストが演出した地域もあります。アーティストとホストの〝多種多様〟な関係性は、NOAの特徴のひとつと言えます。

翻って安曇野のアーティストとホストの関係をみてみると、これは相撲で言うところの〝がっぷり四つ〟という言葉がふさわしいかもしれません。…1［アマリイチ］（アーティスト）と安曇野市教育委員会（ホスト）の〝取り組み〟は、互いに出し惜しみせず、持てる要素を全て出しあうという全力のとっくみあいそのものでした。

これを端的に表しているエピソードが、6月に開催した「安曇野をダンスでつないで往復する駅伝型公演『うちそと駅伝』」です。『うちそと駅伝』は、6月5日（土）、6日（日）の2日間、鐘の鳴る丘集会所を発着点とし安曇野市内11カ所にてアマリイチの二人が踊り、会場間を自転車と徒歩で移動してつなぐという駅伝スタイルのダンス公演でした。

そもそも『うちそと駅伝』は、3月の企画段階において、アマリイチからの「自転車と徒歩で移動しながら、安曇野市内のできるだけたくさんの場所で踊りたい」という発案がキッカケで始まりました。このアーティストのアイディアに応えるべく、ホストの方々が案をだし合い、市内の踊れる場所をリサーチ。豊科交流学習センター「きぼう」などの公共施設から、久保田農村公園など地元の人しか知らないような公園まで幅広い会場をピックアップ。それぞれの会場を実際に回って、徒歩と自転車でかかる所要時間を緻密に計算し、コースを組み立てて下さいました。また、本番当日はホストの方々も自転車と徒歩でアマリイチに帯同し、コースを案内してくださるなど、通常のAIRのホストの枠を超えた役割を担ってくださいました。

このホストの全力の返答に、ダンスで応えたのがアマリイチです。11カ所それぞれの会場で10～45分のダンスを披露。振付にネマガリダケやニジマスなど安曇野滞在中に出会った要素をふんだんにちりばめながら、総移動距離約30キロ、全12時間というながいながい道のりを歩き、駆け、踊り切りました。

アーティストの全力に、ホストが全力で応える。ホストの全力に、アーティストが全力で応える。アーティストとホスト、どちらが主でも従でもなく、互いに対等な関係でひとつのプロジェクトに取り組む。ここ安曇野ではまさ

安曇野をダンスでつないで往復する駅伝型公演『うちそと駅伝』

鐘の鳴る丘集会所 前庭

鐘の鳴る丘集会所 前庭

八面大王足湯

穂高交流学習センター「みらい」

久保田農村公園

碌山公園

豊科近代美術館 前庭

豊科交流学習センター「きぼう」

うちそと駅伝
ベートーヴェンのピアノソナタ第 13 番を使ったダンス作品『うちそと』を安曇野市内 11 カ所で徒歩と自転車で移動しながら踊るプロジェクト。

6 月 5 日（土）往路
09：30　鐘の鳴る丘集会所 前庭
11：00　碌山公園 / 安曇野髙橋節郎記念美術館 中庭
11：30　穂高交流学習センター「みらい」芝生広場
13：00　安曇野わさび田湧水群
15：00　豊科交流学習センター「きぼう」多目的交流ホール

6 月 6 日（日）復路
13：00　豊科近代美術館 前庭
14：00　堀金中央公園 / 久保田農村公園
15：00　国営アルプスあづみの公園（堀金・穂高地区）
16：00　八面大王足湯
19：00　鐘の鳴る丘集会所 前庭

YouTube
『うちそと駅伝』
ダイジェスト

常念岳登山

8 月 4 日（水）～5 日（木）常念岳登山
鐘の鳴る丘集会所出発は 5 時半、一ノ沢ルートで登る。昼食後、常念小屋を出て横通岳へ行く途中で急遽ダンス。「アルプス一万尺」のフルコーラスを踊ります。小屋に戻って夕食、20 時に就寝。
翌朝、常念岳山頂を目指して出発。1 時間半で無事登頂。登山の様子と「アルプス一万尺」は YouTube でご覧いただけます。

YouTube
アルプス一万尺
@ 北アルプス

YouTube
8 月 4 ～ 5 日
常念岳登山

0 歳からのミニコンサート

『0 歳からのミニコンサート』
安曇野市在住のピアニスト・寺島美紀さんと共演
11 月 19 日 (金)11：00 / 14：00
安曇野市穂高会館 講堂

に、ＮＯＡがその理念に掲げた「アーティストとホストが、互いに対等な立場で刺激や影響を与えあう相乗的・協働的な関係」が実現していました。

なぜ安曇野では、アーティストとホストがこのような関係を結ぶことができたのか。そのひとつの答えが〝暮らし〟です。ＮＯＡの中で、アマリイチほどその地域にて〝暮らした〟アーティストは他にいないと言っても過言ではありません。滞在中も、貸別荘に宿泊しながら、近所の直売所で地場産の食材を仕入れ自ら調理したり、洗濯をしたり、自転車に乗って毎日稽古場に通うなど、クリエイションやリサーチと同じくらい安曇野で暮らすことに重点を置いていたアマリイチ。安曇野の日常に身をおくことで見えてきた風景を、彼女達は丁寧にホストの方々と共有していきました。例えば、直売所で手に入れた謎の食材の調理方法を聞いたり、稽古場に行く道中で見つけた不思議な建物や看板、気になるお店、山の名前などを尋ねたり。何年も安曇野に暮らしているホストの方々は、ただこれに答えるだけではなく、ときには一緒にお店を回ったり、食材をお裾分けしたり、一緒に料理を作るなど、あたかもご近所さんのような感じでアマリイチに接し、ともにこれを楽しんでいました。暮らしを軸にしたアーティストとホストのやりとりは、双方向的で親密なコミュニケーションを生み出し、どちらが主でも従でもなく、対等な立場で意見やアイデアを出し合うという関係を創出しました。

安曇野のプロジェクトは、11月24日（水）に全滞在日程を終え無事終了しました。しかしながら、アーティストとホストの関係はこれからも続いていきます。12月22日（水）には、安曇野市教育委員会の主催行事『あづみの学校ミュージアム』にアマリイチが出演し、また、２０２２年度も、教育委員会の招聘でアマリイチが安曇野に滞在する予定です。アマリイチと安曇野市教育委員会の今後の展開に、どうぞご期待ください。

（文・藤澤智徳）

安曇野でつくる新作ダンス公演『イチニタスアヅミノノ』

安曇野でつくる新作ダンス公演
『イチニタスアヅミノノ』
11 月 20 日（土）
　　21 日（日）稽古
　　22 日（月）場当たり・ゲネ
11 月 23 日（火祝）本番
安曇野市穂高会館 講堂

河川敷で拾ってきた石を、安曇野市内を流れる河川に見立て並べ、その中で踊る。作品の構成も豊科・穂高・三郷・明科・堀金にシーンを分け、文字通り「安曇野ダンスマッピング」となった。

Q　NOA に取り組んでみて
「安曇野でのダンス作品を創ってみたい」という想いは初めて安曇野を歩いた日から持っていたのだが、実際に創作した『イチニタスアヅミノノ』のような、安曇野を味わったからこその作品になるとは想像していませんでした。ユニットとして新しい創作方法や、2 人の関係性を探るに、この上ない環境を頂いた結果だと感じます。

Q　新たに得た気づきは？
延 20 日間滞在しただけでは土地のことが「わかる」ということは全くなく、「知らない」ということを知っていくだけなのだが、それでも土地を歩いて土地のものを食べることには大きな意味がある。という教科書に載っていそうなほど明らかなことを、実際に体感しました。

Q　取り組めたこと
まず 1 番出来たことは、安曇野のことがとても好きになったこと。出来なかったことは、安曇野の歴史や風習などを、もっと知ったり考えたりしたい（これには終わりがないけれど）。他の地域の方が滞在している時、滞在先に伺いたかった。まだ「…1[アマリイチ] 山のアルバム」製作に手をつけられていない。

Q　これからのこと
「鐘の鳴る丘集会所」の前庭では踊ったが、屋内での上演もやってみたい。次は燕岳か蝶ヶ岳か……。北アルプス登山に憧れ続けています。

…1[アマリイチ] 斉藤綾子

Q　NOA に取り組んでみて
安曇野市では、アーティスト・イン・レジデンスは、これまでも課題としてあがっていましたが、実施には至らなかったため、AIR 自体のみならず、施設の活用方法も含めて非常に参考になる事業でした。

Q　取り組めたこと
アーティストの目を通して、地域の魅力を再発見・再認識することができました。良いところだけでなく、安曇野の様々な課題を知ってもらう機会を作ることができませんでした。また、一般の市民と交流する機会をもう少し設ければ良かったと思います。

Q　これからのこと
市内の小中学校へのアウトリーチ
一般向けのコンテンポラリーダンス公演
燕岳登山

安曇野市教育委員会 三澤 新弥

木祖

木曽アート・ダンス留学

武井 琴 X 一般社団法人木曽アーツ
木曽ペインティングス

NOA WEB にて以下の記事（一部リンク）が掲載されています。あわせて御覧ください。

- ■ note 木曽アート・ダンス留学 ①
- ■ Blog　7/7~7/12 木曽アート・ダンス留学 part.2
- ■ note 木祖小学校でワークショップ開催
- ■ note コマ撮りダンス撮影クランクアップ！
- ■ note 木曽アート・ダンス留学③
- ■ YouTube 武井琴映像作品「きそきそ円舞曲」
- ■ note 木曽アート・ダンス留学の終着点

木祖村・藪原祭りリサーチ

3 月 22 日（月）～ 24 日（水）
藤屋レジデンスに滞在。

7 月 7 日（水）～ 12 日（月）
リサーチ
木曽ペインティングスを機に木祖村に移住した近藤太郎さんのアトリエにも訪問。

『木曽アート・ダンス留学』というプロジェクト名には元ネタがあります。神戸市のＮＰＯ法人ＤＡＮＣＥＢＯＸが２０１２年から開催している「国内ダンス留学@神戸」というダンサー・振付家育成事業です。この事業は、神戸市長田区の劇場「ＡｒｔＴｈｅａｔｅｒｄＢＫｏｂｅ」にて、例年７月～翌３月までの８ヵ月間、プロのダンサー・振付家として活動していくことを志す人を対象に、国内外の著名な振付家やダンサーのＷＳやレッスンを受け、最終的に作品創作をするというものです。参加者は神戸近隣に居を移し、その地にて生活しながら、日々のＷＳやレッスンを受けていきます。木祖の滞在アーティストである武井琴さんもこの「国内ダンス留学@神戸」５期の卒業生であることから、武井さん自ら、今回この木祖のプログラム名を『木曽アート・ダンス留学』と名付けました。”留学“という言葉からも想像できる通り、『木曽アート・ダンス留学』というプログラム名には、ただ滞在して創作するのではなく、木曽で暮らし、木曽の地の物を食し、木曽の人や文化と触れ合うことで、木曽から創作に対する学びを得ようとする武井さんの意気込みが込められています。

企画当初の段階では、木祖村内の空き家を借り、3月～11月の9ヶ月間、実際に木祖村内で生活しながら創作活動をするという案もありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で実現困難に。予定を変更し、ホストである木曽ペインティングスが管理運営する薮原宿の元旅館を改装したアーティスト・イン・レジデンス施設「藤屋レジデンス」を滞在拠点に、3月、7月、9月、10月と短期の滞在を重ねていきました。

当初の予定とは変わりましたが、武井さんの興味は変わりません。「木曽での暮らしと学び」を滞在テーマに、ホストである木曽ペインティングスの岩熊さんや、（一社）木曽アーツの大沢さんにアテンドしていただきながら、木曽での滞在を進めていきます。

武井さんが滞在中に興味をもって接していたもののひとつに”食“があります。日々の暮らしの中で、必ずあるのが食事の時間。地元のスーパーで食材を仕入れ自ら調理するのは言わずもがな、岩熊さんにジビエ料理やフキノトウを使ったジェノベーゼ等をご馳走になるなど、自らの身体（胃袋）を用いて木曽を味わっていきました。また、もともと発酵食品に興味をもっていた武井さん。木曽地方で古くから食べられてきた乳酸発酵食の「す

木祖小学校でのワークショップ

7 月 12 日（月）　木祖小学校 WS
木祖村薮原で行われる薮原祭り（薮原神社例大祭）のリサーチを行い、滞在最終日 12（月）には、薮原祭りにちなんだワークショップを木祖小学校 2 年生の授業で開催。武井さんお手製の獅子舞と天狗のお面を子どもたちに塗ってもらってから、ダンスのワークショップとコマ撮り映像の撮影を行いました。

コマ撮りダンス撮影

9月7日（火）～13日（月）
コマ撮りダンス撮影
ダンサーの泰山咲美さん・カメラマンの藤村友弥さんも合流し、木曽郡内各所にて撮影。

『きそきそ円舞曲』

木祖村で滞在製作したコマ撮りアニメーション。二人のダンサーが旅をするように、木曽の各所をめぐりながら撮影。村に伝承されている「藪原祭り」や「お六櫛」滞在中出会った子どもたちやアーティストからインスピレーションを受けて制作された映像作品。

YouTube
『きそきそ円舞曲』
ダンス：泰山咲美、武井琴
撮影：藤村友弥
衣装：清川敦子
出演・イラスト制作：近藤太郎
映像ディレクション：武井琴

んき漬け」には、滞在当初から強い関心を抱いており、NOA終了後も独自に木曽を訪れ、すんき漬けの仕込みに立ち会うなど学びを深めていきました。

もうひとつ、武井さんが関心を抱いていたのが、”人“です。木祖村には、（一社）木曽アーツの大沢さんをはじめ、木曽ペインティングスがキッカケで移住してきた若手アーティストが何名か住んでおり、武井さんはこの方々と積極的に交流を図っていきました。特に画家の近藤太郎さんとは、ご自宅にて薮原祭りの映像を見せていただいたり、アトリエを見学させていただいたほか、武井さんが木曽滞在中に手掛けた映像作品『きそきそ円舞曲』のビジュアルイメージを描いていただくなど、作家同士として、そして木曽で暮らす者同士として、多面的なコミュニケーションを育んでいきました。

このように、”食“や”人“さらには薮原祭などの”伝統文化“や”歴史“など、木曽で暮らし、木曽に身をおくことで身体的に木曽を学び、作品制作につなげていった武井さん。11月8日（月）に最後の滞在を終えたあとも、独自に木祖に足を運び、木曽での学びと交流を続けています。最後に、武井さんが滞在終了後、ご自身のSNSにてNOAの振り返りとして掲載していた文章の一文をご紹介して終わります。「今回の大きな発見は「作品を作る、発表する」ということだけがアーティスト活動なのではなく、自分のフィルターを通して地域をみつめること、生活の中で面白いをみつけること、それだけで十分な活動になるのだということです。地域で暮らしながら活動していく方法にこれといった正解はなく、自分なりの方法で、そこでどう在るのかを日々模索し続けることなのだと。木祖で出会った、岩熊さんや同世代のアーティストたちの活動を見せていただく中で感じたことです」。

（文・藤澤智徳）

『武井琴 コマ撮り映像展』

《Burabura Journey》
近藤太郎

10月23日（土）～11月7日（日）
会場：木祖村向畑「土蔵」
企画制作：武井琴
主催：（一財）長野県文化振興事業団、長野県
協力：木曽ペインティングス、（一社）木曽アーツ

Q　NOA に取り組んでみて
作品を作って発表することを目的とせず、滞在先がどのような場所で、そこにはどのような人々が暮らし活動しているのかを見つめながら、場所とじっくり向き合うことができたことは非常に大きかったです。そのおかげで、たくさんの良い出会いと発見が得られ、今後も継続して木曽と関わり合っていけるきっかけをいただきました。

Q　新たに得た気づきは？
木曽ペインティングスの岩熊さんや同世代のアーティストたちの取り組みを見せていただく中で、アーティストがどのように地域に参入し、自らの役割を見つけていけるか、活動のヒントをいただきました。生活と表現活動の垣根を超えて、地域の課題と向き合いながら、遊び心を失わずに表明し続けていくことの大事さを知りました。また、地域で自分のやってみたいプロジェクトを展開するために、今後身につけるべき知識や経験についても具体的に見えたように思います。

Q　これからのこと
映像やダンスだけに限らず、分野の垣根を超えたアートプロジェクトや地域づくりを、木曽のアーティストや住民の方々と協働しながら展開させていきたいです。現地の教育機関や組織などとも連携し、その中でアートが担えることの可能性を模索しつつ、子どもたちとの出会いの場を開いて行くためにできることを考えていきたいです。

武井 琴

Q　NOA に取り組んでみて
絵画をベースとしている私たちにとっては異種とのマッチングでもあったので、お互いにとって新たな発見や発展にもつながった。
また、県内に散らばるホスト同士の交流にもなり、他地域とは隔絶しがちな木曽地域にとっては外と繋がる貴重な経験となった。

Q　取り組めたこと
小学校でのワークショップを開催することができたのはよかった。

Q　これからのこと
長野県立美術館でのイベントも一緒に行うことができた。また今年秋に開催される芸術祭にも引き続き参加することが決まっている。今回の出会いを大事にして今後も共に活動を続けていきたいと思う。

岩熊力也　木曽ペインティングス代表

Q　NOA に取り組んでみて
武井さんがリサーチを重ねる中で「作品を作る、発表する」ことがアーティストの活動なのではなく、自身のフィルターを通して地域を見つめること、生活の中で「面白い」を見つけることがそれだけでも十分な活動になると感想を仰って頂けた。滞在をするという面から、より住民のような視点で活動が出来たのではないかと実感しました。滞在することでその地域の良さも課題も両方見えてきますが、課題があることが醍醐味なので悲観的に捉えず、お互いを生かし合いながら前向きに楽しく活動をしてゆきたいと改めて私も実感しました。

一般社団法人木曽アーツ大沢理沙

茅野

みちのちのダンススケープ

森下 真樹 , 石川 直樹 X 茅野市民館

NOA WEB にて以下の記事（一部リンク）が掲載されています。あわせて御覧ください。

- ■ note 諏訪大社の信仰を巡る滞在
- ■ note キックオフサロン～ 10 年ぶりの再会！
- ■ note 森下真樹さん怒涛の滞在記～前編 後編～
- ■ note 念願のおふたり揃っての滞在！～石川直樹さん編～
- ■ note 念願のおふたり揃っての滞在！～森下真樹さん編～

諏訪大社の信仰を巡る滞在

3 月 10 日（水）～ 13 日（土）
ふじもり建築見学＆諏訪地域
リサーチ（森下・石川）

茅野はダンサー・振付家である森下真樹さんと、写真家である石川直樹さんという異なる分野で活躍されるアーティストがそれぞれの視点から地域を見つめ、活動するというＮＯＡの中でも唯一の取り組みとなりました。多方面で活躍されるお二人というだけあって、なかなかスケジュールが合いにくい上に、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響も受け、山ほどある〝やりたいこと〟の中で達成できたことはそれほど多くはありませんでした。満開の蓮畑で市民の方と踊りたい、それを撮影したい、八ヶ岳を二人で縦走したい、雪の八ヶ岳がピンク色に染まる姿を見たい、市民の方各々の「これぞ茅野」というものをもっともっと掘り下げたい……。今年度達成できなかった分、お二人の〝やりたいこと〟はどんどん膨らみ、弾みをつけて次へと繋がっていくような気がします。

森下さんは10年前に一度、茅野の市民の方とＷＳを行った経験があり、今年度の滞在中に当時の参加者と再会し、身体表現を通じて改めて関係を結び直しました。７月と11月の２回行われたＷＳは、感染状況により実施計画が刻々と変わり森下さんやホストである茅野市民館の方々の望む完全な形での開催は難しい状況でした。しかし、そんな中で再会できた喜びは大きく、同じ時間・同じ空間で過ごしたことによる〝共に作る〟感覚というのはそれぞれの中に強く残ったようでした。森下さんがＷＳ参加

キックオフサロン

6 月 30 日（水）
“ はじめの一歩 ” のサロン（森下・石川 オンライン出演）
茅野市民館

御頭祭

4 月 15 日（木）
諏訪大社上社 御頭祭見学（森下）
午前、諏訪大社上社例大祭、
午後、御頭祭見学
（写真は NOA note より抜粋）

ベートーヴェン交響曲第5番『運命』デモンストレーション

7 月 21 日 (水)18：30
みちのちのダンススケープ
・What is「みちのちの」？
～知られざる茅野を語ろう会
茅野市民館マルチホール
森下真樹さんと石川直樹さんがコラボレーションした作品「ベートーヴェン交響曲第 5 番『運命』全楽章を踊る」より【第 3 楽章】をデモンストレーション

者を「うずうずさん」と呼ぶのには訳があります。彼らは普段から体を動かしたくて、踊りたくて「うずうず」している、と感じるからだそうです。確かに、会場に顔を見せた瞬間から皆さんキラキラと嬉しそうな表情をされており、ＷＳの最中も生き生きとされています。ダンス経験者かどうかは関係がなく、ただ体を動かし、音楽にノって踊りたい。一般公募で集まったＷＳ参加者とは思えないほど、皆さん開放的にそれぞれの感性で自由に動いていらっしゃいました。茅野市民館に関わる人々は特に、積極的に関わっていく姿勢が強く、この地の特筆すべき点であると感じました。10年前に一度時間を共にしてからその日までのうずうずが発散されたことで、森下さんが受け取ったエネルギーはとても大きかったに違いありません。

一方、石川さんは今まで八ヶ岳を囲むこの地域に興味を持ちながらも、足を運ぶ機会がほとんどなかったそうです。このプロジェクトを機にようやくその足で彼の地を踏みしめることができました。地球のあらゆる場所を旅し、人類学・民俗学にも関心をお持ちの石川さんならではの視点で文化や歴史や自然を感じ取り、ご自身の中で咀嚼し、11月に行われたトークイベント『虹のヘビと八ヶ岳』ではそのファインダーを通した世界を参加者の方に覗かせて下さいました。イベントにいらっしゃった方の中には、この茅野地域で生まれ育ったという

what is みちのちの
～知られざる茅野を語ろう会

7 月 21 日（水）、「ベートヴェン」（前ページ）終了後、WS を開催。「みちのちの＝知られざる茅野」を参加者に紹介してもらう。

7 月 21 日（水）18：30 ～
22 日（木祝）13：30 ～
What is『みちのちの』？
～知られざる茅野を語ろう会（森下）
茅野市民館マルチホール

7 月 22 日（木祝）、茅野市民館から御柱街道を通りながら散策。多留姫神社ではダンスも披露。その後、市民館に戻り、ダンス WS を開催。

方も多くいらっしゃいました。それにも関わらず新たな発見や、思わぬ視点に感動を覚えた、という声が多く聞かれました。諏訪地域に伝わるミシャグチ信仰や冷山の巨大黒曜石の露頭、八ヶ岳を縦走しながら感じたその土地の文化などとアボリジニの文化との繋がりを見出せるというのはおそらく石川さん以外、あり得ないというほどディープで独特な感性だったと言えます。

　アーティストがある地域に関わることで、そこで生きてきた人々にとっては生活の場でしかなかった場所が、全く違った顔を見せる、それに気付くことが出来る。それは、滞在の大きな意義であり、このプロジェクトのひとつの成果です。アーティストは五感で感じ取ったものをそれぞれの表現で形にしていきます。その形になったものを体感することによって、私たちはその世界を垣間見る機会を得ていますが、アーティストの存在意義はそれだけではない、というのが茅野の滞在に随行していて感じたことでした。森下さん、石川さんは今年度の滞在で新しい何かをクリエイションしたわけではありません。もちろん、発表の場は多くありましたし、市民の方と関わる企画も様々な形で実施されました。ただ、お二人はこの”茅野“という地域をひたすら自らの体にインプットし蓄積し続けていた、そんなふうに感じます。このプロジェクトは来年度以降も続いていく計画です。今後、新たな作品作りなどもされていくか

石川直樹トークイベント
『虹のヘビと八ヶ岳』
～いままでの旅、これからの旅～

石川直樹トークイベント
『虹のヘビと八ヶ岳』～いままでの旅、これからの旅～
11 月 11 日（木）18：30
茅野市民館マルチホール

森下真樹
ダンスワークショップ ver.
『虹のヘビと八ヶ岳』
～いままでの旅、これからの旅～

森下真樹ダンスワークショップ ver.
『虹のヘビと八ヶ岳』
～いままでの旅、これからの旅～
11 月 12 日（金）18：30
茅野市民館マルチホール
主催：一般財団法人長野県文化振興事業団、長野県　提携：茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造

もしれませんが、今年度のインプット作業は森下さんのWSや、石川さんの講演会で示されたように、多くの方に惜しみなく共有され、異なる感性を持つアーティストから見た「茅野」を感じることにより、地域の方それぞれが持つ「茅野」そのものを見つめ直す、きっかけの種を蒔いているようでした。

　森下さんがうずうずさんから受け取った大きなエネルギーや、石川さんが実際に八ヶ岳を歩いて見つけた発見や出会った風景など滞在を経て蓄積されたあらゆるものたちは、来年度以降も新たな展開を見せ、誰もが思いもよらない結果をもたらしてくれることでしょう。

（文・村上梓）

Q　NOA に取り組んでみて
県内でも行き来が容易ではないし、だからこそエリアによって文化や見える景色が全く異なるし、そこにめちゃくちゃ魅力を感じています。 もう少し時間をかけてこの地を、私とは異なる視点を持つ石川直樹さんと深掘りし、この地と人とコラボレーションを続けたいです。

Q　新たに得た気づきは？
ため息つくような美しい景色や、見たことのないものを見たり体験すること。また、人との出逢いが私にとって、踊るキッカケ、何かを生みだ すエネルギー源であることを改めて実感しました。

Q　取り組めたこと
今回 10 年ぶりに茅野市民館に集う方々と再会ができました。「とっておきの茅野」をお話ししてもらう交流会や、劇場空間を存分に使ったり（客席を八ヶ岳に見 立てて頂上まで登る！など）、石川直樹さんの写真とコラボするなどのダンスワークショップが実現しました。唯一無二の茅野市民館でしか体験できないスペシャルな時間でした。

森下 真樹

Q　NOA に取り組んでみて
茅野という土地に、より深く関わるきっかけになった滞在で、その後に繋がっていく経験になりました。一定の期間滞在したり、その地に住む方々と話したりしながら交わらないと、知らない場所ではなかなか扉が開かない。でも、今回はその扉が少しだけ開き、先の世界が見えた気がしています。

Q　新たに得た気づきは？
長野県と一口に言っても、東西南北の土地によって、それぞれ性格がまったく異なり、中でも茅野の独特な土地柄を体感しました。また諏訪湖や縄文文化や八ヶ岳など、知っているつもりになっていた場所・物事の、この地における重要性を再認識しました。

Q　取り組めたこと
茅野を身体で体感すべく、あちこちを歩きまわりました。八ヶ岳の南北縦走によって、広さや深さなどといった、土地勘を掴んだように思います。できなかったことは特にありませんが、「何もしないで、ただ生活する」という滞在もしてみたいです。

石川直樹

Q　NOA に取り組んでみて
アーティストや関わる人々の目を通して、八ヶ岳をはじめとする山々や自然の美しさ、縄文から続く歴史と諏訪大社を中心とした地域の信仰・文化など、この地の豊かさを再発見することができました。

Q　取り組めたこと
コロナ禍の影響を受けスケジュールは計画通りに進まないこともありましたが、その中でも実施できたワークショップやトークイベントを通じて地域を丁寧に見つめ直す機会になりました。

Q　これからのこと
諏訪地域で行われる 7 年に一度の「御柱祭」をテーマのひとつに据え、NOA の取り組みを礎として、地域交流とリサーチを深めると共に、この地ならではの創造的な作品の制作と情報発信を目指したいです。

茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造
事業部　柳澤寛之

阿南

うた・おどり・ものがたり
/ NIINO - AIR 2021

山田 百次 X 新野だら実行委員会

NOA WEB にて以下の記事（一部リンク）が掲載されています。あわせて御覧ください。

- ■ note 山田百次さん阿南探訪　1 日目　■ note 2 日目
- ■ note 山田百次さん阿南探訪（5 月）1 日目　■ note2 日目
- ■ YouTube 山田百次さん滞在 2 回目ダイジェスト
- ■ note 山田百次さん 阿南探訪（8 月）
- ■ note 新野物語制作記①〜初顔合わせを終えて
- ■ note 新野物語制作記②〜ひたすら稽古、稽古）
- ■ note 山田百次さん 阿南探訪（11 月）本番
- ■『新野物語』上演動画を公開

山田百次さん 阿南探訪①

4 月 17 日（土）〜 18 日（日）
阿南町農村文化伝承センターを訪問。「新野の盆踊り」「新野の雪祭り」など雪祭りの会場である伊豆神社を見学。

11月7日に上演した短編演劇『新野物語』は、阿南町新野地区の人々に暖かく、いや、熱いと言ってもいいくらいの熱量で受け入れていただきました。劇場も映画館もなく（昔はあったそうですが）、普段演劇を観る習慣の無いこの地域の人々の心を動かすことができたのはなぜなのか。まずは、盆踊りという、自分たちにとって身近な慣習を取り上げたものだったこと。そして、その慣習の本来の意味合いと素晴らしさに気付かされる内容のものであったからなのだと思っています。終演後のアンケートにもそのような感想が多く書かれていました。いかにして『新野物語』は生まれたのか。スタッフとしてプロジェクトに並走してきて思うのは、ホストとアーティストをはじめ、関わった人々の強い想いと、それらが奇跡的に噛み合ってできたものなのではないかということです。

まず、ホストである新野だら実行委員会の金田信夫さん。信夫さんは、仕事のかたわら「Ｄｅｅｐ Ｊａｐａｎ新野高原」というホームページを運営し、新野の生活を発信したり、移住相談や移住する人のための空き家を整理するなどの活動を行なっています。教育現場に身を置いていることもあってか、新野の伝統文化に精通していると同時に、その伝統文化が子供たちに伝わりきらず消えようとしている現状に危機感を抱いていらっしゃいました。ただでさえ過疎化が進み文化の担い手が減っているところへ、コロナ禍によって立て続けに伝統行事が中止となり、さらに危機感を強くしているところに今回のプロジェクトの話が来たそうです。

そして同じく新野だら実行委員会の金田渚さん。信夫さんの娘さんでもある彼女は、長野市の会社で働きつつ、上司を説得して新野にサテライトオフィスを作ってもらうほどの新野好き。中でも毎年夏に行われる「新野の盆踊り」には力を入れており、若いながらも盆踊りの幹部組織に所属したり、各地でワークショップを開催するなど、祭りの存続のための活動を行っています。私たちも渚さんから盆唄と盆踊りを教わったのですが、何よりもまず、彼女の圧倒的な歌声の力に驚かされました。彼女の情熱と歌声は『新野物語』のラストシーンに生かされることになりました。

そんなホストのお二人を真正面から受け止めたのが滞在アーティストである山田百次さんです。信夫さん渚さんからたくさん（本当にたくさんの）新野についてのレクチャーを

『新野物語』制作記①

6 月 17 日（木）〜 20 日（日）
『新野物語』出演者 3 名の初顔合わせ。11 月の本番へ向けて 8 月から稽古に入る。

8 月 16 日（月）〜 21 日（土）
『新野物語』稽古

阿南探訪②

宿泊先のまるはち旅館のご主人坂井さんから、盆踊りの際に歌われる「盆歌」についてお話を伺う。

5 月 15 日（土）〜 16 日（日）
盆踊りの手ほどきを受けたあと、村内をリサーチ。盆踊りの終着点、踊り神送りの場、『十王堂』（通称ジョウド）まで。

『新野物語』制作記②

10 月 4 日（月）～ 7 日（木）
衣装・小道具も揃えて、本読み（動きを付けず座ったまま台本を読む稽古）から。会話のテンポや台詞のニュアンスを山田さんから指示してもらいつつ、山田さんから金田信夫さんへ方言の確認も。

受け、その中から迷いつつも死者の霊をもてなし、そして送るという新野の死生観が凝縮された盆踊りを題材に選ばれました。また、山田さんご自身のルーツである青森の文化（方言）を新野の文化と掛け合わせることで、ユニークで大胆な展開のドラマが生まれました。伝統文化イコール、いいもの、守らなければならないもの、という理論を振りかざすのではなく、魅力を魅力として作品の形にできたのは、山田さんが純粋に面白い、魅力的だと感じた部分を大切にして作品を創られたからこそです。

渚さん、山田さんに続く『新野物語』の三人目の出演者、小原華さんの存在も作品を語る上では欠かせません。現場のムードメーカーであっただけでなく、演劇を愛し、地元の子供たちにも演劇の楽しさを伝える活動を行なっている小原さんの情熱にも支えられました。現在新野の隣にある売木村に移住して子育てをする中で役者としての活動がなかなかできないことに寂しさともどかしさを感じていたそうで、そのような方と新野で演劇作品を創りたい私たちとが出会えたことは、お互いにとってとても幸せなことでした。

以上のような、色んな想いが集まり噛み合って『新野物語』は誕生しました。そして、まずは地元の皆さんに好意的に受け止められたことにホッとしているところです。そう、「まずは」、なのです。

『新野物語』は次の段階へと進もうとしています。新野の外の人に観てもらうという段階です。信夫さんや渚さんが危機感を抱く「新野の素晴らしい伝統文化が消えてしまう」という課題に対してはまだ一歩目を踏み出したに過ぎません。でも、これから進んでいく道に『新野物語』というカードはきっと大いに役に立つのでしょう。誕生に立ち会えたことを心から光栄に思います。新野の未来に幸多からんことを。

（文・加藤亜弓）

短編演劇『新野物語』

YouTube
『新野物語』

短編演劇『新野物語』
11 月 7 日（日） 13：00 / 16：00
脚本・演出：山田 百次
出演：小原 華（ライターズ・カンパニー）、金田 渚（TeaArrow）、山田百次
方言指導：金田 信夫
映像撮影：河村 竜也
会場：まるはち旅館
制作：新野だら実行委員会、NOA 運営チーム

Q　NOA に取り組んでみて
やってみて非常に良かった。地域の人たちと時間をかけてじっくり交流できた。そのおかげで、その土地のことを題材にした作品を作るうえでよく起こるストレス（当事者を交えずに創作することへの罪悪感や、違う解釈を提示しているのではないかという懐疑やプレッシャーなど）を感じることがなかった。

Q　新たに得た気づきは？
今までは地域のことを取材し作品にしても、主に東京での発表が多かった。今回はその土地で交流、創作し、その土地で発表することができた。土地の人に喜んでもらえたことや、次年度以降の活動の継続と可能性の広がりを感じたことで、その土地に還元しているという体験を得た。これは今までの創作活動では経験したことがないものだった。

Q　これからのこと
コロナの影響で肝心の新野の盆踊り、雪まつりを未だに体験できていない。2022 年こそは参加したい。また、民話や雪まつりなど取り上げていない魅力的な題材があるので、それらを作品にしてみたい。

山田 百次

Q　NOA に取り組んでみて
ホストっていったい何をするのだろうかと不安と疑問だらけのスタートでした。
みなさんに何度も新野の魅力を紹介する中で、興味深く楽しんでいただける様子をみて、私自身がふるさとの魅力を再発見しました。「新野物語」の制作に関われたことは一生の宝です。
地域に伝わる文化、伝統行事は地元に住む人にとっては、数百年続くと言ってもあまりに当たり前で空気のようなもの。
そのひとつ新野の盆踊りの「すくいさ」を切り取り、死生観や時代を超えた普遍的人間性を浮き彫りにしていただきました。地元の人たちも「そんな意味があったのか」と涙を流す人もいました。

Q　これからのこと
「新野物語」を介して新野に興味を持った人が、その後新野を訪れ、実際に「新野の盆踊り」を体験し、二拠点居住や、移住へとつなげられたら最高です。

金田 信夫

上田 【短期滞在研修プログラム】生きることとアートの呼吸 ～ Breathe New Life

NOA WEB にて以下の記事（一部リンク）が掲載されています。あわせて御覧ください。

■ note 滞在レポート 生きることとアートの呼吸 ～ Breathe New Life by 大宮大奨、久保田舞、西村歩、鄭禹晨、岡澤由佳、渡邊遥、私道かぴ、横山彰乃、和田ながら、唐川恵美子、高橋ありす

この企画では上田市の民間文化施設「犀の角」（シアター&アーツうえだ）がホストになり、これから長野県内での創造活動の実施や継続を考えているアーティスト及びアートに関わる方を対象とした短期滞在型の研修プログラムを実施しました。

本プログラム参加者は一般公募をしたところ、全国から計40名もの応募があり、この中から書類選考にて10名を選出。県内のほか、首都圏・関西圏からダンサー、劇作家、演出家、編集者、企画者、大学助手、大学生など多様な方々が参加されました。

当初は8月末の1週間、研修参加者全員が長野県内で共に滞在し、NAGANO ORGANIC AIRが実施されている地域や県内のアートイベントの開催地を巡りながら、各企画の関係者や参加者同士の対話を通して交流を深める予定でした。しかし、全国的に新型コロナウィルス感染症の新規感染者数が増加、県内の警戒レベルも「5」に引き上げられたため、参加者や訪問先の方の安全を確保するために一旦延期となりました。結局、滞在期間を感染が落ち着くと予想された10月以降、参加者が個別に短い研修期間を決め、その期間内で視察内容を選択する

大宮 大奨

10 月 15 日（金）～ 10 月 16 日（土）

北アルプス国際芸術祭を中心に滞在。屋外のインスタレーション、中でもヨウ・ウェンフー、トム・ミュラー、磯部行久らの作品を鑑賞することで、自然と人工、身体表現と劇場空間など、場というもの面白さをに気づきを得たそう。今後、地域の環境や文化、歴史をリサーチし原始回帰する様な身体表現を模索しつつ、パフォーマンスや映像といった表現方法の幅も広げていきたいとのこと。今後、長野県へ移住する予定。

Daisuke Omiya

「2021 年 1 月 22 日、23 日に開催した自主公演の終盤での一コマ、コロナ禍における感情の内包を透明の被膜に映像作品を投影して像と虚像の間に見える信念を表現」
写真：Hiroyasu Daido

ダンサー・振付師・俳優・映像作家。2013 年伊インターナショ ナル・ダンス・フェスティバルにて日本人初新人振付家として優勝。14 年米 NY にてジェイディン・ワン・アワード受賞。17 年ドイツ / シュトゥットガルト インターナショナルダンスフェスティバル ファイナリスト。帰国後シディ・ラルビ・シェルカウイ、ダミアン・ジャレ、名和晃平、インバル・ピント & アブシャロム・ポラック、エラ・ホチルド、辻本知彦、大植真太郎、森山未來、大巻伸嗣、ジャン＝ポール・グード、ライアン・ハフィントンなどの作品に出演、振付に携わる。

久保田 舞

10 月 9 日（土）～ 10 月 12 日（火）

上田を拠点に、軽井沢・小諸・安曇野・長野・松代・大町・池田と長野県各地を訪ねる。上田市内の商店街や柳町の NPO 法人リベルテから長野の相生座・ロキシー、ネオンホールなど劇場（NOA の会場なども含む。NOA アーティストとの交流もあり）、長野県立美術館や東山魁夷館、北ルプス国際芸術祭、松代象山地下壕や川中島古戦場史跡公園などまでリサーチ。自身の生活と芸術活動の関係など、再考される機会となった様子。

期間限定でリサーチの様子が YouTube にアップされています。

Mai Kubota

「在住する川越市霞ヶ関河原にて川越市を拠点とする合同会社オンド（38 ℃）と共同主催した野外パフォーマンス企画」

ダンスアーティスト。1995 年生まれ。埼玉県立芸術総合高校にて舞台芸術を学び大学ではモダンダンス部に所属。作品制作・上演を国内外で行い、近年は他ジャンルアーティストとのコラボレーションやオペラへのダンサー出演、在住する川越市にて野外パフォーマンス企画やリサーチに力を入れている。（シンガポール M1contact comtemporaly dance festival, 韓 国 NDA International Festival, Dance New Air,TPAM フリンジ等参加）

唐川 恵美子

10 月 23 日（土）～ 10 月 24 日（日）

上田街中演劇祭 2021「月灯りの移動劇場」、FESTA 松本、木曽ペインティングスなど鑑賞。普段、医療福祉の現場で運営に携わっている観点から、様々な課題を見つけられた様子。特にアフターコロナでの事業の運営方法や広報など、事業の根幹でありながらおろそかになりがちな業務などに、自身の活動を振り返りつつリサーチ、また「月灯りの移動劇場」のアフタートークでの一言「舞台は非日常をいかに創るかなので」という一言も強く印象に残ったとか。

Emiko Karasawa

「即興劇の本番中に子どもが乱入、小道具に使う絵本を舞台の外へ出しそうになるのを、舞台端で必死に食い止める唐川」

ほっちのロッヂ 文化環境設計士。2014 年より、東京都・福井県にて市営の公共文化施設職員、地域おこし協力隊を経て現職。2018 ～ 19 年、独居または老老介護世帯をアーティストが見守る滞在制作プロジェクトと して「アーティスト・イン・ばあちゃんち」を立ち上げる。2020 年 4 月、長野県軽井沢町にオープンした「診療所と大きな台所のあるところ　ほっちのロッヂ」で、文化企画およびバックオフィス業務全般を担当。ケア分野と連携した企画プロデュースを担う。

岡澤 由佳

10 月 10 日（日）～ 10 月 12 日（火）、16 日（土）

北アルプス国際芸術祭を中心に滞在。1 日目に東山エリアと仁科三湖エリア、源流エリア、2 日目に市街地エリアを中心に、20 弱の作品を鑑賞。中でもポウラ・ニチョ・クメズの大町の自然や動物、人々の暮らしぶり等を描いた作品に引き込まれたそう。また上田では犀の角でホストの荒井さんや参加者の大宮さんと「舞台芸術」や「地域でも生きること」の関係性など、多くの気づきを得たそう。また別所神社の神楽や常楽寺見学、松本では FESTA 松本で、串田和美の『月夜のファウスト』を鑑賞。

Yuka Okazawa

「2019 年 10 月に上演した、散策者『アイルトン・セナの死んだ朝』の舞台写真。本公演には俳優として参加しました」

学生。長野県松本市生まれ。中学入学を機に演劇部と合唱団に入り、中学高校と演劇を創ること・歌うことに取り組む。大学入試を終えた翌日に『K. テンペスト』を観に行き、演劇にまた心惹かれる。大学入学後の 2017 年から 2021 年まで劇団コギトで創作を行う。また、2018 年散策者の発表会 vol.1 から散策者に携わる。

「トッピングリサーチ」という考え方で、分散的に実施することにしました。

上田で研修初日を迎えるはずだった8月25日、オンラインでキックオフミーティングを実施。画面越しですが、参加者の皆さんとの初顔合わせです。様々な分野・地域で活動する参加者たちが、それぞれの活動内容や今回の応募動機について話し合いました。「コロナ禍において都市部での創作に違和感を感じている」「県内出身者だからこそ客観的に地元とアートの出会い方を考えたい」「他地域を知ることで活動拠点について考えたい」「NOAをはじめ県内のAIR事業に関心がある」「外国籍の人が県内のアートに結びつくようなキッカケを探したい」など様々な関心や問題意識が語られました。それぞれが創作や生活について課題を感じ、どこか皆切実で、出会いの場を求めている。創作環境や、芸術活動と生活の関係について思案したり、本気で語り合えるような機会になることを期待しているようでした。

10月9日を皮切りに4週にわたって参加者の滞在がスタート。それぞれが3泊4日ほどの日程で滞在し、県内各地で視察を行いました。NO

鄭 禹晨

10 月 11 日（月）～ 10 月 14 日（木）

北アルプス国際芸術祭や美術館、BBG 黒岩など周る。浅間山と田園風景が広がるブルーベリー畑では、台湾の演劇家やアーティストを招いてのパフォーマンスなど想像。上田では映画館トラゥム・ライゼにて台湾映画をはじめとした字幕翻訳者でノンフィクション作家の田村志津枝さんとお会いして、改めて台湾と日本との交流に思いを強くされたそうで、自身の創作や企画が、長野での文化芸術活動に繋げられるよう活動したいそう。

Tei Ushin

「『Multicultural Film Making ―ルーツが異なる他者と映画をつくる』プロジェクトのメンバー募集動画」

編集者。1993 年台湾・台北生まれ。台北芸術大学映画学科卒業。2016 年来日、東京芸術大学大学院映像研究科映画専攻研究生を経て、2018 年より訪日・在日外国人向け Web メディア会社に入社、企画・翻訳・編集を担当。アートツーリズムを企画する傍ら、都市や異文化をテーマにした演劇、映像などのアートプロジェクトに携わっている。

髙橋 ありす

10 月 9 日（土）～ 10 日（日）
10 月 23 日（土）～ 24 日（日）

リベルテ、油や、BBG 黒岩、松城象山地下壕、長野県立美術、東山魁夷館、木曽ペインティングス、天空の芸術祭など周る。油やで開催されていたホンモノ市（アートやクラフト作品の展示販売会）で多様な作品に、アートの自由さを堪能できたそう。また長野県出身であるが、美術館や地下壕など未見のところでのアート作品や地域の歴史にふれられる。また芸術祭でのホワイトキューブ以外の展示にインスタレーションの面白さに気づかれたとか。

Alice Takahashi

「課外授業の善光寺宝物調査の様子」

大学生。高校時代演劇部に所属。小さい頃から演劇の映像を見て育ち、芸術に関心を持つ。現在は大学で様々な文化について学び、学芸員資格取得のために勉強しながら、芸術を取り巻く社会について学習している。中でも、地方都市における芸術の在り方について関心があり、地方での芸術の普及について深く研究していきたいと考えている。アートマネジメントを通して、誰にとっても「学ぶ・楽しい」芸術を広める活動をするのが目標。

私道 かぴ

10 月 22 日（金）～ 10 月 25 日（月）

北アルプス国際芸術祭、木曽ペインティングス、天空の芸術祭、PHOTO KOMORO などの芸術祭や松代象山地下壕、無言館などの長野の戦争遺構など周る。「地方での創作環境」と「コロナ禍での芸術の意味」の 2 つの課題を元に参加。特に芸術祭で関わる多くのステークホルダーやその他の地域の方々との関係性と、地下壕という多くの労働者によって作られた遺構を重ねあわせ、今後のアートと地域との関わりなどに、思いを寄せられたそう。

Shido Kapi

「私道かぴ共同脚本・演出作品 安住の地『¡play!』」
写真：山下裕英

劇作家・演出家。京都を拠点に活動する団体「安住の地」所属。若者の未婚問題やゲーム依存症をテーマにした作品など、人々の生きづらさを描いた会話劇を発表。安住の地では、作家・岡本昌也との共同脚本・演出にて創作も行う。お寺やギャラリーなど劇場以外の場所でも積極的に公演を行っている。2020 年は無言劇『　であったこと』、映像劇『筆談喫茶』など、コロナ禍の現状を活かした新しい劇を創作した。APAF2020 Young Farmers Camp 修了。

Aの実施地域のほか、北アルプス国際芸術祭開催中の大町市、長野県立美術館のある長野市、天空の芸術祭の開催地・東御市など、参加者の関心や希望をもとに、随時話し合いながら訪問先や回る順番を検討しトッピングを決定しました。例えば、台湾出身の参加者・鄭禹晨さんには、中国語圏の映画字幕翻訳を手掛ける東信地域在住のノンフィクション作家・田村志津枝さんと、文化芸術について母国語で対話をする機会を設けました。一方、事前にほとんど予定を決めず、到着してから即興的に翌日の行き先を決めることもありました。NOAが大切にしている有機的な人の繋がりや出逢い、新たな気づきを、研修プログラムの中でも意識して実践できたのではないかと感じています。

訪問先で実際に活動するホストやアーティストたちとの対話の機会も重要な場でした。小諸市では実際に『破戒』リーディング公演を見学し、わかち座の黒岩力也さんと鎌ヶ谷アルトギルドの石井幸一さんにお話をお伺いしたほか、池田町では小学校にて滞在制作中の平原慎太郎さんを訪問。また、大町市では北アルプス国際芸術祭

渡邊 遥

10 月 25 日（月）～ 10 月 27 日（水）

北アルプス国際芸術祭、木曽ペインディングス、BBG 黒岩、松代象山地下壕など周る。芸術祭ではサイト・スペシフィックな見せ方やインスタレーションの見せ方など多くの気づきがあったそう。また北アルプスの自然の雄大さや、集落のはずれにあるお墓など、東京とは違った景観にも長野の面白さを発見。今回の研修で作品を作ること、見せること、自然、古いもの、新しいものなどの「バランス感覚」を大切にしていきたいと思われたそう。

Haruka Watanabe

「2021 年度 助手展（大学での展示）の作品《吹けば飛ぶような》」

大学助手。1992 年 4 月 3 日生まれ。静岡県出身。女子美術大学卒業。在学中に、東京・杉並で非営利の芸術文化活動を展開している「遊工房アートスペース」でインターンを経験し、卒業制作では学生主体のアートスペース「co-ume lab.」の立ち上げに取り組む。卒業後は一般企業のインハウスデザイナーを経て、2018 年より美術大学の助手として勤務しながら作品を制作し、現在に至る。

和田 ながら

10 月 26 日（火）～ 10 月 29 日（金）

犀の角、茶房 読書の森、BBG 黒岩、信濃追分文化磁場 油や、上土劇場、ネオンホール、木曽ペインティングスなど訪問。今回の参加で得たキーワードは「DIY」と「街道」。上土劇場やネオンホール、BBG 黒岩など様々な場所で「Do It Yourself」精神に触れられたそう。また自身の活動でも滋賀県の大津から京都三条大橋までの東海道をリサーチするなど、長野の街道沿いのアートスポットにシンパシーを感じたそう。

Nagara Wada

「地図にまつわるリサーチプロジェクト『わたしたちのフリーハンドなアトラス』で行ったワークショップのひとコマ」

演出家。2011 年に自身のユニット「したため」を立ち上げ、京都を拠点に演出家として活動を始める。美術家や写真家など異なる領域のアーティストとも共同作業を行う。2015 年、創作コンペティション「ひとつの戯曲からの創作をとおして語ろう」vol.5 最優秀作品賞受賞。2018 年、こまばアゴラ演出家コンクール観客賞受賞。2018 年より多角的アートスペース UrBANGUILD のブッキングスタッフ。2021 年度セゾン文化財団セゾン・フェロー I。NPO 法人京都舞台芸術協会理事長。

横山 彰乃

10 月 23 日（土）～ 10 月 26 日（火）

上田、木曽、小諸、大町、松代、長野界隈を周る。大町出身ということで、北アルプス国際芸術祭など地域で行われている芸術祭の鑑賞には複雑な心情があったそうだが、ヨウ・ウェンフー《心田を耕す》など、アーティストと地元の方との協働の作品で「土地に対する深い感情」を真摯に感じられて、地域でのアートの新たな気づきを得られたとのこと。また木曽ペインティングスなどでも古い建物がそのまま会場として使われているところも面白みを感じたとか。

Ayano Yokoyama

「lal banshees 海二部作『海底に雪』」
写真：Toshie Kusamoto

ダンサー / 振付家。長野県大町市出身。2009 年より東京 ELECTROCK STAIRS メンバーとして国内外の全作品に出演。2016 年 lal banshees 立ち上げ。モダン・ストリートダンステクニックをベースとしながら囚われず派生し、感覚に着目した独自のムーヴメントを追求。中性的で音と動きが緻密に関係する作品を発表している。普通の事をファンタジックに切り取り現実に戻す音楽的ダンスを体現する。セゾン文化財団セゾン・フェロー I
yokoyamanaa.com

実行委員会事務局の牛越秀仁さんから芸術祭の運営について直接お伺いできたこともあり、参加者の中からはレジデンス施設「あさひ AIR」への滞在を今後検討したいという反応もありました。

地域を越えて移動したことで、長野県の地形の多様さを実感できる良い機会にもなりました。上田から大町に向かう際は複数の峠を越える道、木祖に向かう際は中山道・木曽路を通過しながら谷を体感。車窓の眺めや身体感覚から、自然・気候や大地の起伏を体感する事も研修のインプットのひとつとなりました。移動のあいだ、2～4人程度の少人数が山道を走りながら、対話や雑談を通してお互いの創作や課題意識を受け取り合い、共に旅する仲間という感覚を持てたことも有意義な体験となりました。

コロナ禍という非日常が常態化し、生きることの難しさに直面している今。参加者は長野県という地で新しい出会いを得て、呼吸をし始めています。呼吸することは今生きていることの証しであり、新たな発展に向かっているということなのだと思います。

（文・伊藤茶色）

ポスト・パフォーマンス・ディスカッション

上映会終了後、会場を犀の角に移し、ZOOM を使ってポスト・パフォーマンス・ディスカッションが行われた。登壇者はオンライン参加で、シャンカル・ヴェンカテーシュワランさん、アニルドゥ・ナーヤルさん、チャンドラ・ニーナサムさん、鶴留聡子さん、山田せつ子さん、川原美保さん、木村典子さん。会場では NOA コーディネータの野村政之さん、NOA 上田ホストの荒井洋文さんが参加。

ポスト・パフォーマンス・ディスカッション
11 月 21 日（日）18：30 ～ 19：30
会場：犀の角　参加費：無料

『犯罪部族法』上映会

2017 年に初演され、コロナ禍に映像作品としてリクリエイションした『犯罪部族法』を上映。英国植民地下のインドで実際に施行された「犯罪部族法」を出発点に、ZOOM を使った 2 人の俳優の対話によって、古代から続くカースト制度や近代化による社会差別の構造が浮き彫りとなっていく。

上映会
11 月 21 日（日）17：00 ～　会場：上田映劇　チケット：無料

『犯罪部族法』
作・出演：アニルドゥ・ナーヤル / チャンドラ・ニーナサム　構成・演出：シャンカル・ヴェンカテーシュワラン　撮影：カルン・プラサード・K.S.　撮影助手：ハルシト・C.　編集：アニール・レヴール　編集助手：シュレーヤーカルティク　協力：ジャヤープラカーシュ・クルール / ジャン＝ギ・ルカ / ヤシャス・チャンドラ / ジャンガマ・コレクティブ / ランガ・シャンカラ劇場　制作：シアター・ルーツ＆ウィングス　日本語字幕：鶴留聡子　日本語字幕 映像編集：森田諒 / 京都芸術大学舞台芸術研究センター
（本研究は JSPS 科研費 20H00009 の助成を受けたものです。）

2021年11月21日（日）、上田映劇にてシャンカル・ヴェンカテーシュワランさんの演出作品『犯罪部族法』の上映会を実施しました。上映後は犀の角に会場を移し、ポスト・パフォーマンス・ディスカッションとして、シャンカルさんや『犯罪部族法』出演者のほか、この企画に関わった方々との座談会を開催しました。インド3都市、国内3都市と上田をオンラインで繋ぐという、コロナ禍を反映したような形となりました。

もともとNAGANO ORGANICA IRの上田プログラムでは、（一社）シアター＆アーツうえだがホストとなり、京都芸術大学舞台芸術研究センターと共同でシャンカル・ヴェンカテーシュワランさんを招聘し、京都と上田での滞在制作と上演を行う計画を立てていました。2020年3月には、その下見としてシャンカルさんが上田に短期滞在し、別所温泉や上田紬の工房など市内各所をリサーチしました。この際、シャンカルさんが特に関心を持ったのが、かつての上田の主要産業であった”絹“と”織物“でした。インドと京都、上田をつなぐキーワードを見出し、制作のプロセスを検討していた折、世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、来日が困難になりました。そのため、予定を変更し2017年に初演され、2020年に映像作品としてリクリエイションされた『犯罪部族法』の映像上映会を実施することとなりました。

上映会の前半は上田映劇で『犯罪部族法』を鑑賞。英国植民地下のインドで1871年に施行された法律「犯罪部族法」を出発点に、英語とカンナダ語という異なる言語を話す2人の俳優のやりとりを通して、言語やカースト制度に関わる差別が、見えにくい形に変化しながらいまなお残るインド社会の構造的課題を問いかける本作を、計25名の観客の皆さんが熱心に鑑賞しました。

後半のポスト・パフォーマンス・ディスカッションでは、『犯罪部族法』を演出したシャンカルさん、出演したアニルドゥ・ナーヤルさんとチャンドラ・ニーナサムさん、またプロデューサーの鶴留聡子さんがインドから登壇。京都芸術大学舞台芸術研究センターから山田せつ子さん、川原美保さん、また『犯罪部族法』上演が今後予定されている公益財団法人 北海道演劇財団から木村典子さんがオンラインで繋がり、司会の野村政之さん、ホストのシアター＆アーツうえだ代表・荒井洋文さんと犀の角の観客の皆さんと対話の時間を共にしました。実際の『犯罪部族法』のクリエイションの様子や、インドや他国の観客の反応、上田でのリサーチの印象などが語られるとともに、作品内と同じようにディスカッションにおいて日本語、英語、カンナダ語が順次、多重通訳されることを現実に体感し、作品に対する理解を深めることができました。また、国際的に地域を繋ぎ不安定な通信状況を乗り越えて言葉を交わすなかで、コロナ禍で遮断された異文化交流の感触を改めて経験し直す機会ともなりました。

2020 年 3 月に来日し、上田紬の工房などをリサーチ中のシャンカル・ヴェンカテーシュワランさん。

シャンカル・ヴェンカテーシュワラン
1979 年生まれ。インド・ケーララ州出身の演出家。カリカット大学演劇学部を卒業後、シンガポールの演劇学校シアター・トレーニング＆リサーチ・プログラムにて 3 年間学ぶ。2007 年、劇団シアター・ルーツ＆ウィングスを旗揚げ。演出作品に『山脈の息子－エレファント・プロジェクト』（2008 年）、太田省吾『水の駅』（2011 年）、ヘンリック・イプセン『私たち死んだものが目覚めたら』（2012 年）、京都芸術大学舞台芸術研究センターとの共同製作による『水の駅』（2016 年 / KYOTO EXPERIMENT 2016 AUTUMN にて上演）、『インディアン・ロープ・トリック』（2020 年 / シアターコモンズも共同製作）などがある。
写真：Gabriela Neeb

舞台版『犯罪部族法』
写真　松見拓也

座談会

31ページから

津村
僕もサントミューゼ（上田市）の館長時代にＡＩＲ事業を行い、同じような感触を持っていました。アーティストは多い人で１年間に６回ぐらい上田と行き来していましたね。そうすると３回目くらいの訪問から地域の皆さんと深い関わりができていくんです。ですから『ＮＯＡ』でも作品のアウトプットをマストとするのではなく、アーティストが地域と出会い、触れることの重要性を大切にした、継続できる事業の入口を作ろうと考えたわけです。

野村
仕組みとしては「成果発表は求めない」のですが、結果的に半分以上のアーティストが地域で創作した作品を発表しました。アーティストという存在は、面白いことや未知のことに出逢ったらそれを作品にして人々に見せたいんです。「発表が目的ではない」と言い切ることで「地域との出逢い」が生まれ、「出逢いが埋め込まれた新しい作品」が創作される。逆説的なようですが、アーティストを理解し、信頼して「後の先」をとるのが上手なやり方だと思います（笑）。

飯山　禅と表現 行ったり来たり（柴幸男）ワークショップの様子。

『ＮＯＡ』のホストになった地域はどのように決められたのでしょうか。演劇分野の串田和美（くしだ かずよし）監督が県内各地に演劇作品を届ける『トランクシアター・プロジェクト』を実施した地域が継続しているところもありますね。

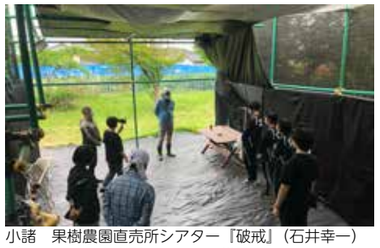
野村
芸術監督団事業は人づくりを目的の中心に据えてきました。ですから『ＮＯＡ』ではホストとして、県内に暮らしている皆さんの働きが見えるようにしていくということを始めから目指しています。先立って、串田和美監督が手掛けていた『トランクシアター・プロジェクト』で巡った地域がありましたから、そこの方たちに継続して芸術監督団事業に関わっていただくとともに、今回のコンセプトと今後の県の文化事業の方向性に関係する地域の団体を探しました。

津村
文化事業と言った時に、もちろんエンタテインメントを求めていらっしゃるお客様もたくさんいらっしゃいますし、最新技術が必要な興行は体力がある文化施設でしかできないこともあります。それらはすでに実現されているのですから、違う切り口を立てようということですね。例えば、サッカーのＪリーグの地域理念を文化事業に当てはめると、Ｊ１の試合をするのではなく、初めてサッカーと向き合った地域の子どもたちや大人たちが、Ｊ１の選手と一緒に練習や試合をすることで、地域の中でサッカーをもとに新しい価値感を見出す取組のようなものだと思うんです。これからの時代にはそうした活動が重要ではないでしょうか。

受け入れる地域の課題や目標に寄り添った滞在アーティストのマッチングを心がけた

地域とアーティストのマッチングについて、いくつか例を紹介していただけますでしょうか？

野村
まず『ＯＲＧＡＮＩＣ』なのだから、農業や土との関わりが必要と考えたのが小諸市での企画です。わかち座の劇作家・黒岩力也（くろいわ りきや）さんはブルーベリー農家でもあり、千葉県で梨農家を営んでいる演出家の石井幸一（いしい こういち）さんのことを知っていたので、この顔合わせが浮かびました。木祖村は「木曽ペインティングス」の取組として旧旅館を改装したアーティスト滞在施設の構想があるのを聞き、この機会を活用してもらおうと。滞在していただいた武井琴（たけいこと）さんはダンスをコマ撮りした映像作品を作られていたので、絵画同様の展示にも馴染みますし、木曽ペインティングスの若手アーティストと仲良くなって、木曽地域で継続的に活動してほしいという期待を込めました。


小諸　果樹農園直売所シアター『破戒』（石井幸一）ブルーベリー直売所シアターの様子。

木曽アート・ダンス留学（武井琴）木祖村在住（当時）のアーティスト近藤太郎さんのアトリエを訪問。

南信の阿南町も、他所とは違ったテイストを感じます。

野村
南信州の民俗芸能・伝統文化は長野県の宝、もっと言えば全国的な宝です。これを今回の事業に絡めたいというのが出発点でした。「新野だら実行委員会」の金田信夫（かなだ しのぶ）さん、渚（なぎさ）さんとのつながりが糸口となって実現しました。阿南町新野は「盆踊り」「雪祭り」の二つの国指定重要無形民俗文化財がある特別な地域で、年中行事を大切にしている住民の皆さんは、神仏の気配を感じながら日常を暮らしている。この空気を吸って、地域を理解しながら魅力を発信する戯曲を書ける人ということで、イタコの習俗がある青森県出身の劇作家・山田百次（やまだ ももじ）さんを選びました。

津村
当たり前のことですが、『ＮＯＡ』を通して、改めてキャスティングの重要性に気がつきましたね。素晴らしいアーティストだったら誰でもいいというわけではない。

野村
アーティスト選びは受け入れ側のモチベーションが上がる存在であることもとても大事だと実感できました。

藤澤さんはどのような関わり方をしていたのか教えてください。

茅野　みちのちのダンススケープ（森下真樹、石川直樹）諏訪湖を眺めながらランチ。

藤澤
僕たち運営チームは、マッチングが決まったところで現場を動かしていく立場でした。どの地域のホストも郷土愛、地域愛にあふれている方々ばかりで、アーティストを色々なところに案内してくれたり、地域にどんな歴史があるのかを非常に丁寧に説明してくださいました。それこそ惜しみなく。

現場ではどんなことが起きていたのでしょうか、いくつか紹介していただけますか。

藤澤
小諸の黒岩さんはブルーベリーの直売所の建物を劇場空間に改造していたんですけど、定期的に石井さんがやって来て、色々な使い方をしてくれることに大きな刺激を受けたようです。伺うたびに空間に手を入れ、変化させていらっしゃいました。

野村
それとともに近隣の高校生も巻き込んだり、公演を行ったり、どんどん創作の場、創造の場になっていきましたね。石井さんと黒岩さんが、直売所をアトリエにしている、農家の跡取り同士だという共通点も大きかったようです。

藤澤
安曇野市教育委員会の三澤新弥（みさわ しんや）さんは、アーティストに張り付いて、安曇野市が合併する前の５町村すべてをくまなく、丁寧に案内してくださり、アーティストが常念岳に登りたいと希望した時は、係の皆さんが一緒に登ってくださった。係の中で登山経験がなかったお一人が、これをきっか

けに登山に目覚めたそうです。

野村
飯山市でも面白いことがありました。臨済宗（りんざいしゅう）の正受庵（しょうじゅあん）の和尚さんが毎月1日と15日に托鉢（たくはつ）で市街を回るんですけど、僕らもついて回ったんですよ。

藤澤
正受庵さんはホストである「飯山市文化交流館なちゅら」の池田春彦（いけだ はるひこ）さんの紹介でしたが、「なちゅら」のロビー（ナカミチ）も托鉢のコースに入れてほしいとおっしゃって。以来、事務所に托鉢が来るとお米や野菜を差し上げているそうです。寺の町、飯山らしいエピソードが生まれました。

倒立と四足歩行の研究・軽井沢編（渡邉尚）
軽井沢ニューアートミュージアムにて。

野村
アーティストによってホスト側が影響を受けた例という意味では、マッチングの妙が発揮されたということでもありますね。

津村
それは長野県が持っている潜在的な力みたいなものだと思うんです。少し刺激すると秘めていた想いがどっと出てくるというか。

野村
私としては、どこの地域でやっても同じことになるような形式的なAIRプログラムや文化事業を粗製量産するのではなく、有機栽培のおいしい野菜のようなプログラムを行いたい、『NOA』はその想いに尽きます。

そしてその結果が出たのは、藤澤さんはじめ運営チームが現場で頭を使ってきめ細かくサポートしていたからで。例えば軽井沢は連日の雨で、浅間山や修験道のスポットで映像を撮るという予定がすべて中止になってしまったんです。

藤澤
5、8月に身体研究家／サーカスアーティストの渡邉尚（わたなべ ひさし）さんが滞在されたのですが、ほとんどの日が雨でした。その時に、美術分野の芸術監督団事業『シンビズム』で関わってくださった軽井沢ニューアートミュージアムや小海町高原美術館の学芸員の皆さんに相談したところ、撮影を快く受け入れてくださいました。小海町高原美術館では、渡邉さんと以前から繋がりのあった画家のスズキコージさんの展覧会が開かれていて、予期せぬコラボレーションに発展しました。『シンビズム』の取組があったことで、アーティストの方にも満足していただく結果になったのは良かったです。

津村
『トランクシアター・プロジェクト』（演劇分野）や『シンビズム』（美術分野）と芸術監督団でやってきた事業が部分、部分でクロスしていたわけです。

ホストの周囲にもつながりが広がっていったのも注目したいポイントです。

野村
阿南町の企画では、関係人口を増やすためのひとつの方法として『NOA』の取組を位置付けています。新野地区の小中学校を存続することが、地域の伝統文化を継承していく上で重要な課題である中で、子どもの数を維持するために金田さんたちが、山村留学や移住の受け入れ支援を草の根でやっている。地域の皆さんが抱えているこうした課題を引き受けて、新野の文化的な魅力を地域が再認識し、地域の外に発信するために〝新野の戯曲〟を創作する取組があるのです。

アーティストをサポートする人材の掘り起こし・支援も必要

さて、新野での作品上演の際には継続を希望するコメントも出ました。次につながる動きも出てくるでしょうし、違う地域で動きが起こるかもしれません。そして『NOA』の可能性という意味も含め、今後の取組はどう考えていらっしゃいますか。

津村
県には今後10年は丁寧に続けてほしいと思っています。ただ僕らも学んだことがたくさんありますから、そのことを踏まえた上で進めていきたい。地域もまだまだたくさんある。お祭りもすごくたくさんある。野村さんがおっしゃったように課題を抱えているところもあるでしょう。だからこそ地域と丁寧に、向き合っていく必要性を感じます。ただこればかりは1年で成果を出せたところ、あるいは10年は付き合わなければいけないところと、きっと濃淡が出てくるとは思いますが。

あまるほど踊る安曇野ダンスマッピング（…1［アマリイチ］）
『うちそと駅伝』での一コマ。

野村
県として掘り起こしをして、行政の関わりがあるところは市町村と協働したり事業を引き継いでもらったりして、継続して取り組んでもらえたらいいなというのがひとつのあり方です。また、民間のホストの場合には、色々なところからの支援を受けられるようにサポートしていけたらと思います。いずれにしろ、それぞれの地域でビジョンを持っているプレイヤーを後押しして光らせていくのも僕らの仕事だと思います。

津村
地域にいるコーディネーター的な方やアーティストへのサポートは非常に大切ですね。

野村
津村さんがおしゃるように10年、それだけの時間をかけて「アートをサポートするとこんなことが起きる」という事例をたくさん生んで、「自分たちもアーティストやアートの取組を応援したい」というサポーターが増えていくような展開になっていくといいなと思います。

藤澤
僕自身もコーディネーター、アートマネージャーという立ち位置で活動したのは初めてでした。丁寧に事業を進めようとする中で、僕たちは主催側ですが、あくまでも地域のホストの方々とアーティストがうまく関係を築けるように、それぞれにメリットや新しい発見が生まれることを目指しました。それこそが長野県の重要な宝になるものなのだと思います。

北アルプス展望ダンスプロジェクト（平原慎太郎）
広津地区での獅子舞復興活動のリサーチ風景。

今回の座談会を通じて、長野県を「創造する県」に、という津村監督のビジョンが、AIRの取組の中で、具体的な形として浮かび上がってきていることが分かりました。長野県が潜在的に持っている魅力や価値が、地域のホストとアーティストの皆さんによる、人と人との関わり合いによって見えるものになっていく。地域の可能性が少しずつ拓かれようとしているのかもしれません。

長野県芸術監督団事業は、演劇、音楽、美術、プロデュースの分野で6年間に渡って実施され、令和3（2021）年度が集大成となります。今回のお話にあるように、それぞれの分野での取組の蓄積が『NOA』の土台になったり、企画を高める繋がりとして作用したりしたことは、「創造する」事業を継続して実施してきたことの成果でもありますし、また、今後の長野県の文化芸術の発展に向けた「土づくり」「畑づくり」とも言えるものだと感じました。

戯曲　『破戒』

登場人物

瀬川丑松1
瀬川丑松2
瀬川丑松3

銀之助
敬之進
お志保
お志保？

牛藤村1
牛藤村2
牛藤村3

牛神

【0】

牛神　総ては今この瞬間に起きている。
この瞬間こそが、過去や未来も変える可能性を秘めている。
お志保？はじめまして。私は小説「破戒」に登場する。お志保と言う者です。
皆さん、ご存じかと思いますが「破戒」の作者は、島崎藤村です。
随分と前に書かれた小説ですので、古く感じる所もあるかと思います。
古さも文学的な味わいとして、受け止めていただけたら幸いです。
島崎藤村は、小諸に住んでいたことがありました。小諸での生活が「破戒」の世界観を作ったと思います。浅間山の雄大な自然と、そこに暮らす人々の営みに、島崎藤村は、豊かな時間の流れを感じたのだと思います。

【1】

牛神　島崎藤村「破戒」。これより開演いたします。
牛藤村1　これは過去の物語である。過去には後の時代に取って、反省すべき事柄も多い。
過去こそ、真実であるからであろう。
天長節の夜。宿直の当番であったので、教員の瀬川丑松と土屋銀之助は小学校に残った。
牛藤村2　風間敬之進は心細く、名残惜しくなって、いつまでも去り兼ねる様子。
牛藤村1　宿直室の時計は九時を打った。丑松は見廻りに行き、二十分ほどで帰って来た。
牛藤村3　銀之助　おい、どうした？
牛藤村3　敬之進　顔色が悪いですよ。
牛藤村3　丑松。
丑松1　実は、不思議なことがあるんだ。
丑松2　校舎を廻って運動場に行くと、誰か呼ぶ声がする。それは、僕の親父の声なんだ。
牛藤村3　銀之助　妙なことが有るものだな。
牛藤村3　敬之進。
敬之進　どんな風に呼びました？
牛藤村3　丑松ぅ。
丑松3　丑松、丑松とつづけざまに。
牛藤村3　敬之進。
敬之進　名前を？
牛藤村3　丑松。
丑松1　確かに呼んだんです。親父の声だった。
牛藤村3　銀之助。
銀之助　お父さんは西乃入の牧場だろう。
あんな遠くから、まさか。
牛藤村3　丑松ぅう。
丑松2　また声が！　もう一度行ってきます。
牛藤村3　敬之進。
敬之進　どうも気掛かりだ。我々も行こうか。
牛藤村3　銀之助。
銀之助　そうですね。
牛藤村2　丑松は、声のする方を辿って行った。
牛藤村3　丑松、丑松。
丑松3　おとっさん、おとっさん。
丑松1　また声が聞える。
牛藤村3　銀之助。
銀之助　おい、大丈夫か？何も聞こえなかったぞ。
牛藤村3　敬之進。
敬之進　吾輩にも聞こえない。きっと幻聴だよ。
牛藤村3　銀之助。
銀之助　まあ、気にするな。ちょっと疲れているんだよ。
牛藤村2　翌日の朝。丑松は父の死を知らせる電報を受けとったのである。
父は西乃入の牧場で、気性の荒い種牛に襲われ亡くなった。
牛藤村1　丑松、隠せ。いかなる目に遇おうと、いかなる人に巡り合おうと決っして打明けるな。
牛藤村2　一時の感情や気の迷いで、この戒を破ったなら、世の中から捨てられたものと思え。
牛藤村1・2　隠せ。隠せ。絶対に隠せ。
これが世に出て身を立てる穢多の秘訣じゃ。

牛藤村3　丑松。
丑松（全員）おとっさん、おとっさん。

【2】

牛藤村1　蓮華寺では下宿を兼ねた。丑松が急に引っ越しを思い立ち、借りる事にした部屋は、蔵裏の続きにある二階の角のところ。
牛藤村2　その窓から、飯山の町並みや小学校も見える。夕方近くに丑松は町へ出かけた。
丑松1　本町の雑誌屋には、新着の書物を筆太に書いて張出してあった。
丑松2　かねて新聞広告で見て、出版の日を楽みにしていた「懺悔録」
牛藤村1　猪子蓮太郎、著。定価も書添えた広告が目につく。
丑松3　胸が踊るような心地がした。
丑松1　黄色い表紙に「懺悔録」としてある本。四十銭を出して買い求めた。
丑松2　本を抱いて下宿に帰って行く途中、学校の同僚に会った。
牛藤村3　銀之助。
銀之助　瀬川君、大層遅いじゃないか。
牛藤村2　銀之助は、丑松から下宿を替えた話を聞いた。
銀之助　君はよく下宿を替える人だねえ。こないだ引っ越したばかりじゃないか。
牛藤村1　その時、丑松の持っている本が目についた。
銀之助　「懺悔録」か。相変らず君は猪子先生のものが好きだな。まあ君は愛読を通り越して崇拝だ。さぞかしまた、この本の事を聞かせられるだろうなあ。
牛藤村2　夕餐の煙は町の空をこめて、同僚の姿も黄昏がれて見えた。
牛藤村3　丑松。
丑松3　僕は、いったい、なんの為に生きているのか。朝、起きて、食事をして、うろうろして、夜になれば、寝る。人を、こわがってばかりいる。
丑松1　僕は、どんな人が偉いんだか、どんな人が悪いんだかその区別さえ、はっきりしない。淋しい顔をしている人が、偉そうに見えて仕方が無い。
丑松2　可哀想だ。人間が可哀想だ。みんな可哀想だ。
丑松3　僕は、人の真似をして、憎むの軽蔑するのと騒ぎ立てていただけなんだ。実感としては、何もわからない。
丑松1　人を憎むとは、どういう気持ちか、人を軽蔑する、嫉妬するとは、どんな感じか、何もわからない。僕が実感として、わかる情緒は、可哀想という思いだけだ。
丑松2　この感情だけで、生きて来たんだ。
丑松3　僕は、可哀想に思われて仕方がないんだ。
丑松（全員）可哀想に思われて仕方がないんだ。
牛神　過去と未来に縛られる者は、今を感じる事が出来なくなる。

【3】

牛藤村1　丑松は下宿の畳の上に倒れて、身動きもせずに考えていた。
牛藤村2『懺悔録』は、我は穢多なり、という文句で始めてあった。
牛藤村1　我は穢多なり。同じ人間でありながら、軽蔑される道理は無い。
牛藤村2　過去の記憶が丑松の胸の中に生き返った。
牛藤村3　丑松。
丑松1　七つ八つの頃まで、よく他の子どもに調戯われたり、
丑松2　石を投げられたりした。その恐れの情がふたたび起って来た。
丑松3　朦朧ながら、小諸の向町にいた頃のことを思い出した。
丑松1　『懺悔録』を読んで、せつない苦しみを感じた。
牛藤村1・2　丑松もまた。穢多なのである。
お志保？「破戒」は「穢多」という身分の差別を主題として書かれた小説です。
穢多とは、士農工商という身分の下に位置づけられていました。
日本では古来より「血」が穢らわしい物とされておりましたので、生き物を屠殺し皮を剥ぐ職業も忌み嫌われていたのです。
これらの職業を生業とする人々が穢多と呼ばれ、その身分は代々引き継がれていったのです。

【4】

牛藤村1　丑松。
丑松1　校長先生、何か御用談中じゃ、ありませんか。
牛藤村3　いえ。別に。
丑松2　実は風間さんが、お願いがあるそうです。
牛藤村3　私に？何ですか。
牛藤村1　敬之進。
敬之進　あの、ですね。少し。お願いしたいことがあまして。えっと。そのですね。
牛藤村1　丑松。
丑松3　そんなに遠慮しないで。
丑松1　私から伺います。風間さんのように

戯曲　『破戒』

退職となった場合には、恩給を受けさして頂く訳に参りませんものでしょうか。

牛藤村3　無論です、そんなことは。小学校令の規則を出して御覧なさい。

丑松2　そりゃあ規則は規則ですけれど。

牛藤村3　恩給を受けられるという人は、満十五ケ年以上、在職したものに限った話です。彼は十四ケ年と六ケ月にしかならない。

丑松3　でも、わずか半年のことで。

牛藤村3　それを許したら際限が無い。恩給のことは諦めて養生なさい。

丑松1　どうです、貴方からも御願いしてみては、

牛藤村1　敬之進。

敬之進　いえ、今の御話を伺えば。お言葉に従って、諦めるより外はないと思います。

牛神　軽蔑。嫉妬。憎悪。そして、差別。人間が奥底に抱える闇の冷たさを感じる。

牛、牛、牛。我は、牛神なり。

【5】

牛藤村2　もとより銀之助は丑松の素性を知る筈がない。二人は長野の師範校にいる頃から、気の合った友達だった。

牛藤村1　あの頃に比べると丑松は変った。以前の快活さを失った。

牛藤村3　銀之助。

銀之助　どうにも気掛かりで、蓮華寺に尋ねて行った。苔蒸した石の階段を上り、落葉を掃いていた寺男に、瀬川君はおりますか。と聞く、寺男は蔵裏の方へ見に行った。急に声がした。

丑松1　まあ、あがりたまえ。

銀之助　見ると瀬川君が二階の障子を開けて、顔を出した。私は暗い梯子段をあがった。

牛藤村2　机の上には『懺悔録』

牛藤村3　銀之助。

銀之助　よく君は引っ越して歩くね。部屋は、前の下宿の方がよさそうじゃないか。

丑松2　ここの、鼠が多いのには驚いた。

牛藤村3　銀之助。

銀之助　鼠？

丑松3　昨夜は枕元にも来たよ。今朝その話をしたら、奥様の言草が面白い。猫を飼って鼠を捕らせるより、自然に任せて養ってやるのが慈悲だ。

丑松2　食物さえ宛行ってやれば、そんなに悪さする動物ぢゃない。

丑松3　うちの鼠は温順しいから御覧なさいって。そう言われて見ると、少しも人を恐れない。白昼ですら出て遊んでいる。

牛藤村3　銀之助。

銀之助　奥様という人は変った人だね。

丑松1　普通の人より宗教的なところがあるのさ。

牛藤村3　銀之助。

銀之助　他にはどんな人がいるんだ？

丑松2　子坊主が一人。下女。それに庄太という寺男。

丑松3　それから、風間さんの娘で、このお寺に貰われて来ている、お志保さん。

牛藤村3　銀之助。

銀之助　風間さんの娘が。

丑松1　そう。お志保さんは、僕たちの来る前の年に学校を卒業した人だよ。

お志保？明治元年。天皇陛下がご誓文を出されて、我が国は近代国家の仲間入りを果たしました。士農工商の身分制度の廃止。明治四年には解放令によって穢多、非人という身分の区別も廃止されました。我が国は天皇陛下のもと、総ての国民が平等なのです。と、私は学校で教わりました。でも、本当に平等なのでしょうか？

【6】

牛藤村1　一膳めし、笹屋。表の障子を開けて入ると、のみくいしている二、三の客。主婦さんは流許に行ったり、竈の前に立ったりして、忙しそうに働いていた。

牛藤村3　丑松。

丑松1　主婦さん、何かありますか。

牛藤村2　川魚の煮いたのに、豆腐の汁ならごわす。

丑松2　そんなら両方貰いましょう。それで一杯飲まして下さい。

牛藤村3　敬之進。

敬之進　よう、めずらしい御客様が来てますね。

牛藤村3　丑松。

丑松3　風間さん、釣りですか。ちったあ釣れましたかね。

牛藤村3　敬之進。

敬之進　獲物なしさ。朝から寒い思をして、一匹も釣れない。

牛藤村3　丑松。

丑松1　とりあえず、一つ差上げましょう。

牛藤村3　敬之進。

敬之進　君から盃を貰おうとは。道理で今日は釣れない訳だ。

牛藤村1　身を震わせながら、さも甘そうに地酒を飲む。

敬之進　我輩も学校を辞めてから、これという用が無いもんだから、釣りなぞを始めた。

牛藤村3　丑松。

丑松2　この雪の中で釣れるんですか。

牛藤村3　敬之進。

敬之進　素人はこれだから困る。冬はまた冬で、人の知らないところに面白味がある。

なに、風さえなけりゃ、そう思った程でもないよ。しかし、なにが辛いと言ったって、用がなくて生きて居るほど世の中に辛いことは無いね。

実は、こないだ、娘に逢いました。

丑松3　お志保さんに。

牛藤村3　敬之進。

敬之進　娘の方から逢ってくれろという。もっとも、我輩もね、成るべく娘には逢わないようにしている。ところが何か相談したいことがあると言うもんだから、久し振に逢ってみた。もうどうしても蓮華寺にはいられない、一日も早く家へ帰るようにしてくれ、頼む、と言う。事情を聞いて見ると無理もない。その時、我輩も始めてあの住職の性質を知ったような訳さ。

牛藤村3　丑松。

丑松1　性質と言うと？

牛藤村3　敬之進。

敬之進　よく世間には立派な人物だと言われていながら、女というものにかけて、非常に弱い男があるものだね。蓮華寺の住職もやはりそうだろうと思うよ。娘はもう悲いやら恐しいやらで、夜も寝られないと言う。一日も早く引取りたいが、また娘が飛込んで来て見給え。八人の親子がどうして食えよう。娘に帰れとは言われない。先方が親らしい行為をしないまでも、これまで育てて貰った恩義も有る。一旦、蓮華寺の娘と成った以上は、どんな辛いことがあろうと決して家へ帰るな。

そこを勤め抜くのが孝行というものだ。とまあ、無理やり娘を追立てたよ。

牛藤村3　丑松。

丑松2　知りませんでした、お志保さんがそんな辛い思いをしていたなんて。

牛藤村3　敬之進。

敬之進　吾輩は情けない父親だよ。

【7】

牛藤村2　この大雪を衝いて、市村弁護士と蓮太郎の二人が飯山へ乗込んで来る、という噂は学校に居る丑松の耳にまで入った。

牛藤村1　その日は宿直の当番として、丑松と銀之助は学校に居残ることに成った。

牛藤村2　もっとも銀之助は用事が有ると出て行って、日暮になっても帰って来なかった。

牛藤村1　蓮華寺の鐘の音が宿直室のガラス窓に響いて聞える頃、

牛藤村2　ことに烈しい胸騒ぎを覚えて、何となくお志保の身も案じられる。

牛藤村1　様々な想像に耽りながら、悄然とランプの火を見つめて居るうちに

牛藤村1・2　お志保が入って来た。

丑松3　お志保さん。

丑松1　どうしてこんなところに。

牛藤村3　お志保。

お志保　何故、父や弟にばかり親切にして、私にはよそよそしいの。何故、優しい言葉の一つも懸けてくれないの。何故、口唇は言いたいことも言わないで、堅く閉じ、塞がって恐れと苦しみとで震えているの。今の私を見て。

牛藤村3　銀之助。

銀之助　見給え、君があまり沈んでいるから、だから君は誤解されるんだ。

丑松2　誤解されるとは？

牛藤村3　銀之助。

銀之助　君を穢多だなんて、実に途方もないことを言う人もいる。

丑松3　誰がそんな事を？

牛藤村3　銀之助。

戯曲　『破戒』

銀之助　僕は青年時代の悲しみということを考えると、いつも君の為に泣きたくなる。
実際、僕は君の心情を察している。君の慕っている人に就いても、僕は同情を寄せている。
君から切出してくれると、およばずながら出来るだけのことは尽すよ。

牛藤村1・2　隠せ。隠せ。絶対に隠せ。
これが世に出て身を立てる穢多の秘訣じゃ。

丑松（全員）　おとっさん、おとっさん。

牛藤村3　丑松は自らの叫び声で、夢から目を覚ましたのである。

牛神　迷いと葛藤の中に、別れと苦しみの懐古園。
黄金の寅が、独り侘しく草笛を聴く。
嗚呼、桜の花よ。

【8】

牛藤村1　月曜の朝早く校長は小学校へ出勤した。

牛藤村2　応接室の側の一間を自分の部屋と定め、毎朝授業の始まる前には、

牛藤村1　そこに閉籠るのが癖。

牛藤村2　それは事務の支度をする為でもあったが、また一つには職員達の不平と、煙草の臭気を避ける為でもあった。

牛藤村1　戸を叩くものが有る。

牛藤村2　その音で、すぐに校長は勝野文平ということを知った。

牛藤村1　校長はこうして、お気入りの教員から報告を聞くのである。

牛藤村2　いつの間にか二人は丑松の噂を始めた。校長。

牛藤村3　勝野君。君は、妙なことを言ったね。どうも君の話は要領をえず、解りにくい。

牛藤村1　勝野文平。

牛藤村3　一生の名誉に関わることを、迂闊にはしゃべれないじゃ有ませんか。まあ、事実だとしたら瀬川君は学校にいられなくなるでしょう。

牛藤村2　校長。

牛藤村3　誰から彼のことを聞いたのかね。

牛藤村1　勝野文平。

牛藤村3　妙な人から聞きました。まあ代議士にでも成ろうという位の人物ですから、無責任なことを言う筈も有ません。

牛藤村2　校長。

牛藤村3　代議士にでも？高柳利三郎か。益々、気になる。はっきり言いたまえ。

牛藤村1　勝野文平。

牛藤村3　わかりました。ちょっとお耳を拝借。ヒソヒソヒソ。

牛藤村2　校長。

牛藤村3　まさか！瀬川君が穢多だとは、夢にも思わなかった。
お志保？明治三十二年。島崎藤村は小諸義塾の英語教師として小諸に赴任し、六年間暮らしました。
結婚して、子も授かります。この頃からそれまでの詩作から散文へと転回していきます。
そして、小諸や千曲川一帯を描写した「千曲川のスケッチ」を書きました。
島崎藤村が「破戒」を書き始めたのもこの頃からです。
藤村は小諸で何を感じて「破戒」を書き始めたのでしょうか？
町の田が戸惑いつつ現れた朝。藤の澤は酒に、呑まるる。
我。迷いの中に、揺蕩う。知らぬ間に蔵へ入らん。

牛神

【9】

丑松1　とある店の横手に、貼付けてある広告が目についた。

丑松2　見ると政見を発表する会で、猪子先生の名前も一緒に書き並べてあった。

丑松3　会場は法福寺、その日の午後六時から開会するとある。

丑松1　日暮れを待って、人知れず猪子先生に逢いに行こう。

牛藤村2　こう考えて、蓮華寺に戻り部屋に居ると、奥様が入って来た。

牛藤村1　こんなことになりやしないか、と思って私も心配していたんです。

牛藤村2　と前置をして、奥様は昨宵の出来事を話した。

丑松2　日暮れ頃、お志保さんは郵便を出すと言って出たっきり、帰って来ないとのこと。

丑松3　箪笥の上に置いて行った手紙は奥様へ宛てたもので。

丑松1　その中には、自分一人の為に様々な迷惑を掛けるようでは、義理ある両親に申訳が無い。などと書いてあった。

牛藤村1　奥様。心配で眠りませんでしたよ。今朝早く人を見させにやりました。父親さんの方へ帰って居るらしい。和尚さんだって眼が覚めましたろうよ、今度という今度は。

牛藤村2　奥様が出て行った後、しばらく丑松は古壁によりかかって居た。

丑松2　釣りと昼寝と酒より外には働く気のない父親。

丑松3　あの家へ帰ったとしても、果してこれから、お志保さんはどうなるだろう。

丑松1　言うに言われぬ悲しい心地になった。

牛藤村1　急に丑松は壁を離れた。廊下を通り抜け、蓮華寺の門を出た。

丑松2　猪子先生の事を考えながら、千曲川の畔へ出た。先生に自分のことを話そう。

丑松3　煙る夜の空気を浴び、やって来る人影を認めた。演説会が終ったところだ。

丑松1　皆、激昂したり、憤慨したりして、聴衆の群は雪を踏んでぞろぞろ帰って来る。

丑松2　猪子先生の演説は深い感動を町の人々に伝えたらしい。

牛藤村2　宿に行って逢おう。こう考えて歩いた。表に立って覗いて見ると、取込んだことでも有るのか人々が出入して居る。亭主であろう男を呼留めて、蓮太郎のことを尋ねた。すると亭主の口から意外な報知を聴いた。

丑松3　法福寺の門前で猪子先生が襲われた。

牛藤村1　丑松は亭主の後について法福寺へと急いだ。

牛藤村2　丑松が駈付けた時は、間に合わなかった。聞いて見ると、蓮太郎は石か何かで烈しく殴られた。何の抵抗も出来なかったらしい。血が雪の上を流れていた。

牛藤村1　思わず蓮太郎の耳へ口を寄せた。

牛藤村2　蓮太郎の蒼ざめた頬へ自分の頬を押し宛てて、呼んで見ても、

牛藤村1　月の光は青白く落ちて、死の思いを添えるのであった。

丑松1　先生、先生。

牛藤村2　そして亭主は、だらりと垂れた蓮太郎の手を胸の上に組合せた。

牛藤村1　戸板に載せ、上から外套を懸けて、宿に向けて出掛けた頃は、月も落ちかかって居た。

丑松2　さくさくと音のする雪を踏んで、猪子先生の一生を考えながらついて行った。

丑松3　我は穢多を恥とせず。その言葉が心に浮かんだ。

牛藤村2　自分は隠蔽そうとして、その為に一時も自分を忘れることが出来なかった。
自分で自分を欺いて居た。何を思い、何を煩う。

丑松（全員）　我は穢多なり。

丑松1　明日、学校へ行って打ち明けよう。
教員仲間にも、生徒にも話そう。

牛藤村1　丑松は新しい暁の近づいたことを知った。

【10】

牛藤村3　学校へ行く支度をする為、丑松は朝早く蓮華寺へ戻った。朝飯の後、机に向って進退伺を書いた。冬の朝日が射す障子を開けて、雪に包まれた町々を眺める。
家と家との間からは小学校の建物も、朝日をうけた。しばらく眺め入って居たが、胸に浮んだのは『懺悔録』第一章、『我は穢多なり』と書起してあったのを今更のように新しく感じて、告白するように繰返した。我は穢多なり。我は穢多なり。
蓮華寺の山門を出て、とある町の角で、向こうから巡査に引かれて来る男に出逢った。
黒の紋付羽織、顔こそ隠して見せないが、当世風の紳士姿は、高柳利三郎と知れた。町の人々は猪子蓮太郎を襲った犯人だと囁き合っている。
学校の運動場には雪が積上げてあった。

丑松2　玄関も、廊下も、広い体操場も、楽しそうな叫び声で満ちあふれて居た。

丑松3　授業が始まるまで、あちこちと廻って歩くと、大鈴の音が響き渡った。
湧上る胸の想いを制えながら、三時間目の習字を教えた。

丑松1　午後の課目は地理と国語だった。
五時間目には、国語の教科書の他に、習字の清書、作文の帳面、そんなも

戯曲 『破戒』

のを一緒に持って教室へ入った。
丑松1　教科書に取掛り、やがていつもの半分ばかり講釈したところで本を閉じた。
牛藤村1・2丑松。
丑松1　皆さんに少し話す事があります。
丑松2　と言って生徒たちを眺め渡す。
丑松3　私は皆さんに、別れを告げなければなりません。
牛藤村1・2丑松。
丑松1　皆さんも御存じでしょう。
丑松2　この山国に住む人々を分けて見ると、おおよそ五通りに別れて居ます。
丑松3　それは旧士族と、町の商人と、お百姓と、僧侶、それからまだ外に
丑松1　穢多という階級があります。
丑松2　もしその穢多がこの教室にやって来て、皆さんに国語や地理を教えるとしましたら、皆さんはどう思いますか、皆さんの父親さんや母親さんは、どう思いましょうか。実は、私はその卑賤しい穢多の一人です。
牛藤村1・2丑松。
丑松3　どうぞ私の言うこと、よく覚えて置いて下さい。これから五年十年と経って、皆さんが小学校時代のことを考える時に。あの教室で、先生に習ったことが有ったっけ。
牛藤村1・2丑松。
丑松1　あの穢多の教員が素性を告白けて、別れを述べた事を思い出して頂きたいのです。
私は卑賤しい生れでも、皆さんが立派な考えを御持ちなさるように、それを心掛けて教えた積りです。
牛藤村3丑松。
丑松2　皆さんが御家へ御帰りに成りましたら、どうぞ父親さんや母親さんに私のことを話して下さい。今まで隠蔽していた居たのはまった全くすまなかった、と言って、皆さんに告白けたと話してください。
丑松（全員）私は穢多です。
丑松3　不浄な人間です。
丑松1　許して下さい。
牛藤村2教室に居る生徒は総立ちに成った。
その時、大鈴の音が響き渡った。
教室の戸が開いた。他の組の生徒も教師も出て来た。
牛藤村1銀之助は職員室で、丑松のことを耳に入れ職員室を飛出した。
銀之助　玄関を横切って、左右に馳違う生徒の群を分けて、高等四年の教室に行ってみると、廊下のところに校長、教師五六人、中に文平も、その他高等科の生徒が瀬川君をとりまいて居た。君、大丈夫か？と話しかけると、瀬川君は懐から進退伺いを取り出して、こう言った。
丑松（全員）許してくれ給え。私は穢多です。
銀之助　君の決意はわかった。ここは任せて、帰りたまえ。
牛藤村3丑松は、銀之助に促され学校を出て行ったのである。
お志保？明治三十八年の四月。島崎藤村は、仕上げのすんでいない「破戒」の草稿を携え、幼い娘達や妻と共に、東京へ引っ越しました。上京間もない五月に、三女がハシカから急性脳膜炎をわずらい亡くなります。「破戒」が完成し、自費出版されたのは明治三十九年三月でした。直後の四月に次女が急性腸カタルで、六月には長女が三女と同じ経緯で亡くなります。「破戒」完成の前後、藤村は相次いで娘達を失います。
父親としての藤村は、どんな想いを抱えていたのでしょう？
浅間から吹き抜ける風に、黄金の稲穂が騒めく。
明かり染める谷に、武者が一瞬を捉える。
牛神　鈴の木は、ここに祈りを捧げ、総てを潤す石の井戸が、黒き岩を噴き上げる力の源なり。
牛、牛、牛。我は、牛神なり。

【11】

銀之助　瀬川君はきっと、お志保さんの所に行くはずだ。
牛藤村1銀之助は敬之進の住居を訪れた。
牛藤村2友達思いの彼は心配しながら、丑松を追って来たのであった。
牛藤村3銀之助。
銀之助　一寸伺いますが、瀬川君はこちらへ参りませんでしたか。
牛藤村3お志保。
お志保　さっき御帰りに成ました。
銀之助　さっき？
お志保　瀬川さんは御気の毒な様子でした。私は穢多です、許してくださいと言って、出て行ってしまわれました。
銀之助　あなたも驚いたでしょう。
お志保　いいえ、前に文平さんから聞きましたから。
銀之助　勝野君から？
お志保　瀬川さんのことを、それは酷い悪口を仰いましたよ。私は、気の毒でなりません。
銀之助　ほんとに？僕は、瀬川君を貴方に助けて頂きたいと思っているのです。
お志保　私に？
銀之助　ええ。瀬川君は貴方のことを大切に思っています。自分の素性を考え及ばない希望と。
それで貴方に、今まで隠していた素性を告白けたのです。瀬川君の真情が解りましたら、助けてやろうという考えを、持って下さることは出来ますまいか。
お志保　もう私は、その積もりです。
銀之助　まだ近くにいる筈だ、一緒に探しましょう。

【12】

牛藤村1丑松は、
牛藤村2雪の中を
牛藤村1千曲川に向かって、
牛藤村2歩いていった。
牛藤村3丑松。
丑松1　おとっさん。
丑松2　私は戒めを、
丑松3　破りました。
牛藤村1隠せ。いかなる目に遇おうと、いかなる人に巡り合おうと決っして打明けるな、
牛藤村2一時の感情や気の迷いで、この戒を破ったなら、世の中から捨てられたものと思え。
牛藤村3丑松。
丑松1　私は、世の中から捨てられる。
丑松2　生きるのが、怖い。
丑松3　世の中が、怖い。
丑松1　人間が、怖い。

丑松2　流れる血が、怖い。
牛藤村3丑松。
丑松3　私は殺されるのですか？
丑松1　なぜ、殺されるのです？
丑松2　人間ではないからですか？
丑松3　人間とは、何ですか？
丑松1　死ぬと、どうなるのです？
牛藤村3丑松。
丑松2　おとっさん、答えて下さい。
丑松3　おとっさん、寒い。
丑松1　独りは、寒いです。
丑松2　死んでも独りですか？
丑松3　私は、ここで
丑松（全員）死ぬのですね。
牛神　命は、この瞬間に生きている。
牛藤村1・2この瞬間の命こそが、
牛神　無限の可能性を秘めている。
牛藤村3銀之助。
銀之助　瀬川君！
牛藤村3お志保。
お志保　無事でよかった。
銀之助　助けに来たよ。
丑松1　助けに？
お志保　貴方は、もう独りじゃありません。
丑松2　独りじゃない？
お志保　そうですよ。
銀之助　僕たちは、仲間じゃないか。
丑松3　ありがとう。
牛神　運命の流れに運ばれる命。
時間と言う支流が出会い、重なり合って、やがて時代という大きな流れを形成していく。
命は、川の流れの様に出会いを重ねる事で、深みを増していく。
頼もしきかな命。牛、牛、牛。我は、牛神なり。
命を見つめる者なり。

【13】

牛藤村1これは過去の物語である。
牛藤村2過去には後の時代に取って、反省すべき事柄も多い。
牛藤村1過去こそ、真実であるからであろう。
牛藤村2真実とは何か、考え続ける事が、新たな未来を開くだろう。
牛藤村3そして瀬川丑松は、仲間達の助けを借り、新たな広い世界へ、踏み出していったのである。
お志保？瀬川さんや銀之助さんとの出会いが、私の生き方を変えました。
今、この瞬間を大切にして、私は生きています。
牛神　島崎藤村「破戒」。本日は、これにて終演といたします。

戯曲　新野物語

新野物語

お松　新野の庄屋の娘。恋をしている。
キヨ　その庄屋の奉公人。
忠助（ただすけ）津軽の農民。

キヨが庄屋の屋敷の前を掃除している。

キヨ　あ～
まんず今日も暑くなりそうだな～
お松さほい、早く支度せんと
遅れるに～……お松さ～
お松　は～い、ちょっと待っとってな～
キヨ　盆踊りの稽古するんだら～？
みんな待っとるに
お松　は～い
キヨ　（ブツブツ）まったく、お松さはのん
びりしとるな……（お松に）教える
人が遅くなったら子どもんとうも
ガッカリするら～もう明後日だに
お松　分かっとる分かっとる～
キヨ　文吉（ふみきち）もがっかりするに～

お松が小走りで出てきて。

お松　……おキヨさ、なにを言っとる！
キヨ　そうだら
お松　声が大きい！
お父ちゃに聞こえるに
キヨ　あんじゃねえら（大丈夫だ）、さっき
盆踊りの寄り合いに行ったに
お松　それにしたって、そんなでっけえ声
で言わんでもいいら
キヨ　旦那さまには言ってねえの？
お松　言うわけねえ
キヨ　なんで？
お松　お父ちゃはワシを帯川に嫁にやろう
としとるでな
お松さはそんなのいやなんだら？
（うなづく）
キヨ　じゃあさっさと文吉と子ども
作りゃあ旦那さまも文句言わねえら
お松　なに言っとるの、も～

お松、また屋敷に戻っていく。

キヨ　まだ支度できんのか？　盆踊りの稽
古であつまった衆、帰っちまうに
もうじきもうじき
お松　おしろいでも塗るんか？
キヨ　そんなことしねえ、髪をとかしてる
だけだに
お松　……同じ事だら

そこへ忠助がヨロヨロと歩いてきて倒れる。

忠助　盆踊り……
キヨ　きゃあ！
忠助　盆踊り、良いな……
お松　……どした？　お前さ、あんじゃね
えか？（お前さん大丈夫？）
忠助　が、がっこ、けろ（水をくれ）
お松　……え？
がっこ、け
忠助　が、こ……え？
がっこけ～、速ぐしてけじゃ～
お松　なに？　なんて？
速ぐしてけ～
忠助　なに言っとるか分からん、ちょっと
誰か、誰か～来とくれ
お松　がっこ～！
がっこってなに？
忠助　がっこってなに？

そこへお松がやってくる。

お松　キヨさ、どうした？
キヨ　お松さ、この人が……
お松　わあ！　ひでえ格好だ、どうした？
キヨ　ここ来て急に倒れたんだに
お松　そりゃえれえこった、行き倒れかも
しれん今年はおそろしく多いって言
キヨ　うで
何言っとるかサッパリ分からん
お松　なに言っとるか分からん？
キヨ　サッパリ分からん
お松　南蛮人か？
キヨ　いや違う
お松　同じ日本人ならさすがに分かるら
キヨ　いや分からん
お松　でもどう見たって日本人だに
キヨ　フントに（本当に）分からんで、
とにかく聞いてみたらいいに
お松　（苦笑）キヨさは大げさだな
キヨ　フントだに～
お松　（忠助に）お前さ、どうした？
どっから来たんだ？
忠助　がっこけ
お松　え？
がっこけ！
忠助　なに？　なんて？
お松　はえぐがっこけ～
忠助　わぁへずねくてまいじゃ
お松　（キヨに）なに言っとるか分からん！
キヨ　だからそう言ったら～
お松　……お前さ、がっこってなに？

忠助、喉に手をかけ、苦しそうに。

忠助　喉かわいだはんでがっこけろ～！

お松　あ、喉が乾いて水がほしいってこと？
忠助　（うなずきながら）喉乾いだ、がっこ
お松　ちいっと待っとってな（キヨに）
ほら分かったら
キヨ　ワシにはそれやらなかったに！
忠助　がっこ～
キヨ　分かった分かった、ちょっと待っと
れ、いま出してやるで
お松　キヨさ、すまんな
キヨ　（ブツブツと）そりゃ喉に手をかけた
ら喉渇いて水がほしいってわかるに、
最初からそれやったら分かったわ……

キヨ、ブツブツと言いながら去る。

忠助　う～
お松　（忠助に）がっこって水か？
忠助　なもちがう
キヨ　え？　ちがう？
忠助　がっこはがっこ
お松　だから水のことだら？
忠助　がっこ
お松　……お前さ、どっから来た？
忠助　こごは、お伊勢さまだが？
お松　え、なに？
忠助　こごはお伊勢さまだが？
お松　お伊勢さまって、お伊勢参りのお伊
勢さま？
忠助　んだ、伊勢神宮はこの辺だが？
お松　……お前さ、お伊勢参りへ行くんか？
忠助　んだ
お松　……ここは新野だに
忠助　……にいのだに？
お松　へえ
忠助　それって、お伊勢様に近えんだが？
お松　ここは信州だに
忠助　……しんしゅうだに？
お松　へえ
忠助　……それって、お伊勢さまに近いん
だが？
お松　い～や近くねえな、こっから歩いた
ら十日はかかるに
忠助　十日？
お松　へえ
忠助　……わいは～
お松　……わい、は？

忠助、頭を抱えてしまう。

キヨ、水を持ってくる

キヨ　ほれ、がっこ持ってきたに

忠助、水をもらいガブガブのみ、咳き込む

キヨ　ああ、もう！
お松　もう少しゆっくり飲まんと体に良く
ねえよ

忠助、ちびちびと飲んで一息つく。

忠助　わいは～
キヨ　……わい、は？
忠助　さだだ、さだだ、どすべ～
キヨ　（お松に）どうした？
お松　お伊勢さまはここかって聞いてきて
キヨ　お伊勢さま！？
お松　ここは信州だって言ったら、こんなだ
キヨ　お伊勢参りか？
お松　そうみてえだな
キヨ　えれえ違うとこに来たな。とにかく
ほれ、腹もへったら？　食うもん持っ
てきたに

忠助、差し出された食べ物をじ～っと見た後に、

忠助　いらねえ！
キヨ　なんだ腹へってねえのか？
忠助　へった！
キヨ　どっちだよ、へってんだったらほれ
食え

忠助、差し出された食べ物をもう一度
ジーッと見て。

忠助　うう……。ワ、一人だげ食えねえじゃ
お松　……一人だけ？
キヨ　いや、ワシらは腹へってねえからあ
んじゃねえ、ほれ食え
忠助　そんでねえ
キヨ　ん？　ちがうの？

戯曲　新野物語

忠助　村のみんなさ申し訳ねくて食えねえじゃ
お松　村のみんな？
キヨ　お前さの村のことか？
忠助　（うなづく）
キヨ　村のみんながどした？
忠助　……みんな腹へって動げねえ
キヨ　え？
忠助　なんも食うものなくて、みんな腹へって動げねえ
キヨ　食うもんとれんのか？
忠助　んだ。ここ何年も夏はずっと雨降ってコメも野菜もとれねがった
お松　そりゃえれえこった
忠助　おまげに今年は流行病で村中倒れでまって、それでワがお伊勢様に拝みに行く事になったんだ
キヨ　お前さ、一人で？
忠助　動けるのワしかいねがったがら
キヨ　……ほうか
お松　お前さ、どっからいらした？
忠助　津軽がら来た
キヨ　津軽？　津軽って……どこだ？
お松　津軽って一番北のはじっこの？
忠助　んだ
キヨ　そんなとこからいらしたんか！？
忠助　（うなずく）
キヨ　……えれえ遠いな
お松　そんでなに言っとるか分からなんだのか
忠助　……みんな食うものねえのに、ワさ食うものど銭コ持だせでくれで……
キヨ　それだのにここと お伊勢さまじゃ、えれえちがうに。道に迷ったんか？
忠助　……途中で山賊さあった
キヨ　山賊？

忠助　銭も食い物も全部取られで殺されそうになったがら、逃げで逃げで逃げで、どこ向かってるんだがよく分がらなくなって、それでも逃げで逃げで逃げで、そしたらこごさ着いだ
お松　……おとましいな（かわいそうに）
キヨ　それはえれえ目にあったな。はーるかなんも食っとらんかったんだら。ほれ食え
忠助　村のみんな、へずねえ思いしてらのに、ワ一人だけ食えねえじゃ～
お松　……
キヨ　……
忠助　ワ、おっ母に約束したんだよ、お伊勢参りいって村のこと願掛けしてくるがらって、それだのに……うわ～どうしたらいいべ～
お松　……お母ちゃ、まめだか？（元気か？）
忠助　流行病にかかって死にそうだ
お松　……ほうか
キヨ　……お前さ、そんな事言っとったらほい、動けなくなって村にも帰（けえ）れんよ
お松　そうだな、とにかく食うもん食ってまめで村に帰らねえと
忠助　……うう
お松　お伊勢参りも大事だけんど、お前さが元気に帰らなんだらお前さのお母ちゃも村の衆も案ずるら
忠助　……食っていいのか？
キヨ　いいらいいら
忠助　……ホントに？
キヨ　そりゃいいに決まっとるら、★腹へったもんが食わんと

★忠助、キヨが話してる途中でムシャムシャと食い始める。

キヨ　……ほい話しまだ終わってねえけども
お松　もう少しゆっくり食え、んでねえと

忠助、食べ物を吐き出す。

キヨ　あ～あ
お松　ほらまた、ゆっくり食え
忠助　ああ、食い物無駄にしてまった！！
お松　いいらいいら、とにかくゆっくり食え
忠助　……オメだぢはやさしいな
お松　え？
忠助　途中の村はだれも食いもんくれなかったぞ
お松　周りの村はな、山が深くて田も畑もちょっとしか作れんでえれえんだ（大変なんだ）。

忠助　たしかに山ばっかりだな
お松　そうだら。ここはほれ、平ら（ていら）が多いで田も畑（はた）もたんとある。まわりに比べたら食い物とれるから
キヨ　あんじゃねえ
忠助　盆にゃすくいさが来るでな
キヨ　すくいさ？なんだそれ？
忠助　食いもんもらいに来る人。
キヨ　その人だぢにくいもんあげるのが？
忠助　そうよ。
お松　そうだに、盆には食うもんねえとひもじいら
忠助　んだな
お松　みんな楽しく盆踊りしてえからな
忠助　盆踊り、いいな。ワの村はもう何年もやってねえ
お松　なんで？
忠助　食いもんなくて盆踊りどころでねえ。
お松　ほうか
忠助　盆踊り、見てえな
お松　……見てえの？
忠助　んだ
キヨ　お松さほい、ちいと見してやりなえ？
お松　このお松さは歌も踊りも上手だにんだのが？
キヨ　ちょっとキヨさ、恥ずかしいでいっそ踊れんよ
忠助　今日もこれから子どもんとうに教えに行くんな
お松　んだば、ちょっとやってけいまここで？
忠助　んだ、やってけ
お松　いやだよ、恥ずかしい
忠助　ちょっとよちょっと
お松　ええ……
忠助　頼む、盆踊りもう随分見てねえはんで、やってけじゃ
お松　……じゃあ、ちいっとだけだに
忠助　おお、ありがとう！
お松　ちいっとな
忠助　あれ、しても笛だの太鼓がねえがここの盆踊りはいらねえ
キヨ　え？

ひだるけりゃこそ　すくいさにきたにたんとたもれやひとすくい

お松、すくいさを少し踊る。下の歌をキヨも歌う。
忠助、力が入らないながらも手をたたいて喜ぶ。

忠助　おお、いいな～大したもんだな
キヨ　たいしたもんだら
お松　まあ小せえ時からやっとるでな
忠助　そうなのか？
キヨ　ワシのお母ちゃが好きでな、子守歌代わりに聴いとったんな
忠助　そうなのか？
お松　お母ちゃが亡くなる時も念仏は嫌だ、唄がいいって言っとったでな
忠助　おっ母、死んだのか？
お松　ほう、病で死んだんな
忠助　そうが

間。

忠助　もっと見てえな、やってけ
お松　もうおしまい
忠助　いや、もっと見てえじゃ
キヨ　あさって盆踊りだで、それ見たらいいに
忠助　あさって？
キヨ　ほうよ。あさってから三晩から朝までやるで見てったらいいに
忠助　そんなにやるの？
キヨ　ほう
忠助　そんなにゆっくりしてられねえな、お伊勢様に行かねえと
お松　その体じゃすぐには無理だら、また倒れるに
忠助　でも村のみんなが待ってるはんでお前さ、まめになるまでここおったらいい
お松　……ごに？
忠助　そうさ
キヨ　お松さ、いいだか？
お松　お父ちゃにはワシから言っとくで。まめになるまでここにおって、それからお伊勢参りに行くか、津軽に帰るか決めたらいいに
忠助　……いいんだが？
お松　そうさ
キヨ　ここの旦那さまはやさしいぞ
忠助　そうなのが？
キヨ　そうさ。ウチの人が木こりでな、木の下敷きになって死んじまってな。わい
忠助　そんでワシ一人で子ども育てんといけんくなって、えれえことになっとったら、この屋敷で働かせてくれたんなわいは～
キヨ　……わいは～てそれなんなの？
忠助　わいははわいはよ、わいは～
キヨ　……わいは～
お松　だからほい、食うもんくって、はよまめになれ

戯曲　新野物語

忠助　ありがとう、ありがとう！

忠助、食べ物をめいっぱいほおばる。

お松　だからゆっくり食えって
キヨ　お松さ、盆踊りの稽古行かねえと
お松　あ、そうだ
キヨ　文吉にはよ～く手取り足取り教えんとな
お松　……もうキヨさ、屋敷の衆に聞かれたらどうするんな

忠助、食べ物をめいっぱいほおばって喉につまって苦しむ。
キヨとお松は気づかず話しをしている。

キヨ　だってほい、屋敷で知らねえ人はおらんら
お松　みんな知っとるの？
キヨ　そりゃそうだら、旦那さまの耳にも入っとるんでねえの
お松　え？
キヨ　盆にゃ親様お許しござる　踊り帰りが遅くともってな
お松　も～
キヨ　しっかり稽古してあげなんよ、文吉はお松さに教えてもらいてんだに
お松　そんなんじゃねえ
キヨ　あんれまあ、とぼけて。去年も同じこと言っとったに。覚えとる？
お松　……ほうだか？
キヨ　今年こさよっく言えよ、「文吉、お前さが好きだー」ってよ
お松　……
キヨ　な？
お松　ひゃ～
キヨ　なんならワシが、夜になったら床しいとくに
お松　よしてよもう
キヨ　いや、文吉は鈍いで、そんくらいせんと分からんに
お松　……そんなもんかね
キヨ　そんなもんよ。ワシなんかお父ちゃを草むら連れこんで押し倒してやったんだに
お松　ほうかほうか
キヨ　男はぼ～っとしてっからそんくらいせんと分からんのな。
お松　ほうか～
キヨ　まあ、ぼ～っとしすぎて木の下敷きになっちまったんな（笑）

キヨの笑いがどことなくものがなしい。

キヨ　お松さ、待っとるだけではいかんに。松とつけまい我が子の名をば……？
お松　……松は憂いものつらいもの
キヨ　だらあ
お松　……ほうだな
キヨ　とにかくほい、盆踊りの日に、いつ、どこで会うかだけは今日の内に決めておくんだに
お松　そうだな……わかった
キヨ　よし、がんばっといな！
お松　ああ、できっかな～
キヨ　あんじゃね、あんじゃね～今年の盆はおもしれえな～
お松　（咳払いしてから忠助に）じゃあ、お前さ、ワシはちょっと出かけてくるでな。あとはキヨさのいう事きいて休んどってな

忠助、首に手をかけ突っ伏している。

お松　……どしたお前さ、疲れたか？
キヨ　お前さ？
お松　なんだ、喉かわいたか？　がっこ持ってくるか？
キヨ　お前さ……お前さ……

お松、忠助をゆすってみるが、動かない。

キヨ　どした？
お松　……動かねえんだ
キヨ　え？

キヨ、忠助にかけより、体をゆする。
その後、口に手をあてる。

キヨ　息してねえ

二人、驚いて少し後ずさる。

お松　……さっきまであんなにまめだったのに
キヨ　……ホッとしたら力ぬけて、魂もぬけたんか

間。

お松　……はーるか何も食っとらんで、それでいきなり食ったら胃袋がたまげて死ぬ人おるってお父ちゃ言っとったな
キヨ　そうか
お松　……せっかくここまでたどりついたのにな
キヨ　夏でよかったに

お松　え？
キヨ　死なば夏死ねアボ蚊も鳴くに　蝉がお経読む木の裏でって言うからな、にぎやかでいいら
お松　……まあ、そうだな
キヨ　（忠助に）お前さ、山の中たった一人で、山賊に追いかけられてえれえ目にあったな……どこだか分からん山んなか走りまわって、食うもんもねえで腹もへって、ひもじかったな……ワシらが供養してやるで成仏しなんよ、な？
お松　……
キヨ　新野はな、行き倒れた人もみ～んな盆踊りで送ってもらえるでな、あんじゃないに。なんまいだ～なんまいだ～……。

キヨ　手を合わせ新野式の念仏を唱える。
お松　……
キヨ　人呼んでくるで
お松　ちいっと待っとって
キヨ　え？
お松　……もっと見てえって言っとったで
キヨ　え？

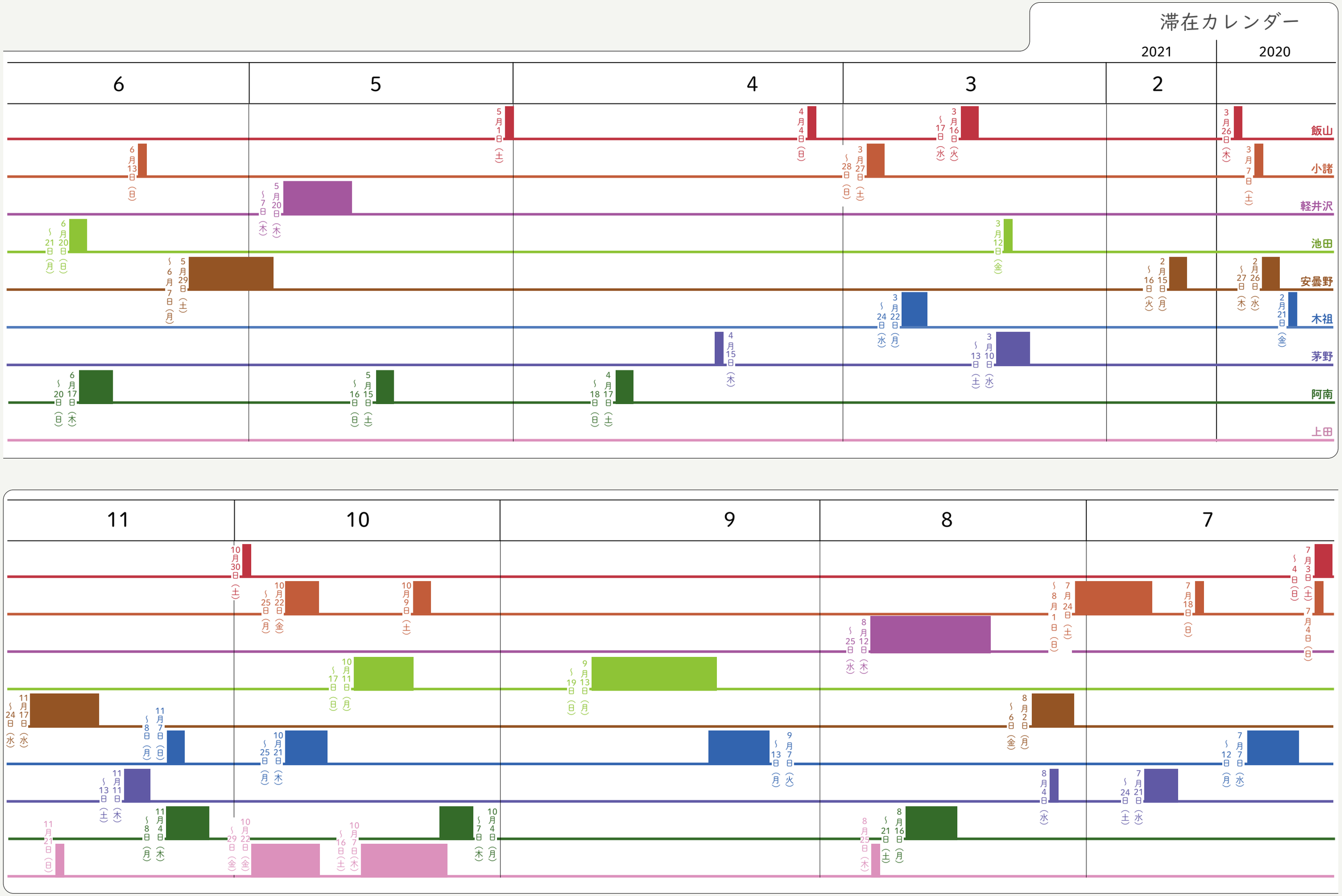
お松、扇子を取り出し、広げながら。

お松　ワシは念仏よりこっちだで
お松、「音頭」を唄う。キヨ、返しから加わる。

死なば夏死ねアボ蚊も鳴くに　蝉がお経読む木の裏で
お松、立ち上がり踊りも始める。キヨも共に踊る。
わたしゃ唄好き念仏嫌い　死出の山をも唄で越す。
わたしゃ唄好き唄わにゃならぬ　唄でこの身が果てるとも。

（終）

滞在カレンダー


2021
2020
6
5
4
3
2
飯山
小諸
軽井沢
池田
安曇野
木祖
茅野
阿南
上田
6月13日（日）
5月1日（土）
4月4日（日）
3月16日（火）～17日（水）
3月26日（木）
3月27日（土）～28日（日）
3月7日（土）
5月20日（木）～7日（木）
6月20日（日）～21日（月）
3月12日（金）
5月29日（土）～6月7日（月）
2月15日（月）～16日（火）
2月26日（水）～27日（木）
3月22日（月）～24日（水）
2月21日（金）
4月15日（木）
3月10日（水）～13日（土）
6月17日（木）～20日（日）
5月15日（土）～16日（日）
4月17日（土）～18日（日）
10月30日（土）
10月22日（金）～25日（月）
10月9日（土）
7月3日（土）～4日（日）
7月24日（土）～8月1日（日）
7月18日（日）
8月12日（木）～25日（水）
7月4日（日）
10月11日（月）～17日（日）
9月13日（月）～19日（日）
11月17日（水）～24日（水）
11月7日（日）～8日（月）
10月21日（木）～25日（月）
9月7日（火）～13日（月）
8月2日（月）～6日（金）
7月7日（水）～12日（月）
11月11日（木）～13日（土）
8月4日（水）
7月21日（水）～24日（土）
11月4日（木）～8日（月）
10月4日（月）～7日（木）
10月22日（金）～29日（金）
10月7日（木）～16日（土）
8月16日（月）～21日（土）
11月21日（日）
8月25日（木）

メディア掲載情報一覧

全体

[雑誌]2021 年 5 月 20 日（木）発行　『KURA』No.234
[WEB]2021 年 7 月 3 日（土）『ステージナタリー』
https://natalie.mu/stage/news/435175
[雑誌]2021 年 12 月 17 日（金）発行　『地域創造』vol.47
[WEB]2021 年 12 月 15 日（水）
長野県文化芸術情報発信サイト『CULTURE.NAGANO』
https://www.culture.nagano.jp/special/6810/

小諸

[新聞]2021 年 8 月 6 日（金）付　小諸新聞
[テレビ]2021 年 8 月　コミュニティテレビこもろ

池田

[新聞]2021 年 9 月 18 日（土）付　中日新聞　朝刊
[新聞]2021 年 9 月 18 日（土）付　信濃毎日新聞　朝刊
[新聞]2021 年 9 月 22 日（水）付　市民タイムス

安曇野

[新聞]2021 年 6 月 4 日（金）付　市民タイムス
[新聞]2021 年 6 月 6 日（日）付　中日新聞　朝刊
[テレビ]2021 年 6 月　ANC あづみ野テレビ
[ラジオ] 2021 年 8 月 24 日（火）　あづみ野エフエム放送
[新聞]2021 年 8 月 25 日（水）付　市民タイムス
[新聞]2021 年 10 月 29 日（金）付　信濃毎日新聞　朝刊
[テレビ]2021 年 11 月 19 日（金）　NHK 長野放送
[新聞]2021 年 11 月 24 日（水）付　市民タイムス

茅野

[新聞]2021 年 11 月 14 日（日）付　長野日報
[新聞]2021 年 12 月 1 日（水）付　長野日報

阿南

[新聞]2021 年 11 月 8 日（月）付　中日新聞　朝刊
[新聞]2021 年 11 月 9 日（火）付　南信州新聞

上田

[フリーペーパー] 上田映劇ジャーナル（vol.51）
2021 年 11 月号

各プロジェクト参加者数

会場：茅野市民館 マルチホール
参加者数：40 名

③『石川直樹トークイベント『虹のヘビと八ヶ岳』
～いままでの旅、これからの旅～』
日程：2021 年 11 月 11 日（木）18：30 開演
会場：茅野市民館 マルチホール
来場者数：93 名

④『森下真樹ダンスワークショップ ver.『虹のヘビと八ヶ岳』～いままでの旅、これからの旅～』
日程：2021 年 11 月 12 日（金）18：30 開始
会場：茅野市民館 マルチホール
参加者数：20 名

[阿南] うた・おどり・ものがたり
/ NIINO - AIR 2021

①短編演劇『新野物語』
日程：2021 年 11 月 7 日（日）
13：00 / 16：00 開演
会場：まるはち旅館
来場者数：35 名

[上田]【短期滞在研修プログラム】
生きることとアートの呼吸
～ Breathe New Life

①【短期滞在研修プログラム】
生きることとアートの呼吸 ～ Breathe New Life
日程：2021 年 8 月 25 日（水）、10 月 7 日（木）
～ 16 日（土）、22 日（金）～ 29 日（金）
会場：犀の角、北アルプス国際芸術祭、
長野県立美術館　ほか
参加者数：10 名

② シャンカル・ヴェンカテーシュワラン
「犯罪部族法」上映会
日程：2021 年 11 月 21 日（日）17：00 開演
会場：上田映劇、犀の角
来場者数：42 名

日程：2021 年 6 月 5 日（土）9：30 開始
6 日（日）13：00 開始
会場：豊科近代美術館前庭、鐘の鳴る丘集会所前庭、
碌山公園、久保田農村公園　ほか
来場者数：約 200 名

②『0 歳からのミニコンサート』
（安曇野市教育委員会主催）
日程：2021 年 11 月 19 日（金）
11：00 / 14：00 開演
会場：安曇野市穂高会館 講堂
来場者数：141 名

③ 安曇野でつくる新作ダンス公演
『イチニタスアヅミノノ』
日程：2021 年 11 月 23 日(火祝)
13：00 / 17：00 開演
会場：安曇野市穂高会館 講堂
来場者数：38 名

[木祖] 木曽アート・ダンス留学

①木祖村立木祖小学校でのワークショップ
日程：2021 年 7 月 12 日（月）1 ・ 2 限
会場：木祖村立木祖小学校
参加者数：2 年生 16 名

②『武井琴 コマ撮り映像展』
日程：2021 年 10 月 23 日（土）～ 11 月 7 日（日）
会場：木祖村向畑「土蔵」
来場者数：287 名
※木曽ペインティングス vol.05 向畑地区来場者数より。

[茅野] みちのちのダンススケープ

①『みちのちのダンススケープ
“ はじめの一歩 ” のサロン。』
日程：2021 年 6 月 30 日（水）18：30 開演
会場：茅野市民館 マルチホール
参加者数：12 名
②『What is『みちのちの』？
～知られざる茅野を語ろう会』
日程：2021 年 7 月 21 日（水）18：30
22 日（木祝）13：30 開演

[飯山] 禅と表現 行ったり来たり

①禅の発想をもとにした 3 日間 + α の表現 WS
『禅と表現 行ったり来たり』
日程：2021 年 7 月 3 日（土）13：00 ～ 17：30
4 日（日）13：00 ～ 16：30
10 月 30 日（土）13：00 ～ 18：30
会場：正受庵、飯山市文化交流館なちゅら
参加者数：10 名

[小諸] 果樹農園直売所シアター『破戒』

①果樹農園直売所シアター『破戒』試演会
日程：2021 年 7 月 31 日（土）17：30 開演
会場：ブルーベリーガーデン黒岩直売所
来場者数：29 名

②果樹農園直売所シアター『破戒』リーディング公演
日程：2021 年 10 月 24 日（日）
14：00 / 17：00 開演
会場：ブルーベリーガーデン黒岩直売所
来場者数：41 名

[軽井沢] 倒立と四足歩行の研究・軽井沢編

①『カラダのことがよくわかるようになる倒立ワークショップ』
日程：2021 年 5 月 23 日（土）、24 日 (日)
各回 14：00 開始
会場：信濃追分文化磁場油や ギャラリー・一進
参加者数：24 名

[池田] 北アルプス展望ダンスプロジェクト

①池田町立会染小学校および池田小学校での
アーティスト・イン・スクール
日程：2021 年 10 月 12 日（火）～ 15 日（金）
会場：池田町立会染小学校、池田町立池田小学校
参加者数：約 300 名

[安曇野] あまるほど踊る安曇野ダンスマッピング

① 安曇野をダンスでつないで往復する駅伝型公演
『うちそと駅伝』

茅野
みちのちのダンススケープ

石川直樹トークイベント
『虹のヘビと八ヶ岳』
～いままでの旅、これからの旅～
11 月 11 日（木）18 時 30 分
会場：茅野市民館マルチホール
同時開催
森下真樹ダンスワークショップ ver.
『虹のヘビと八ヶ岳』～いままでの、これからの旅～
11 月 12 日（金）18 時 30 分
会場：茅野市民館マルチホール
A4 サイズ

木祖
木曽アート・ダンス留学

『武井琴　コマ撮り映像展』
10月23日(土)～11月7日(日)
会場：木祖村向畑「土蔵」
ポストカードサイズ

軽井沢
倒立と四足歩行の研究・軽井沢編

『カラダのことがよくわかるようになる
倒立ワークショップ』
5 月 22 日 (土) ・23 日 (日)　14 時
会場：信濃追分文化磁場油や・
　　ギャラリー一進
A4 サイズ

小諸
果樹農園直売所シアター『破戒』

果樹農園直売所シアター
リーディング公演『破戒』
10 月 24 日（日）14 時・17 時
会場：ブルーベリーガーデン
　　黒岩直売所
A4 サイズ

果樹農園直売所シアター
『破戒』試演会
7 月 31 日（土）17 時 30 分
会場：ブルーベリーガーデン
　　黒岩直売所
A4 サイズ

飯山
禅と表現 行ったり来たり

禅の発想をもとにした 3 日間
＋αの表現ワークショップ『禅と表現行ったり来たり』
7 月 3 日（土）13 時
7 月 4 日（日）13 時
10 月 30 日（土）
会場：正受庵、飯山市文化交流館なちゅら
A4 サイズ

上田　【短期滞在研修プログラム】
生きることとアートの呼吸 ～ Breathe New Life

シャンカル・ヴェンカテーシュワラン
「犯罪部族法」上映会
2021 年 11 月 21 日（日）17 時
会場：上田映劇
ポスト・パフォーマンス・ディスカッション
会場：犀の角
A4 サイズ

《参加者募集》
【短期滞在研修プログラム】生きることと
アートの呼吸 ～ Breathe New Life
A4 サイズ

阿南
うた・おどり・ものがたり
/ NIINO - AIR 2021

短編演劇『新野物語』
11 月 7 日（日）
会場：まるはち旅館
　　(長野県阿南町新野 1480)
A4 サイズ

安曇野
あまるほど踊る安曇野ダンスマッピング

安曇野でつくる新作ダンス公演
『イチニタスアヅミノノ』
11 月 23 日（火祝）13 時・17 時
会場：安曇野市穂高会館 講堂
A4 サイズ

『0 歳からのミニコンサート』
11 月 19 日（日）11 時・14 時
会場：安曇野市穂高会館 講堂
A4 サイズ

安曇野をダンスでつないで往復する
駅伝型公演『うちそと駅伝』
6 月 5 日（土）、6 日（日）
A4 サイズ

WEB アナリティクス

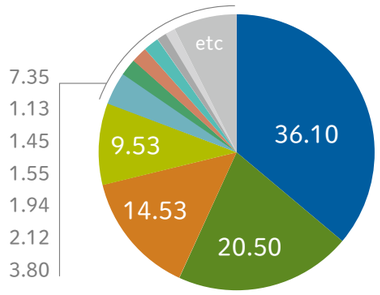
メインデータ

サイト　NAGANO ORGANIC AIR HP（https://noa.nagano.jp/ ）
集計期間　2021 年 6 月 1 日（火）～ 12 月 15 日（水）

ユーザー数（※ 1）	ページビュー数（※ 2）	ページビュー数 / セッション数（※ 3）	直帰率（※ 4）
8,337 人	39,134 回	3.37 回	38.61 %

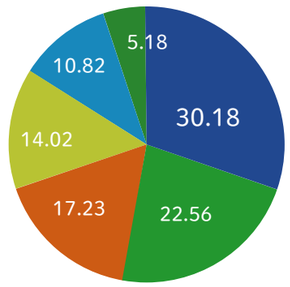
（※ 1）ユーザー数：サイトの訪問人数の総数
（※ 2）サイトが閲覧されたページの総数
（※ 3）1 回のサイト訪問時に閲覧されたページ数
（※ 4）サイトを 1 ページだけ閲覧して離脱したユーザーの割合

地域別 ユーザー数の割合



	人	%
長野	2,995	36.10
東京	1,701	20.50
神奈川	1,205	14.53
大阪	791	9.53
愛知	315	3.80
埼玉	176	2.12
千葉	161	1.94
兵庫	129	1.55
京都	120	1.45
北海道	94	1.13

年齢別 ユーザー数の割合



	人	%
25 ～ 34 歳	198	30.18
35 ～ 44 歳	148	22.56
45 ～ 54 歳	113	17.23
18 ～ 24 歳	92	14.02
55 ～ 64 歳	71	10.82
65 歳以上	34	5.18

ページビュー数と割合

	人	%
NAGANO ORGANIC AIR	トップページ	10,708	27.36
生きることとアートの呼吸 ～ Breathe New Life（上田）	8,621	22.03
禅の発想をもとにした 3 日間 + α の表現 WS『禅と表現 行ったり来たり』（飯山）	1,939	4.95
果樹農園直売所シアター『破戒』（小諸）	1,527	3.90
みちのちのダンススケープ（茅野）	1,397	3.57
果樹農園直売所シアター『破戒』試演会（小諸）	1,305	3.33
あまるほど踊る安曇野ダンスマッピング（安曇野）	1,289	3.29
禅と表現 行ったり来たり（飯山）	1,119	2.86
うた・おどり・ものがたり / NIINO - AIR 2021（阿南）	968	2.47
安曇野でつくる新作ダンス公演『イチニタスアヅミノノ』（安曇野）	952	2.43

あとがき

津村卓
長野県芸術監督団／NAGANO ORGANIC AIR プロデューサー

熱い思いを持った方々と出会えた監督団事業でした。最終年はこの事業のプロデューサーという大役を受け、全てに行くことは出来ませんでしたが、変わろうとする町や人と出会う度に、改めて長野県のポテンシャルを感じずにはおれませんでした。アーティストそしてアートの持つ力と町や人が持つ熱の出会いは始まったばかりです。そして難多きこの国の未来を支える長野県になるよう次の一歩を踏み出す思いが溢れました。延べ 6 年にわたり関わって頂いた皆様に感謝いたします。

野村政之
長野県県民文化部文化政策課／NAGANO ORGANIC AIR コーディネーター

NAGANO ORGANIC AIR。その全景が見えるのはこの記録集においてのみです。アーティストと地域がよい角度で出逢うこと、人心が有機的に結ばれ、想像以上の何かが起こるように運ぶことを優先し、これを損なうような過度の決めごとや計画、意味づけはなるべく控えてきました。余地がどのくらい許容され、創造の実や種をつけたのか。今、皆さんに映っている景色が、私たちがこの名前にどれだけ忠実に働いたのかという証しです。

藤澤智徳
（一財）長野県文化振興事業団／NAGANO ORGANIC AIR 事業担当

アーティストやホストの方々をはじめ、スタッフとして入ってくださったシアター＆アーツうえだの皆さん、また弊団バックオフィスの方々からの多大なる支援やご協力があり、無事にNOAを完了することができました。この場を借りて御礼申し上げます。NOAは2022年度も実施する予定です。新たなアーティスト、新たなホスト、そして新たな長野との出会いが今からとても楽しみです。どうぞご期待ください。

荒井洋文
（一社）シアター＆アーツうえだ／アシスタントコーディネーター

NOAに関わらせてもらい、これまであまりに広すぎて掴みどころのなかった県内各地を身近に感じられるようになりました。どこにどんな文化拠点があって、それぞれに異なる自然を背景に、誰がどんな活動をしているのかを実感をもって知ることができました。一つひとつの拠点について想像を膨らませていると、何かが生まれそうな予感がしてくるし、あそことあそこがつながったらとか、やたらと可能性を感じる今日この頃です。

石坂杏子
（一社）シアター＆アーツうえだ／アシスタントコーディネーター

生活の中、教育の中、伝統の中、人との出会いの中、様々な中に「アート」はあり、生まれ続けています。特別にされがちな「アート」を身近にある「アート」としての在り方を考え直す機会を、私たちに与えたのが今回のNOAだと思います。これからも「アート」がさりげなくだけれども誰かの中に残る「煌き」であって欲しいと願います。

伊藤茶色
（一社）シアター＆アーツうえだ／アシスタントコーディネーター

AIRは犀の角でも普段から馴染みのある事業ですが、滞在するアーティストと受け入れる土地とそこに暮らす人よって、どれも見た事のない独自の展開したことが印象的でした。アーティストが創作や発表の形式に捉われず、まずは「人」として出会う。何も決まってないからこそ、共に創る関係性が生まれたんだと感じています。各地に根を下ろしたこの関係が「いい作品」を作るだけでは終わらないものとして、根強く継続して欲しいです。

加藤亜弓
（一社）シアター＆アーツうえだ／アシスタントコーディネーター

関西で生まれ育ち、長野県に移住してきてまだ日の浅い私ですが、このプロジェクトを通してすっかり長野県の持つ文化の多様さの虜となりました。その豊かな文化の土壌が今まさに均一化の波に呑まれようとしていることを知り、波に必死に抗っている人たちがいることを知り、芸術がそういった人たちの力になれる可能性があることを知りました。なんとなく社会の中で肩身が狭い気がしながらも芸術活動にしがみ付いてきた私にとってこれは予想外で、嬉しいことでした。貴重な機会をありがとうございました。

村上梓
（一社）シアター＆アーツうえだ／アシスタントコーディネーター

犀の角のスタッフがNOAに携わることが決まる数週間前に長野県に移住した私にとって、この事業との出会いは幸運としか言えないものでした。創作の渦中で、また、自身の存在意義について考え続ける一人の人間としてのアーティストたちと出会い、地域と絡み合いながら表現者として生きるということがどういうことなのか、一緒に悩み、伴走しながらすぐそばでその息遣いを感じることができた時間は何ものにも変え難い宝物です。

NAGANO ORGANIC AIR

[プロデューサー]	津村卓 (長野県芸術監督団)
[コーディネーター]	野村政之（長野県県民文化部文化政策課文化振興コーディネーター）
[アシスタント・コーディネーター]	一般社団法人シアター & アーツうえだ (石坂杏子、伊藤茶色、加藤亜弓、村上梓 / 荒井洋文)
[企画制作]	一般財団法人長野県文化振興事業団 芸術文化推進室 (阿部精一、伊藤羊子、町田弘行、山田敬佳、藤澤智徳)
[主催]	一般財団法人長野県文化振興事業団、長野県
[共催]	飯山市 (飯山地域)、飯山市教育委員会 (飯山地域)、安曇野市教育委員会 (安曇野地域)
[提携]	茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造 (茅野地域)
[ロゴデザイン]	アイコ美術工藝社
[WEB デザイン]	0px.style(本藤雅彦)
[アーティスト]	柴幸男 (飯山)、石井幸一 (小諸)、渡邉尚 (軽井沢)、平原慎太郎 (池田)、...1[アマリイチ](安曇野)、武井琴 (木祖)、森下真樹 (茅野)、石川直樹 (茅野)、山田百次 (阿南)
［ホスト］	飯山市文化交流館なちゅら (飯山)、わかち座 (小諸)、信濃追分文化磁場油や (軽井沢)、池田町教育委員会 (池田)、安曇野市教育委員会 (安曇野)、一般社団法人木曽アーツ (木祖)、木曽ペインティングス (木祖)、茅野市民館 (茅野)、新野だら実行委員会 (阿南)、一般社団法人シアター＆アーツうえだ (上田)
[協力]	正受庵、京都芸術大学舞台芸術研究センター、(公財) セゾン文化財団、上田映劇、ネオンホール、北アルプス国際芸術祭実行委員会、木村典子、小諸高校演劇部 (劇団かもしかもなか)、岡村博文、キザム、軽井沢ニューアートミュージアム、小海町高原美術館、ほっちのロッヂ、佐藤壮生、松本市美術館、松本 PARCO、池田町立会染小学校、池田町立池田小学校、上土劇場、安曇野市髙橋節郎美術館、国営アルプスあづみの公園、下條広野、アトリエ宇 -sora-、クラフトショップ安曇野、秀太郎工房、(公財) 自然農法国際研究開発センター、木祖村立木祖小学校、近藤太郎、坂口佳奈、義家麻美、高柳政次、奥谷みき、伊豆牧子、コミン家、まるはち旅館、阿南町農村文化伝承センター、遠藤リョウノスケ　(敬称略・順不同)

NAGANO ORGANIC AIR ドキュメントブック

2022 年 3 月 24 日発行

企画・監修	一般財団法人長野県文化振興事業団、長野県
編集	野村政之 藤澤智徳
編集デザイン	村上圭一（CBP）
写真	藤澤智徳（その他は写真に記載）
発行	一般財団法人長野県文化振興事業団 芸術文化推進室 長野県長野市若里 1-1-4 県立図書館 1 階
WEB	https://noa.nagano.jp/

© 2021 NAGANO ORGANIC AIR ALL Rights Reserved.
Printed in Japan
著作権法上の例外を除き、本書の全部または一部を無断で
複写複製（コピー）することは、禁じられています。